

ほちがさわ 1

蜂ヶ沢Ⅰ遺跡

やまぐちこまごめ 1

やまぐちこまごめ 2

山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡

— 市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書 —

2014.3

岩手県宮古市教育委員会

ぼちがさわ 1

蜂ヶ沢Ⅰ遺跡

やまぐちこまごめ 1

やまぐちこまごめ 2

山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡

— 市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書 —

2014.3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

本州最東端に位置する岩手県宮古市には、640箇所
の遺跡が分布し、縄文時代から現代まで連綿と続く先人
たちの営みが数多く残されています。市教育委員会では
これらの遺跡を後世へ伝え残していくために周知と保
護・保存を行っております。開発工事等により発掘調査
された遺跡については記録として保存し、さらに出土し
た土器や石器などは体験学習や展示に活用しておりま
す。

本発掘調査報告書は、市道蜂ヶ沢線道路改良工事業
に伴い実施された蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口
駒込Ⅱ遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。

蜂ヶ沢Ⅰ遺跡は以前から土器が拾える遺跡として知ら
れ、今回の発掘調査では縄文時代の竪穴住居跡や遺物包
含層などの遺構が検出されました。遺物包含層から出土
した縄文時代前期の土器やアスファルト・石棒などの縄
文時代の生活をうかがい知ることができる遺物が特筆さ
れます。

これらの資料を基に宮古市における縄文時代の様相が
さらに明らかになるものと期待いたします。




最後になりましたが、調査にあたりまして御指導、御
協力いただきました関係各位に深甚なる謝意を表し、厚
く御礼申し上げます。

平成26年 3 月

宮古市教育委員会

教育長 伊 藤 晃 二

例 言

1. 本書は市道蜂ヶ沢線道路改良工事に伴う蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書は「発掘調査概要」と「本編」で構成され、「発掘調査概要」は主として調査報告の要旨、「本編」は通常の報告書である。
3. 調査主体は宮古市教育委員会（教育長 中屋定基（～平成 21 年度）、佐々木敏夫（平成 22 年度～平成 25 年度）、伊藤晃二（平成 25 年度～））である。発掘調査及び本書の執筆・編集は文化課の長谷川が担当し、その他、文化課担当職員がこれを補佐した。
4. 調査座標については任意で設定し、断面図における水準標高は海拔標高を示す。
5. 土色及び土質の観察は『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄編著 2001 年度版）を基準とし、図版中において土層観察表で表示した。遺物の観察は全て肉眼観察により行い、遺物観察表としてまとめている。
6. 図版中のスクリーン表示は図版中で定めない限り以下の通りである。
遺構図版 ・  石
遺物図版 ・  繊維が混入された土器 ・  磨石の機能面
7. 遺構図版の縮尺率は、原則として 1/50 と 1/30、全体図は 1/400 とした。また、各図版のスケール上に縮尺率を明示した。遺物図版の縮尺率は、土器類は 1/3、剥片石器は 2/3、その他の石器は 1/3 とした。
石器写真図版の縮尺率は、原則として 1/2 とした。それ以外については（ ）で縮尺率を明示した。
8. 調査に際し、次の方々からご教示いただいた。記して感謝申し上げます。
高木晃（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）、武田良夫、八木光則
9. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次 表目次

発掘調査概要

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査体制	
第2章 立地と環境	3
第1節 宮古市の位置と遺跡の環境	
第2節 周辺の遺跡	
第3章 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡	7
第1節 調査方法と調査経過	
第2節 基本層序	
第3節 竪穴住居跡・焼土遺構	
第4節 陥し穴・土坑・ピット	
第5節 遺物包含層	
第6節 遺構外出土遺物	
第7節 遺跡隣接地の試掘調査	
第4章 山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡	37
第1節 試掘調査方法と調査経過	
第2節 試掘調査概要	
第5章 まとめ	45
引用・参考文献	46
報告書抄録	70

図版目次・写真図版目次・表目次

図版目次

発掘調査概要

- 写真1 縄文時代の竪穴住居跡 検出状況
- 写真2 縄文時代の焼土遺構
- 図1 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 遺構配置図

本編

第1章 調査に至る経緯

- 第1図 遺跡位置図……………1

第2章 立地と環境

- 第2図 地形分類図……………4
- 第3図 地質図……………5
- 第4図 周辺の主な遺跡分布図……………6

第3章 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡

- 第5図 調査区位置図……………7
- 第6図 調査区全体図・基本土層図……………9
- 第7図 1号竪穴住居跡 平面図・断面図……………11
- 第8図 1号竪穴住居跡 ピット断面図……………12
- 第9図 1号竪穴住居跡 出土遺物(1)……………14
- 第10図 1号竪穴住居跡 出土遺物(2)……………15
- 第11図 1号竪穴住居跡 出土石器……………16
- 第12図 焼土遺構 平面図・断面図……………17
- 第13図 焼土遺構 出土遺物(1)……………18
- 第14図 焼土遺構 出土遺物(2)……………19
- 第15図 陥し穴 平面図・断面図……………20
- 第16図 1号土坑 平面図・断面図……………21
- 第17図 ピット 平面図……………22
- 第18図 ピット 断面図……………23
- 第19図 陥し穴・土坑・ピット 出土遺物(1)……………25
- 第20図 ピット 出土遺物(2)……………26
- 第21図 遺物包含層 分布範囲平面図・断面図……………27
- 第22図 遺物包含層 出土遺物(1)……………28
- 第23図 遺物包含層 出土遺物(2)……………29
- 第24図 遺物包含層 出土石器(1)……………30
- 第25図 遺物包含層 出土石器(2)……………31
- 第26図 遺構外出土遺物……………32
- 第27図 遺跡隣接地の試掘調査 トレンチ位置図……………33
- 第28図 遺跡隣接地の試掘調査 トレンチ断面図……………34
- 第29図 遺跡隣接地の試掘調査
Ⅰ トレンチ平面図・断面図……………35
- 第30図 遺跡隣接地の試掘調査 出土遺物……………35

第4章 山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡

- 第31図 試掘調査 トレンチ位置図……………39
- 第32図 試掘調査 トレンチ断面図(1)……………39
- 第33図 試掘調査 トレンチ断面図(2)……………41

第5章 まとめ

- 第34図 宮古市出土の主な石棒……………46

写真図版目次

- 1 市道蜂ヶ沢線周辺 航空写真(西→)……………49
- 2 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 本調査区調査前状況(東→)……………49
- 3 1号竪穴住居跡 検出状況(東→)……………50
- 4 1号竪穴住居跡 調査状況(西→)……………50
- 5 1号竪穴住居跡 遺物出土状況(西→)……………51
- 6 1号竪穴住居跡 完掘状況(西→)……………51
- 7 1号竪穴住居跡 p10 アスファルト塊出土状況(南→)……………52
- 8 1号竪穴住居跡 p10 アスファルト塊出土状況(南→)……………52
- 9 1号焼土遺構 遺物出土状況(南→)……………52
- 10 1号焼土遺構 完掘状況(南→)……………52
- 11 2号焼土遺構 検出状況(北→)……………52
- 12 2号焼土遺構 土器埋設状況(北→)……………53
- 13 2号焼土遺構 土器埋設状況(北→)……………53
- 14 2号焼土遺構 土器埋設状況(北→)……………53
- 15 2号焼土遺構 完掘状況(北→)……………53
- 16 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 本調査区東部 完掘状況(西→)……………53
- 17 本調査区東部 土層堆積状況(南西→)……………54
- 18 本調査区東部 遺構調査状況(西→)……………54
- 19 1号陥し穴 完掘状況(北→)……………54
- 20 2号陥し穴 埋土堆積状況(南→)……………54
- 21 3号陥し穴 埋土堆積状況(南→)……………54
- 22 3号陥し穴 完掘状況(北→)……………54
- 23 4号陥し穴 埋土堆積状況(北→)……………54
- 24 4号陥し穴 完掘状況(北→)……………54
- 25 1号土坑 埋土堆積状況(南東→)……………55
- 26 1号土坑 完掘状況(南東→)……………55
- 27 本調査区西部 ピット検出状況(西→)……………55
- 28 本調査区東部 ピット調査状況(東→)……………55
- 29 ピット1(P1) 石棒出土状況(南→)……………55
- 30 ピット1(P1) 礫出土状況(南→)……………55
- 31 ピット29(P29) 遺物出土状況(南→)……………55
- 32 土器埋設ピット 遺物出土状況(南→)……………55

33	試掘Aトレンチ(東→)……………	56
34	試掘Bトレンチ(西→)……………	56
35	試掘Cトレンチ(南→)……………	56
36	試掘Dトレンチ(東→)……………	56
37	試掘Eトレンチ(南→)……………	56
38	試掘Fトレンチ(東→)……………	56
39	試掘Gトレンチ(南西→)……………	56
40	試掘Hトレンチ(西→)……………	56
41	蜂ヶ沢I遺跡遺跡隣接地 溝跡 完掘状況 (北→)……………	57
42	1号溝跡・2号溝跡 検出状況(南→)……………	57
43	1号溝跡 堆積状況(西→)……………	57
44	2号溝跡 堆積状況(東→)……………	57
45	2号溝跡 完掘状況(東→)……………	57
46	山口駒込I遺跡 調査前状況(西→)……………	58
47	山口駒込I遺跡 調査前状況(東→)……………	58
48	試掘A・Bトレンチ 調査状況(東→)……………	58
49	試掘A-①トレンチ 土層堆積状況(西→) ……	58
50	試掘A-②トレンチ 土層堆積状況(東→) ……	58
51	試掘A-③トレンチ 土層堆積状況(東→) ……	58
52	試掘Bトレンチ 土層堆積状況(東→)……………	58
53	試掘Bトレンチ 土層堆積状況(東→)……………	58
54	山口駒込II遺跡 調査前状況(東→)……………	59
55	山口駒込II遺跡 調査前状況(東→)……………	59
56	試掘C-①トレンチ 土層堆積状況(東→) ……	59
57	試掘C-②トレンチ 土層堆積状況(西→) ……	59
58	試掘Dトレンチ 土層堆積状況(西→)……………	59
59	山口駒込II遺跡 調査前状況(西→)……………	59
60	試掘Eトレンチ 土層堆積状況(南東→)……………	59
61	山口駒込II遺跡 調査前状況(西→)……………	59
62	試掘Fトレンチ 土層堆積状況(西→)……………	60
63	山口駒込I遺跡 試掘調査状況(西→)……………	60
64	試掘Gトレンチ 土層堆積状況(北→)……………	60
65	試掘Hトレンチ 土層堆積状況(北→)……………	60
66	試掘Hトレンチ 土層堆積状況(東→)……………	60
67	蜂ヶ沢I遺跡 調査状況(西→)……………	60
68	蜂ヶ沢I遺跡隣接地 調査状況(東→)……………	60
69	市道蜂ヶ沢線工事完了状況(東→)……………	60
70	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(1)……………	61
71	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(2)……………	61
72	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(3)……………	62
73	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(4)……………	62
74	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(5)……………	63
75	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(6)……………	63

76	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(7)……………	64
77	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(8)……………	64
78	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(9)……………	65
79	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(10)……………	65
80	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(11)……………	66
81	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(12)……………	66
82	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(13)……………	67
83	蜂ヶ沢I遺跡 出土遺物(14)……………	67
84	蜂ヶ沢I遺跡 出土石器(1)……………	68
85	蜂ヶ沢I遺跡 出土石器(2)……………	69

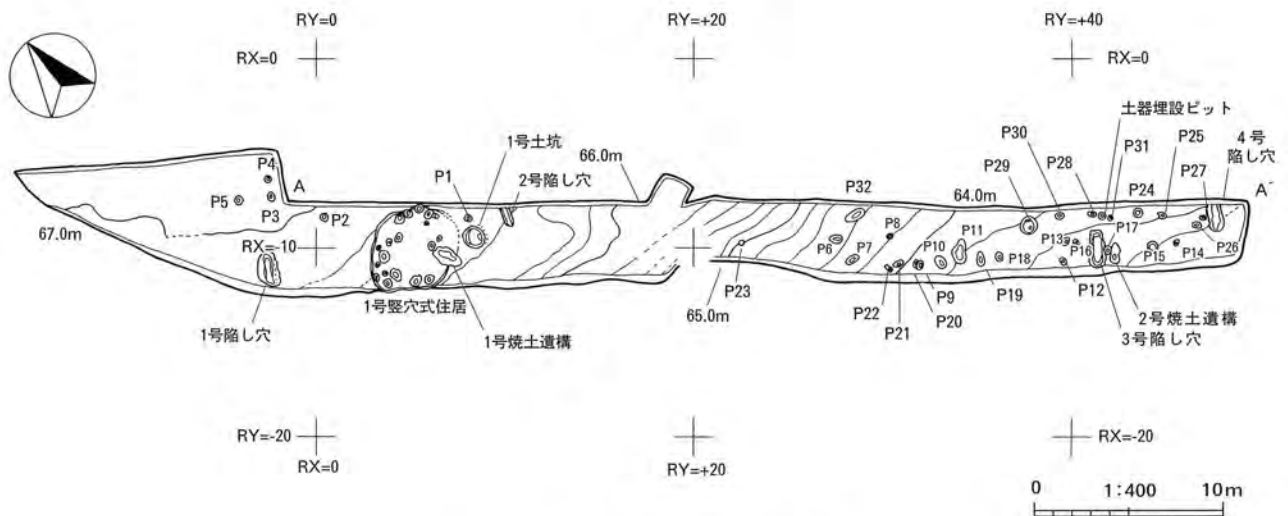
表目次

第1表	蜂ヶ沢I遺跡 土器観察表(1)……………	42
第1表	蜂ヶ沢I遺跡 土器観察表(2)……………	43
第1表	蜂ヶ沢I遺跡 土器観察表(3)……………	44
第2表	蜂ヶ沢I遺跡 石器観察表……………	44

発掘調査概要

ばちがさわ 1 いせき ちかない
 蜂ヶ沢 I 遺跡は宮古市近内第 5 地割に所在し、東西方向に流れる蜂ヶ沢により形成された緩斜
 面上に立地しています。発掘調査は市道改良工事に伴い実施されたもので、平成 16・19・21 年度
 に試掘調査（どのような遺構・遺物があるのかを調べる調査）、平成 17 年度に本調査（遺構・遺物
 の精査を行う本格的な調査）が行われました。

その結果、縄文時代の竪穴住居跡 1 棟、焼土遺構 2 基、陥し穴 4 基、土坑 1 基、ピット 32 基、
 縄文時代の遺物包含層が検出され、縄文土器・石器などが多数出土しました。特にピット内から出土
 した石棒は宮古市内でも類例が少なく縄文時代の生活を知る上で貴重な資料となります。



ばちがさわ 1 いせき いこうはいちず
 図 1 蜂ヶ沢 I 遺跡 遺構配置図



縄文時代の竪穴住居跡 検出状況
 写真 1



縄文時代の焼土遺構
 写真 2

本 編

第 1 章 調査に至る経緯

第 1 節 調査に至る経緯

蜂ヶ沢 I 遺跡・山口駒込 I 遺跡・山口駒込 II 遺跡は、宮古市近内第 5 地割字蜂ヶ沢及び宮古市山口第 9 地割字駒込地内に位置し、市道蜂ヶ沢線道路改良工事に伴い、平成 16・19・21 年度に試掘調査が行われた。その結果、蜂ヶ沢 I 遺跡内において竪穴住居跡や遺物包含層などの遺構・遺物が検出されたため、平成 17 年度に本調査を実施している。

蜂ヶ沢 I 遺跡及び遺跡隣接地の試掘調査は、平成 16 年 10 月 12 日から 11 月 4 日まで実施され、試掘トレンチ 11 箇所を設定し掘り下げを行っている。そのうち 2 箇所において遺構・遺物が確認されたため、本調査を平成 17 年 6 月 30 日から 9 月 12 日まで実施している。なお、平成 17 年 6 月 22 日付けで宮古市（建設課）より発掘届出が提出され、それを受け市教育委員会は平成 17 年 6 月 29 日付け教文第 39 号で岩手県教育委員会に進達している。岩手県教育委員会から平成 17 年 7 月 25 日付け教生第 8-69 号で「埋蔵文化財の発掘届出について」の通知があり、市教育委員会では平成 17 年 8 月 1 日付けで宮古市（建設課）に伝達している。

試掘調査終了後は平成 17 年 3 月 30 日付け教文第 538 号で試掘調査概要と本調査が必要になる旨の報告を行っている。また、本調査終了後も平成 18 年 3 月 24 日付け教文第 246 号で本調査概要を報告している。

山口駒込 I 遺跡・山口駒込 II 遺跡の試掘調査は平成 19・21 年度に実施された。平成 19 年度の試掘調査は、山口駒込 I 遺跡・山口駒込 II 遺跡の両遺跡の範囲内のため、文化財保護法第 94 条第 1 項の規定により平成 19 年 3 月 30 日付け建第 151 号及び第 152 号で宮古市（建設課）より埋蔵文化



第 1 図 遺跡位置図

財発掘の通知が提出され、市教育委員会では岩手県教育委員会に進達している。それを受けて、平成19年4月11日付け教生第22-2号で岩手県教育委員会から「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の勧告が出された。調査対象区間は約300mで、その区間にトレンチを6箇所（A～Fトレンチ）設定した。その内AトレンチはNo.1～3の3箇所、CトレンチはNo.1～3の3箇所において掘り下げを行っている。平成19年4月12日から5月14日まで実施し、試掘調査終了後は平成20年3月28日付け教文第1090号で試掘調査概要を宮古市（建設課）に報告している。

平成21年度の試掘調査は、山口駒込I遺跡の範囲内のため、文化財保護法第94条第1項の規定により平成21年9月3日付け建第47号で宮古市（建設課）より埋蔵文化財発掘の通知が提出され、市教育委員会では岩手県教育委員会に進達している。それを受けて平成21年9月24日付け教生第4-105号で岩手県教育委員会から「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の勧告が出された。調査対象区間は約60mで、雇用促進住宅の南側の敷地に当たる。その区間内にトレンチを2箇所（G・Hトレンチ）設定し遺構・遺物の確認を行っている。平成21年10月6日から10月13日まで実施し、試掘調査終了後は平成22年3月29日付け教文第575号で試掘調査概要を宮古市（建設課）に報告している。

本調査及び試掘調査の整理作業・報告書作成作業は平成22～25年度に実施している。

第2節 調査体制

<平成16・17年度 試掘調査・本調査>

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	中屋定基
調査総括	佐々木剛	宮古市教育委員会生涯学習課課長	(～平成16年度)
	関沢 敏	文化課課長	(平成17年度～)
調査員	竹下将男	〃	
	高橋憲太郎	〃	
	鎌田祐二	〃	
	加納由美	〃	
	安原 誠	〃	
	長谷川真	〃	(調査・報告書担当)
	阿部 豊	〃	
	江口邦泰	〃	

<平成19・21～25年度 試掘調査・整理作業>

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	中屋定基	(～平成21年度)
			佐々木敏夫	(平成22年度～平成25年度)
			伊藤晃二	(平成25年度～)
調査総括	元田秀一	宮古市教育委員会文化課長		(～平成20年度)
	上屋敷正明	〃	〃	(平成21年度)
	鳥居 茂	〃	〃	(平成22年度)
	竹下将男	〃	〃	(平成23年度～)
調査員	竹下将男	〃		
	高橋憲太郎	〃		
	鎌田祐二	〃		
	布谷義彦	〃		
	加納由美	〃		
	安原 誠	〃		
	長谷川真	〃		(調査・報告書担当)
	江口邦泰	〃		
	千葉剛史	〃		
	阿部 豊	〃		
	赤沼みちる	〃		
	前川友宏	〃		

<発掘調査作業員・整理作業員>

在原正利	扇田正義	大沢裕明	大下義文	越田真理子	坂本 晃
島田義道	鈴木祥一	鳥居義文	三浦 功	村松光子	米澤 豊

第2章 立地と環境

第1節 宮古市の位置と遺跡の環境

岩手県宮古市は岩手県沿岸部のほぼ中央に位置し、西は盛岡市、北は岩泉町、南は花巻市・遠野市・山田町と隣接し、東は太平洋に面している。市域の総面積は約1,259.89km²、人口約58,000人の漁業と観光の都市である。平成23年3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けたが、様々な支援を受けながら、現在復興事業が進められている。

市域の西側は標高1,917mの早池峰山を最高峰とする北上山地の山々が連なる一方、東側は太平洋を望み、特に北東方向に突き出るような形をもつ重茂半島の鮎ヶ崎は本州最東端となっている。陸中海岸国立公園に指定されている宮古市周辺の海岸は国指定名勝「浄土ヶ浜」や国指定天然記念物「崎山の蠟燭岩」「崎山の潮吹穴」などがある岩手県随一の景勝地であり、また市域西側の山間部は早池峰国立公園に指定されており、自然豊かな景観をみることができる。

蜂ヶ沢Ⅰ遺跡は宮古市近内第5地割地内に所在し、山口川の支流である蜂ヶ沢によって形成された山麓裾部の緩斜面に立地している。蜂ヶ沢Ⅰ遺跡範囲の東端部が今回の調査地点となる。調査区の標高は約67mで、現況は畑地として一部利用されていた。

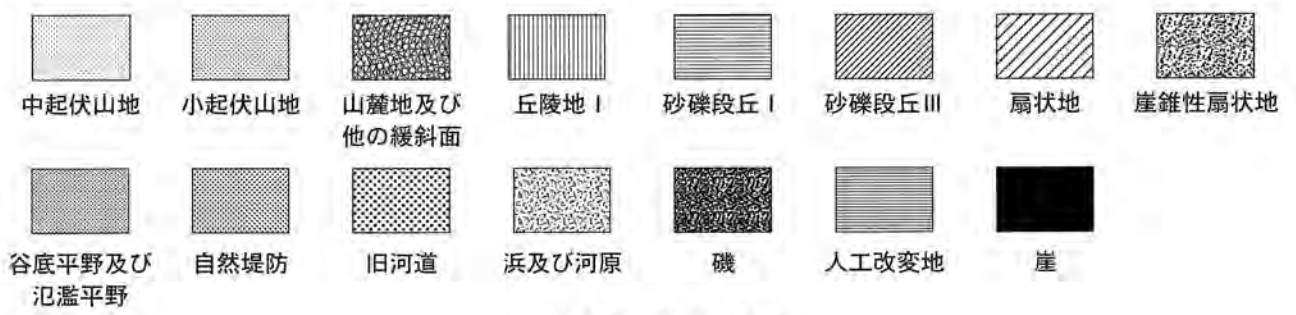
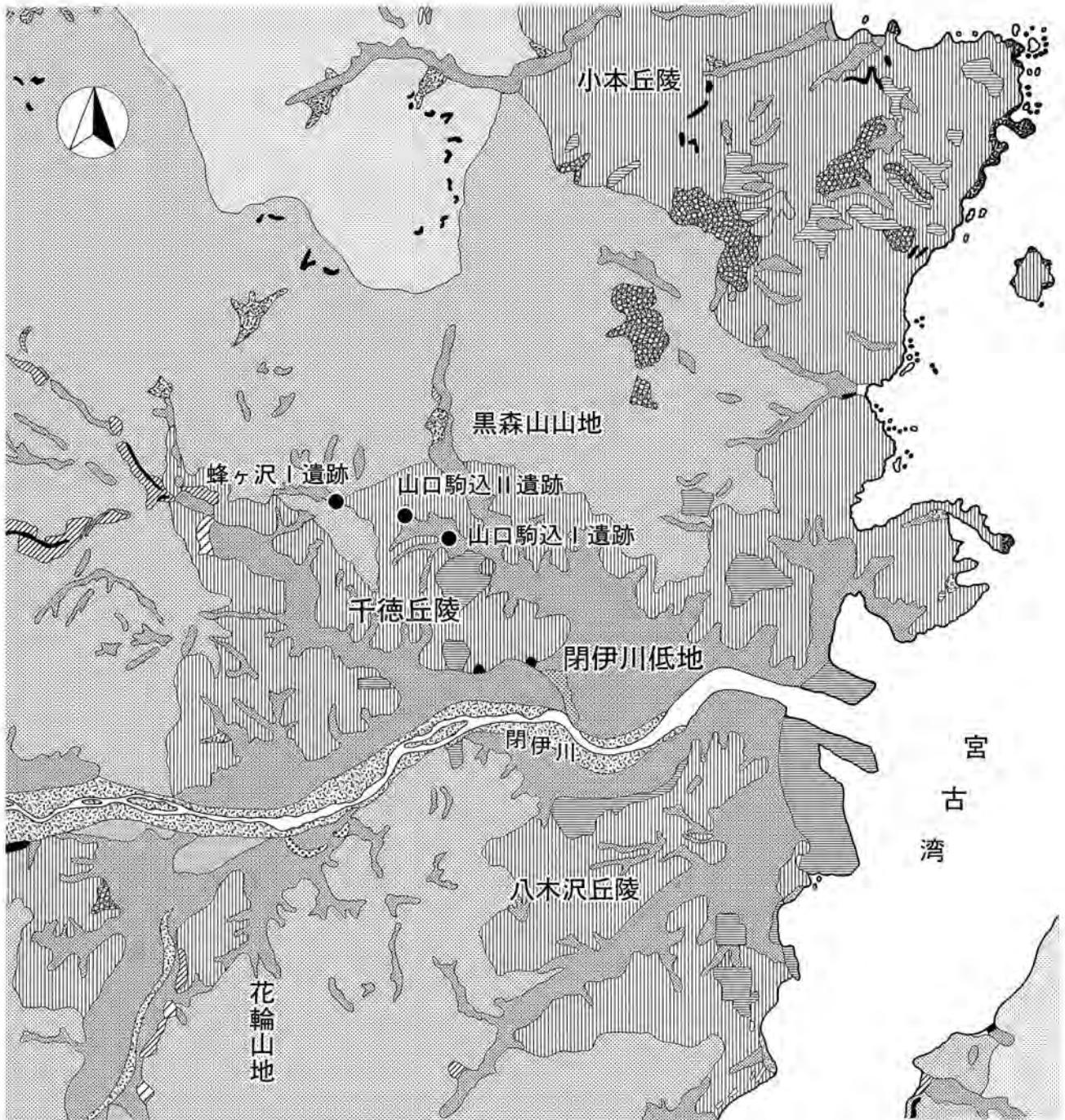
山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡は、宮古市山口第9地割地内に所在し、蜂ヶ沢下流域の沢沿いに広がる平坦面に立地する。現況は畑地や草地である。調査地点の標高は約19m～30mである。

第2節 周辺の遺跡

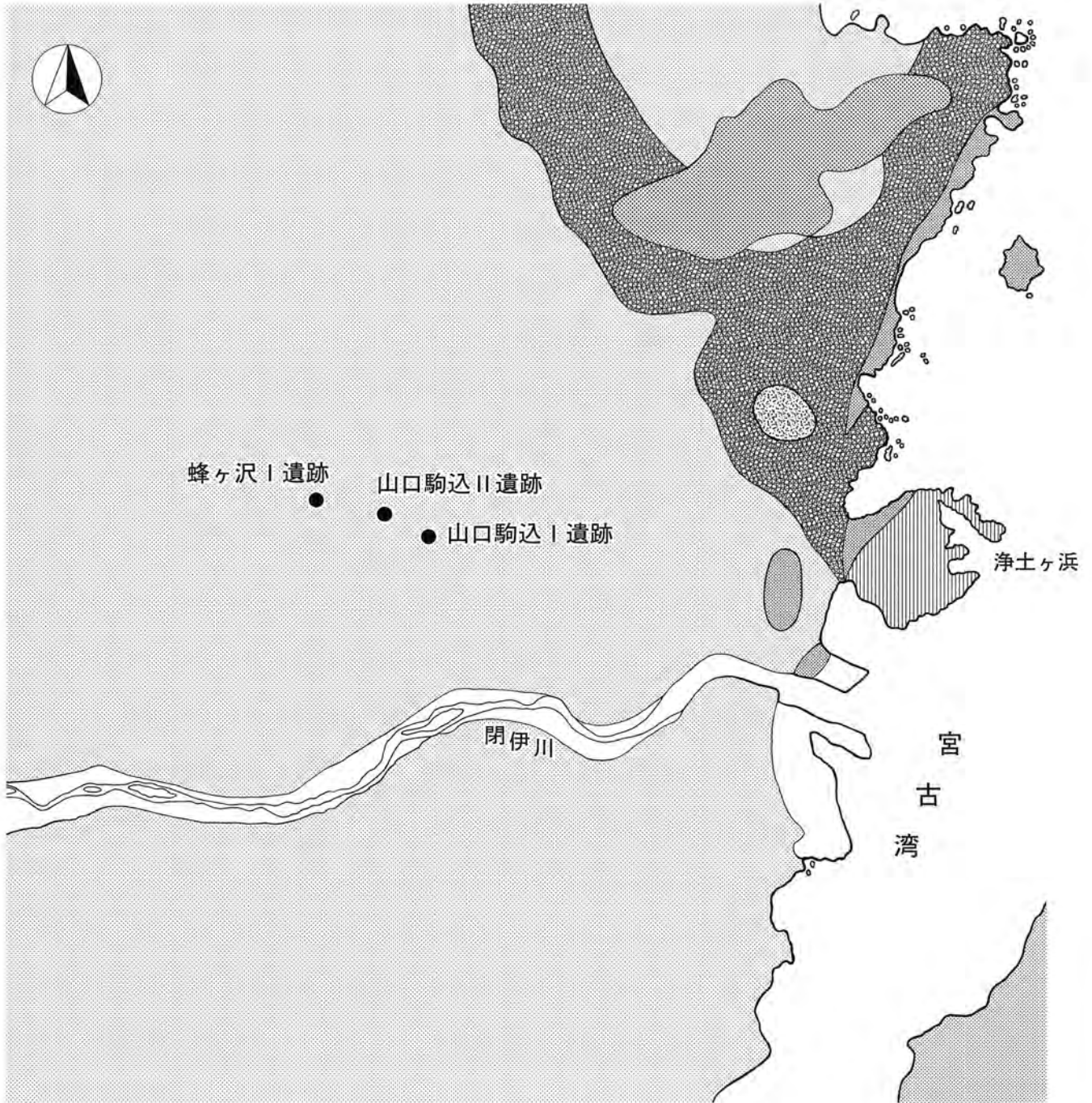
蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡の周辺には、縄文時代の大規模な集落である近内中村遺跡や山口川流域沿いの高根遺跡、牛沢遺跡、小平Ⅰ遺跡、山口館跡、天神山遺跡などの多くの遺跡が分布している。

近内中村遺跡は区画整理事業に伴い平成6年から継続的に発掘調査が行われ、縄文時代の大規模な集落跡であることが確認され、さらに古代・中近世の遺構も多数検出されている。全国的にも珍しい「巻貝形土器」の出土で知られている。高根遺跡は昭和63年・平成3年に老人保健施設と社会福祉施設建設に伴い発掘調査が行われ、縄文時代中期初頭から中期前半の竪穴住居跡や貯蔵穴、墓坑などが検出されている。縄文土器や石器も多く出土していることから、縄文時代中期初頭から中期前半の集落跡であることが確認されている。遺物では斧状土製品や環状土製品、黒曜石製石器の出土が特筆される。小平Ⅰ遺跡は平成8年に県道工事のため発掘調査が行われ、縄文時代中期中葉から末葉の複式炉を有する竪穴住居跡11棟が検出されている。縄文土器のほか、玦状耳飾りやキノコ状土製品などの遺物も出土し、縄文時代中期後半の集落跡であることが確認されている。牛沢遺跡は平成17年に倉庫建築に伴い発掘調査が行われ、縄文時代中期末葉の複式炉を有する竪穴住居跡が6棟検出されている。遺構に伴い多数の縄文土器や石器が出土し、特に縄文時代中期末葉の大木9式期の資料が豊富である。

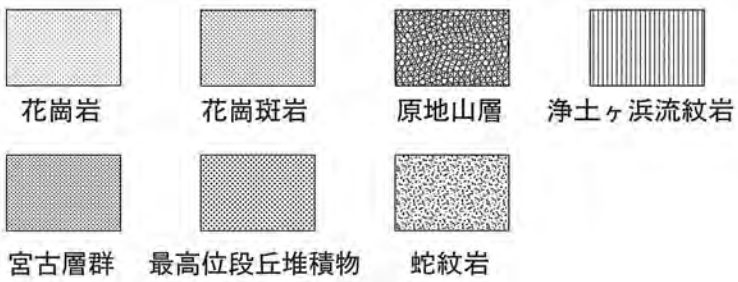
ちなみに蜂ヶ沢Ⅰ遺跡は以前から土器や石器が拾える遺跡として知られており、表採された石棒もあるといわれている。



第2図 地形分類図



0 1 : 50,000 2000m



第2図 地質図



番号	遺跡名	主な時代	遺跡の概要
1	鎌ヶ沢Ⅰ遺跡	縄文・古代	集落跡
2	山口駒込Ⅰ遺跡	縄文・奈良	集落跡
3	山口駒込Ⅱ遺跡	-	集落跡
4	牛沢遺跡	縄文(中期～後期)	集落跡
5	小平Ⅰ遺跡	縄文(中期～後期)	集落跡
6	高根遺跡	縄文(中期)	集落跡
7	山口館跡	古代(奈良・平安)、中世(戦国)	集落跡(古代)、城跡遺跡
8	孤崎遺跡	縄文、弥生(前期)、古代(奈良)	集落跡
9	青猿Ⅰ遺跡	縄文、古代(平安)	製鉄炉跡(古代)
10	長根Ⅰ遺跡	縄文、弥生(後期)、古代(奈良)	古墳群
11	黒森町Ⅰ遺跡	近世	屋敷跡、铸造遺跡
12	近内中村遺跡	縄文、古代、中世	集落跡

第4図 周辺の主な遺跡分布図

第3章 蜂ヶ沢I遺跡

第1節 調査方法と調査経過

実測・写真撮影・土層注記

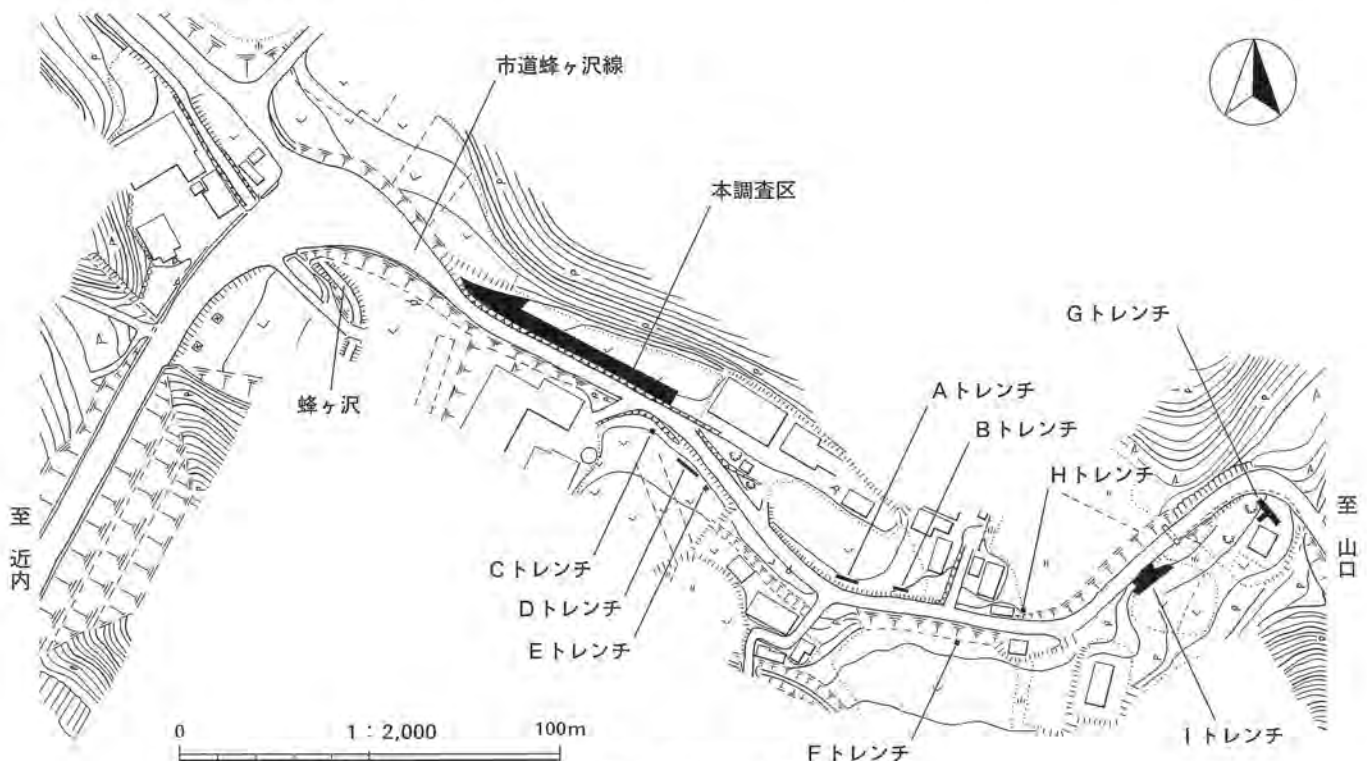
遺構平面図及び断面図の縮尺は1/20を基本とし、レベルは市道蜂ヶ沢線道路工事の基準杭をもとに調査区に基準高を設定した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

整理の方法

発掘調査終了後、遺構実測図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし第2原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

出土した遺物は現場での取上げ後、埋蔵文化財調査室で水洗いを行い、袋ごとに番号を付した。それを基に遺物台帳を作成し、整理作業の基本台帳とした。袋内における遺物の接合後ホワイトカラーによる注記を経て、さらに遺構や地点ごとに接合を行った。

本報告書に掲載されている遺物は、整理作業の中で設定した基準に基づき選別したものである。その選別の基準は以下のとおりである。



第5図 調査区位置図

a. 土器類

土器の総数は、コンテナ（64 cm×40 cm×14 cm）で18箱分出土している。その中で、①口縁部や底部が良好に残存しているもの、②概ね破片の大きさが5 cm以上のもの、③時期決定できる特徴的な文様をもつものを抽出し、図化した。図化した遺物は計123点である。内訳は縄文土器120点、土師器1点、須恵器1点、土製品1点である。

b. 石器類

石器類は27点、重量3681.2 g出土し、全点について図化した。

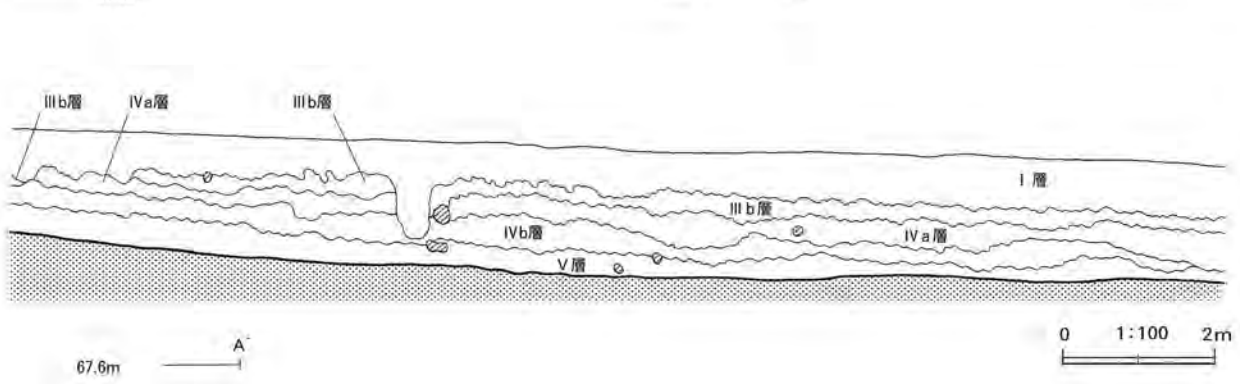
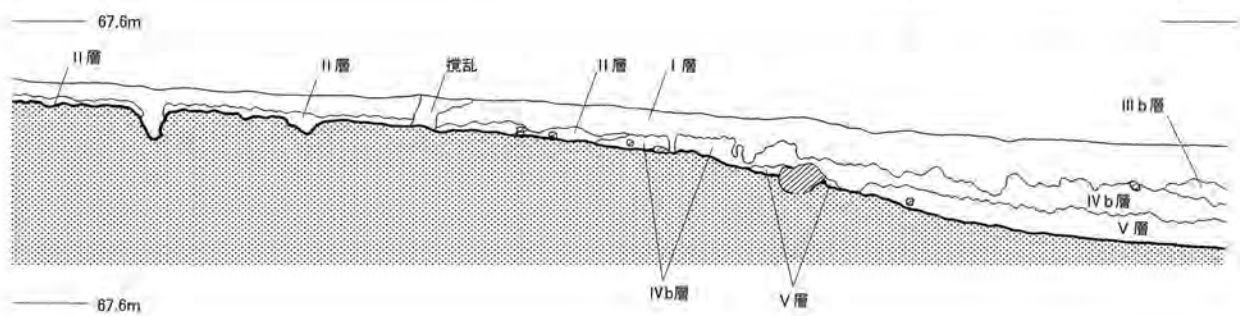
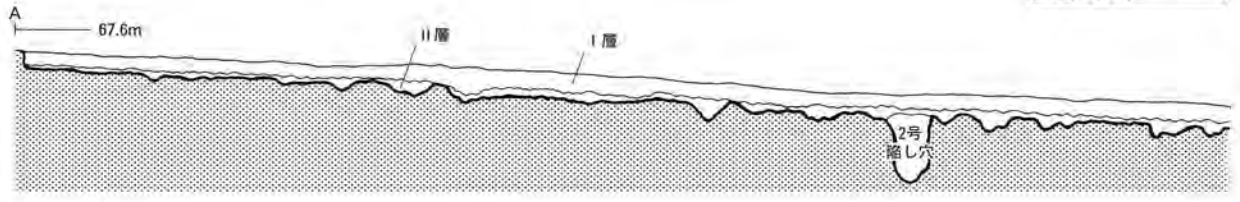
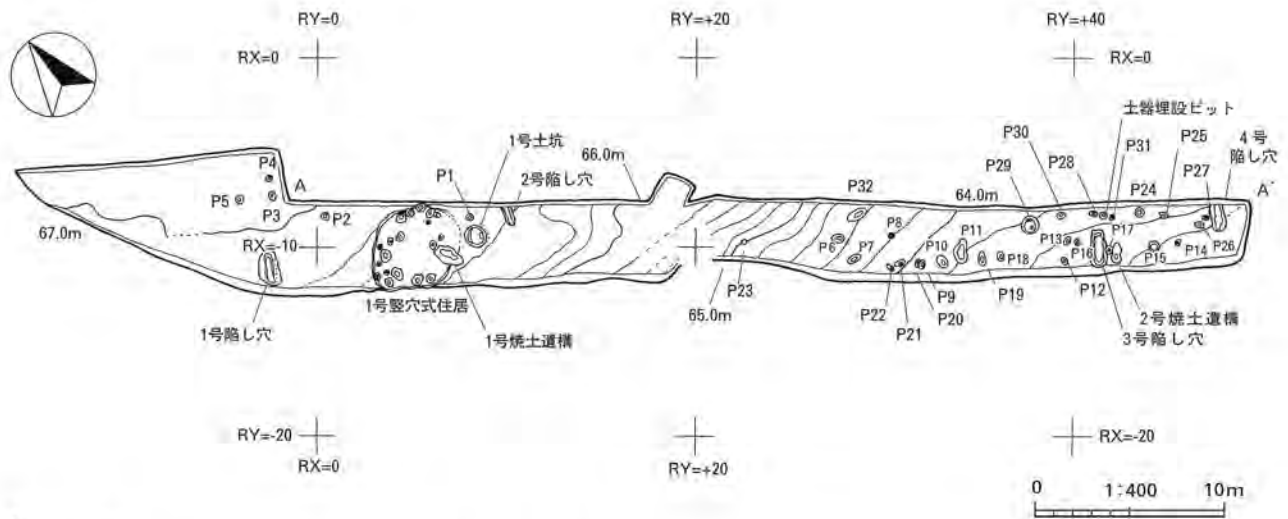
調査経過

<平成16年度 試掘調査>

- 10月12日 調査前現況の写真撮影を行い、試掘トレンチを11箇所（A～Kトレンチ）設定した。Aトレンチの掘り下げを開始した。
- 10月13日 Bトレンチの掘り下げを開始した。
- 10月15日 C～Kトレンチの掘り下げを開始した。
- 10月22日 C・D・J・Kトレンチの断面図を作成した。Iトレンチの溝跡を部分的に掘り下げた。
- 10月27日 トレンチ平面図を作成し、Bトレンチでは断面図を作成した。
- 11月4日 要本調査区域をシート・土嚢等で養生した。機材を撤収し、試掘調査を終了した。

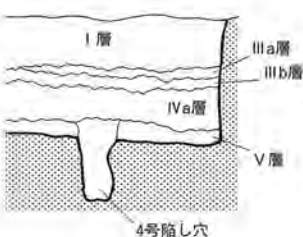
<平成17年度 本調査>

- 6月30日 現場保存のブルーシートをはずし、表土剥ぎを行った。掘削範囲・重機等について建設課と現場で協議。
- 7月1日 重機で本調査区東部の表土層・盛土層を掘り下げ、遺物包含層を検出した。
- 7月7日 本調査区西部の遺構検出状況写真を撮影した。畑の作物等の攪乱の掘り下げを行った。
- 7月8日 1号竪穴住居跡の掘り下げを開始した。
- 7月14日 1号焼土遺構の平面図を作成した。本調査区西部の平面図を平板を使って作成した。本調査区東部の遺構検出を行った。
- 7月20日 2号焼土遺構が検出され、精査を開始した。
- 7月25日 岩手県宮古振興局土木部現地研修。2号焼土遺構の平面図を作成した。
- 8月2日 試掘Iトレンチの現場保存ブルーシートをはずし、表土剥ぎを開始した。
- 8月5日 1号溝跡・2号溝跡の掘り下げを行った。
- 8月10日 工事の掘削範囲が広がることが判明し、建設課と現地協議。
- 8月12日 本調査区の追加調査分の表土層・盛土層を除去した。
- 8月24日 電柱移設工事立会。
- 8月29日 本調査区西部の完掘状況写真を撮影した。
- 9月9日 本調査区東部の完掘状況写真を撮影した。
- 9月12日 機材を撤収し、本調査を終了した。



基本土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
畑耕作土	I	10Y R2/3 黒褐色砂土	10Y R5/6 黄褐色埴土1%塊状	軟質、粘性なし
盛土層	II	10Y R2/3 黒褐色埴土	10Y R3/4 暗褐色埴土20%塊状 10Y R2/2 黒褐色埴土10%塊状	硬質、粘性あり 地山塊状に含まれる
旧表土層	III a	10Y R2/1 黒色埴土	10Y R2/3 黒褐色砂土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	III b	10Y R2/1 黒色埴土	10Y R2/2 黒褐色砂土1%斑状	軟質、粘性ややあり 縄文土層少量
遺物包含層	IV a	10Y R2/2 黒褐色埴土	10Y R3/4 暗褐色砂土1%塊状 10Y R3/3 暗褐色埴土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 1mm大の白色粒少量
	IV b	10Y R2/1 黒色埴土	10Y R3/3 暗褐色埴土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり 1mm大の白色粒微量
地山漸移層	V	10Y R2/3 黒褐色砂礫土	10Y R2/2 黒褐色埴土5%塊状	硬質、粘性あり



第6図 調査区全体図・基本土層図

第2節 基本層序

調査区内堆積土の土層観察は、本調査区の北壁東西セクションにおいて実施した。

- I層 : 畑耕作土層で調査区全域に堆積している。作物の根等による攪乱が広範囲にみられる。しまり・粘性がなく、ぼそぼそしている。
- II層 : 本調査区西部に堆積している盛土層である。地山塊が斑状に含まれる。II層の下層は地山面となっており、地山面まで掘削された後に盛土されたものと考えられる。
- III a層・III b層 : 本調査区東部に堆積し旧表土層と考えられる。黒色を呈する砂壤土及び埴壤土で、しまりがややある。III a層は本調査区東端部にのみ堆積している。本調査区の地山面は西から東の方向へ傾斜しており、そのため、本調査区西部において盛土工事の際に掘削されたと考えられる旧表土が東部においては残存していたと考えられる。縄文土器が少量含まれる。
- IV a層・IV b層 : 縄文時代の遺物包含層である。本調査区の東部にのみ堆積し、IV a層・IV b層に細別される。IV a層は黒褐色を呈しIV b層は黒色を呈するが、大きな相違はみられない。ともに1mm大の砂粒が含まれる。
- V層 : 本調査区東部にのみ堆積している地山漸移層である。黒褐色を呈する砂壤土で、粘性・しまりともにある。

第3節 竪穴住居跡・焼土遺構

竪穴住居跡は本調査区西部において1棟検出されている。炉跡は確認されなかったが、出土遺物から縄文時代に属すると考えられる。

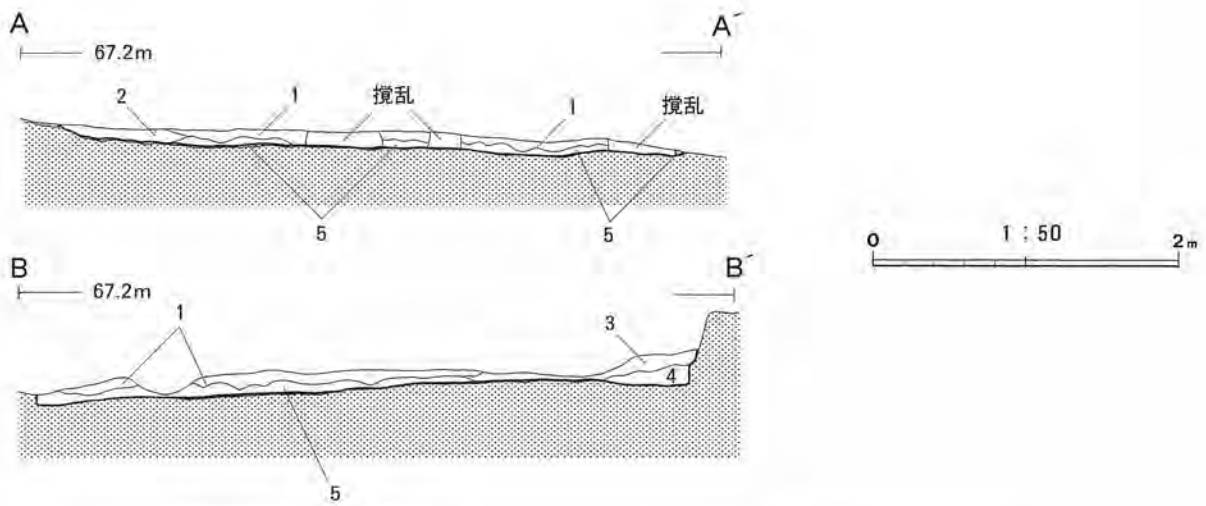
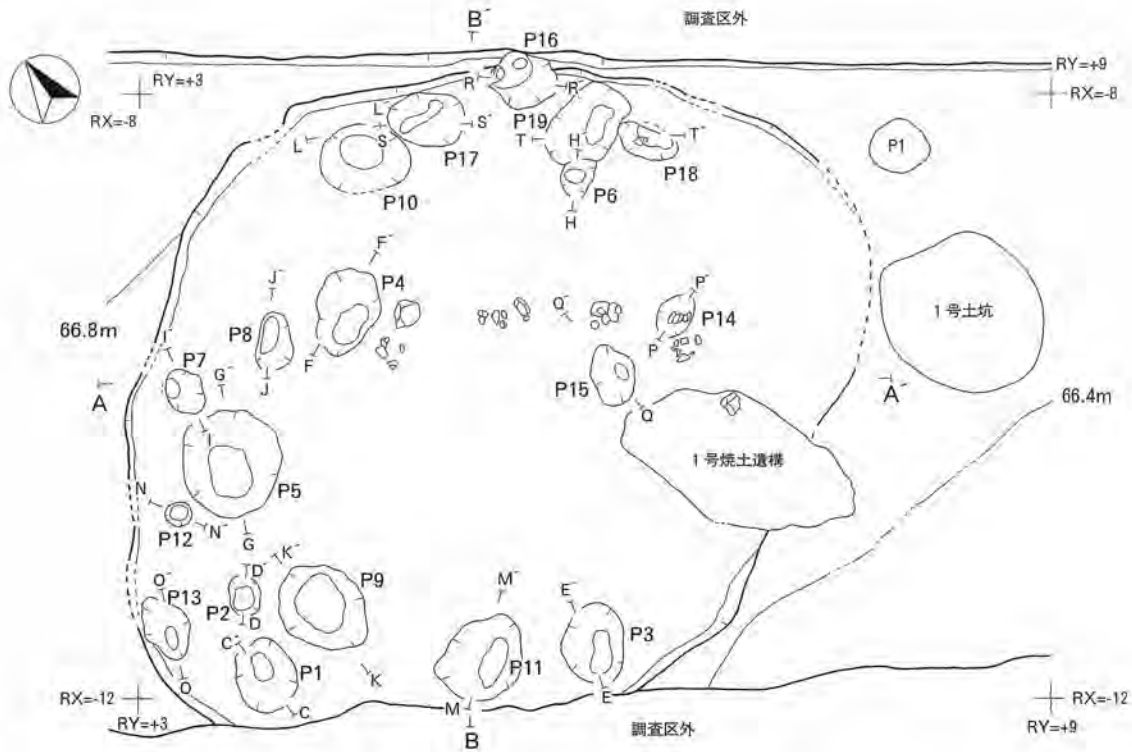
1号竪穴住居跡（第7～11図、写真図版3～8、70～73・82・84）

1号竪穴住居跡は本調査区西部で検出され、遺構検出面は地山面である。1号焼土遺構と重複し、本遺構の方が古い。

平面形は不整な円形を呈し、南端の立ち上がりは現市道蜂ヶ沢線の法面のため既に掘削されている。さらに東端は1号焼土遺構との重複により壁の一部が確認できなかった。規模は東西約4.7m、南北約4.3mを測り、現在まで畑として利用されていたため上面が掘削されており、壁の立ち上がりは約10cmである。炉跡も確認できなかった。

堆積土は5層に分けられる。床面直上に5層、壁際に2層～4層が堆積している。堆積土中には炭化物粒や地山ブロックが塊状に含まれている。

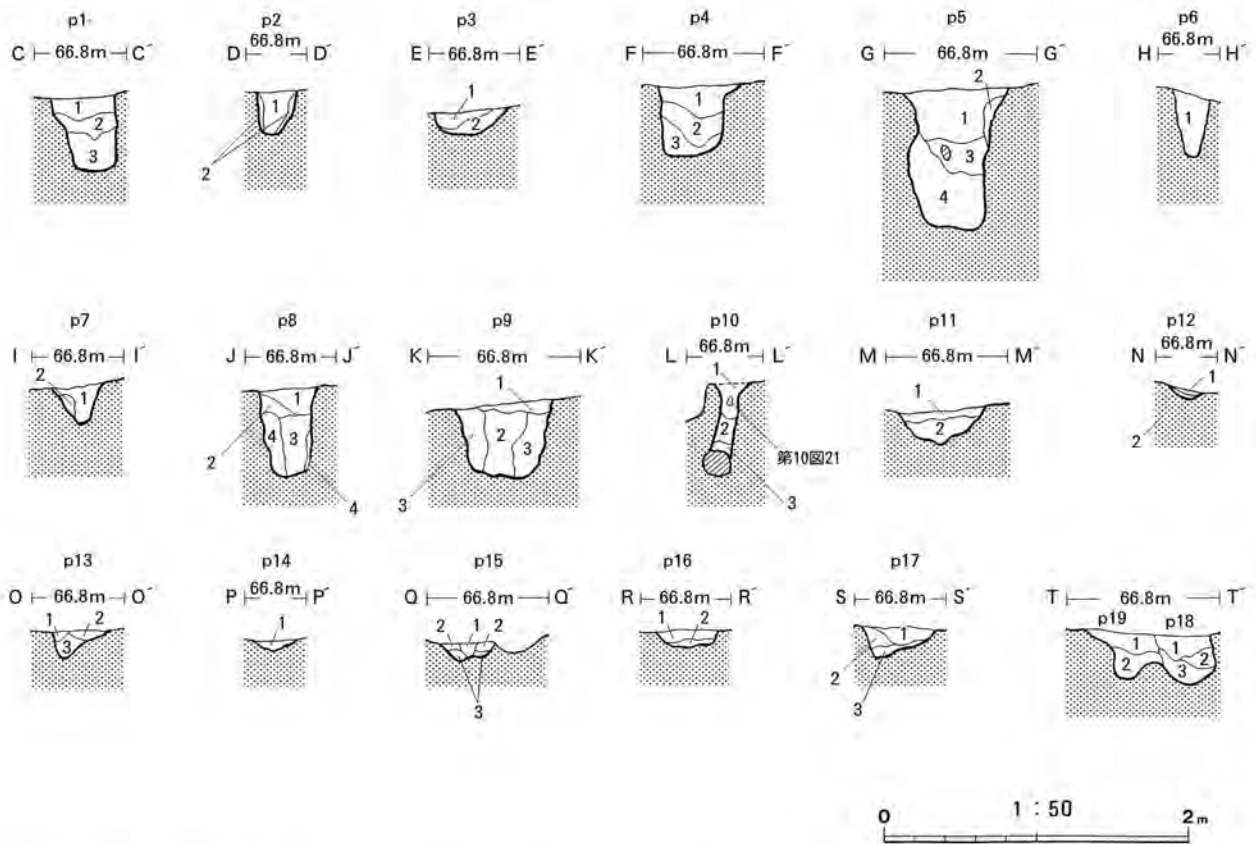
ピットは19基確認され、規模は径17cm～70cm、深さは6cm～90cmとばらつきがみられ、平面形も不整な円形が多い。その中で断面形や深さなどからp1・4・5・8・9は柱穴と考えられるが、これらは竪穴住居跡の西半部に集中している。竪穴住居跡の東半部は畑による攪乱がひどく、柱穴配置などは不明である。



1号竖穴建物跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
竖穴埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色埴壤土5%塊状 硬質、粘性あり 炭化物少量含
	2	10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土10%塊状 やや硬質、粘性ややあり 炭化物少量含
	3	10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色砂壤土10%塊状 硬質、粘性あり
	4	10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色砂壤土20%斑状 硬質、粘性あり 炭化物少量含
	5	10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色埴壤土20%塊状 やや硬質、粘性ややあり

第7図 1号竖穴住居跡 平面図・断面図



1号竪穴住居跡内ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	軟質、粘性ややあり
	2 10Y R4/6 褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R4/6 褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
p2	1 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R3/3 暗褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	2 10Y R4/6 褐色砂壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土1%塊状	硬質、粘性あり
p3	1 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土5%塊状	軟質、粘性なし
	2 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
p4	1 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり 炭化物少量含
	2 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土10%塊状 (フロック)	硬質、粘性あり 炭化物少量含
	3 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色埴壤土20%塊状	硬質、粘性あり
p5	1 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 炭化物少量含
	2 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色埴壤土10%塊状 10Y R3/4 暗褐色埴壤土5%塊状	軟質、粘性なし
	3 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色埴壤土5%塊状	軟質、粘性なし 10mm大の礫
	4 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし
p6	1 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土3%塊状	軟質、粘性なし 炭化物少量含
p7	1 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R3/3 暗褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
p8	1 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土30%塊状	硬質、粘性あり 炭化物中量
	2 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土40%塊状	軟質、粘性なし
	3 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土5%塊状	軟質、粘性なし
	4 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土10%塊状	軟質、粘性なし
p9	1 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R3/3 暗褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p10	1 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	2 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性なし
	3 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
p11	1 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R4/3 にふい黄褐色埴壤土 20%塊状	軟質、粘性なし
	2 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土10%塊状	軟質、粘性なし
p12	1 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R4/6 褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
p13	1 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R4/3 にふい黄褐色 埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R4/3 にふい黄褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
p14	1 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
p15	1 10Y R5/6 黄褐色砂壤土	10Y R2/2 黒褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
p16	1 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土40%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R5/6 黄褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
p17	1 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色埴壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色砂壤土20%層状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
p18	1 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土30%層状	硬質、粘性あり 炭化物微量含
	2 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色砂壤土 10%塊状・斑状	やや硬質、粘性ややあり
p19	1 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色砂壤土5%斑状	硬質、粘性あり 炭化物少量含
	2 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R5/6 黄褐色砂壤土1%塊状	硬質、粘性あり 炭化物少量含

第8図 1号竪穴住居跡 ピット断面図

遺物は縄文土器・石器が出土し、縄文土器は39点、石器は7点図示している。縄文土器の出土層位は床面（第9図1・2）、1層（第9図3～13、第10図14～20）、ピット内（第10図21～34）、検出面（第10図35～39）に分けられる。第9図1・2は同一個体ではないが、床面でつぶれた状態で出土している。ともにLR単節斜縄文が施文されている。第9図6はミニチュア土器でほぼ完形に近い。内外面ともナデ調整である。第10図21はp10から出土した小型の土器で、その内部には黒色を呈する塊が入っていた。表面観察や今までの類例からするとアスファルトの可能性が高い。ちょうど内面の底に張り付いた状態で出土しており、保管・保存の状況を示していると考えられる。第9図11・12、第10図26・29・33は胎土に繊維が含まれている。繊維の含まれている土器はピット内からも出土しているが、小破片で少数であることや前述の土層堆積状況などからすると、畑の耕作時に混入した可能性が考えられる。

第11図40～46は石器である。第11図40・41は石鏃で、第11図40は両面に一次剥離面が大きく残っている。第11図41は両面縁部に丁寧な調整剥離が施されている。第11図42は石錐で、細部調整により先端部を作り出しているがやや丸みを帯びている。第11図43は小形の磨製石斧で、刃部にあたる部分が欠損している。第11図44は打製石斧で両面に自然面を残しながら、両面側縁部に細部調整が施されている。第11図45・46は磨石で、片側縁部にのみ機能面である磨面がみられる。

本遺構は大半の部分が現代の攪乱を受けているが、出土遺物から所属時期は縄文時代中期と捉えておきたい。

1号焼土遺構（第12・13図、写真図版9・10、82）

1号焼土遺構は本調査区西部で検出され、遺構検出面は地山面である。1号竪穴住居跡と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形は楕円形を呈し、規模は長径1.54m、短径0.94m、検出面から底面までの深さは0.26mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。

堆積土は3層に分けられ、1層は黒褐色を呈する埴壤土である。2層・3層は暗赤褐色・赤褐色を呈する埴壤土で焼土層と考えられる。畑の耕作物により地山面まで攪乱されている部分がみられた。

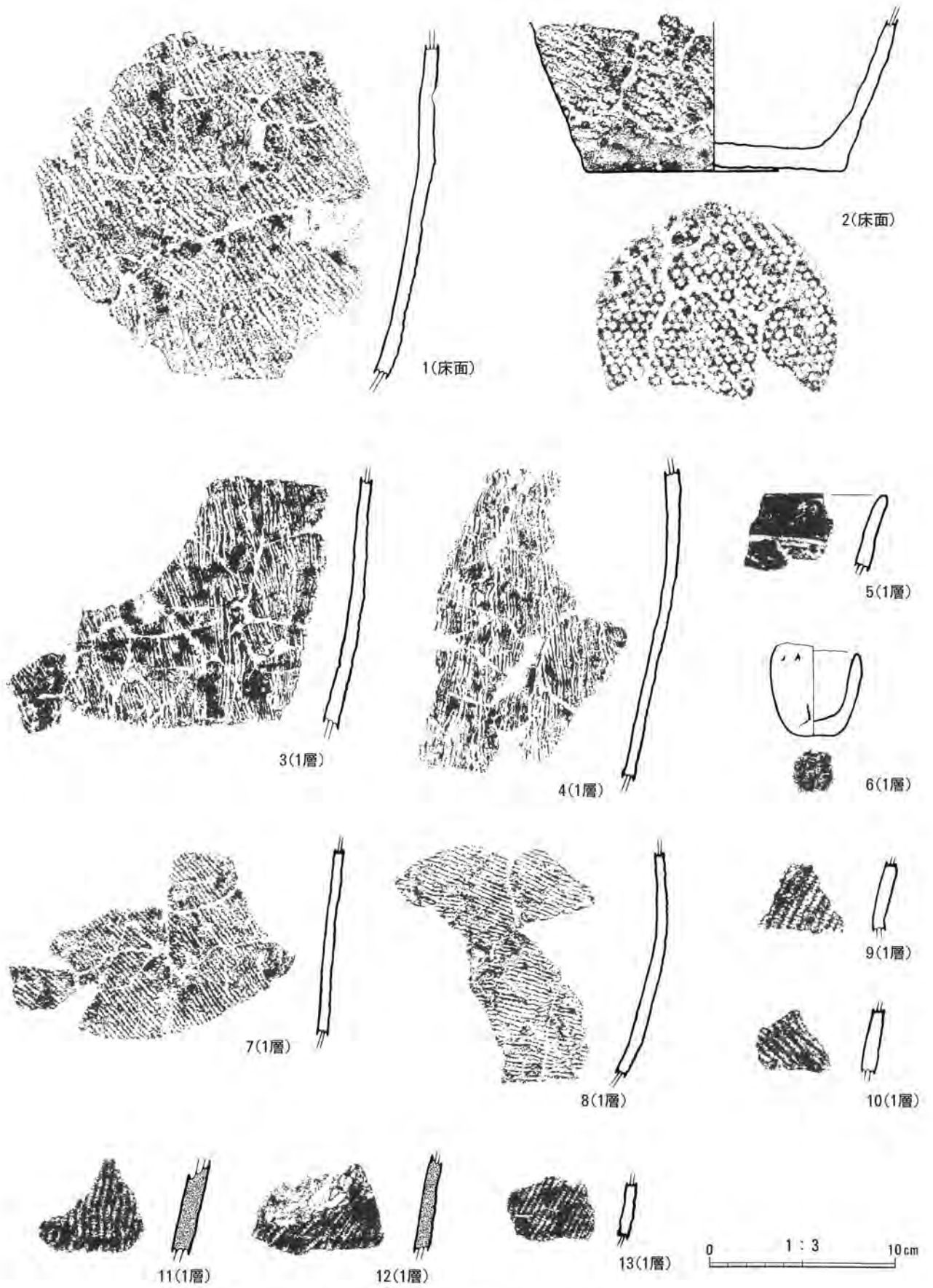
遺物は縄文土器が出土し2点を図示した。第13図1・2は縄文土器の底部から胴部にかけて残存し、外面には斜縄文が施されているが、磨滅のため詳細は不明である。ともに底部には網代痕が観察される。被熱のため土器表面は赤褐色を呈し、胎土はもろくなっている。

本遺構の所属時期は縄文時代と思われるが、詳細な時期は不明である。

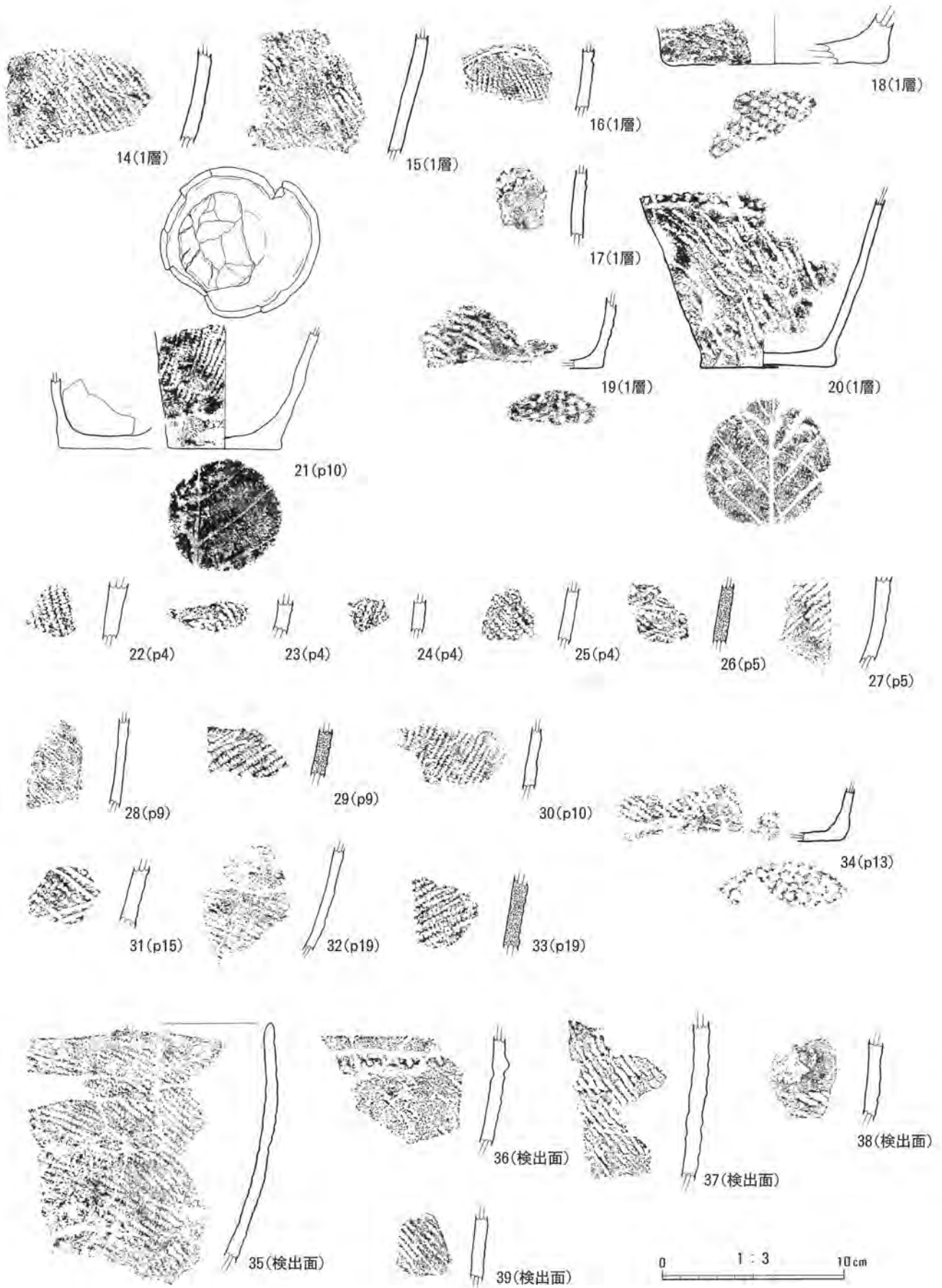
2号焼土遺構（第12～14図、写真図版11～15、74・82）

2号焼土遺構は本調査区東部で検出され、遺構検出面は基本土層V層上面である。重複する遺構はない。

平面形は不整な楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.45m、検出面から底面までの深さは0.14mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。



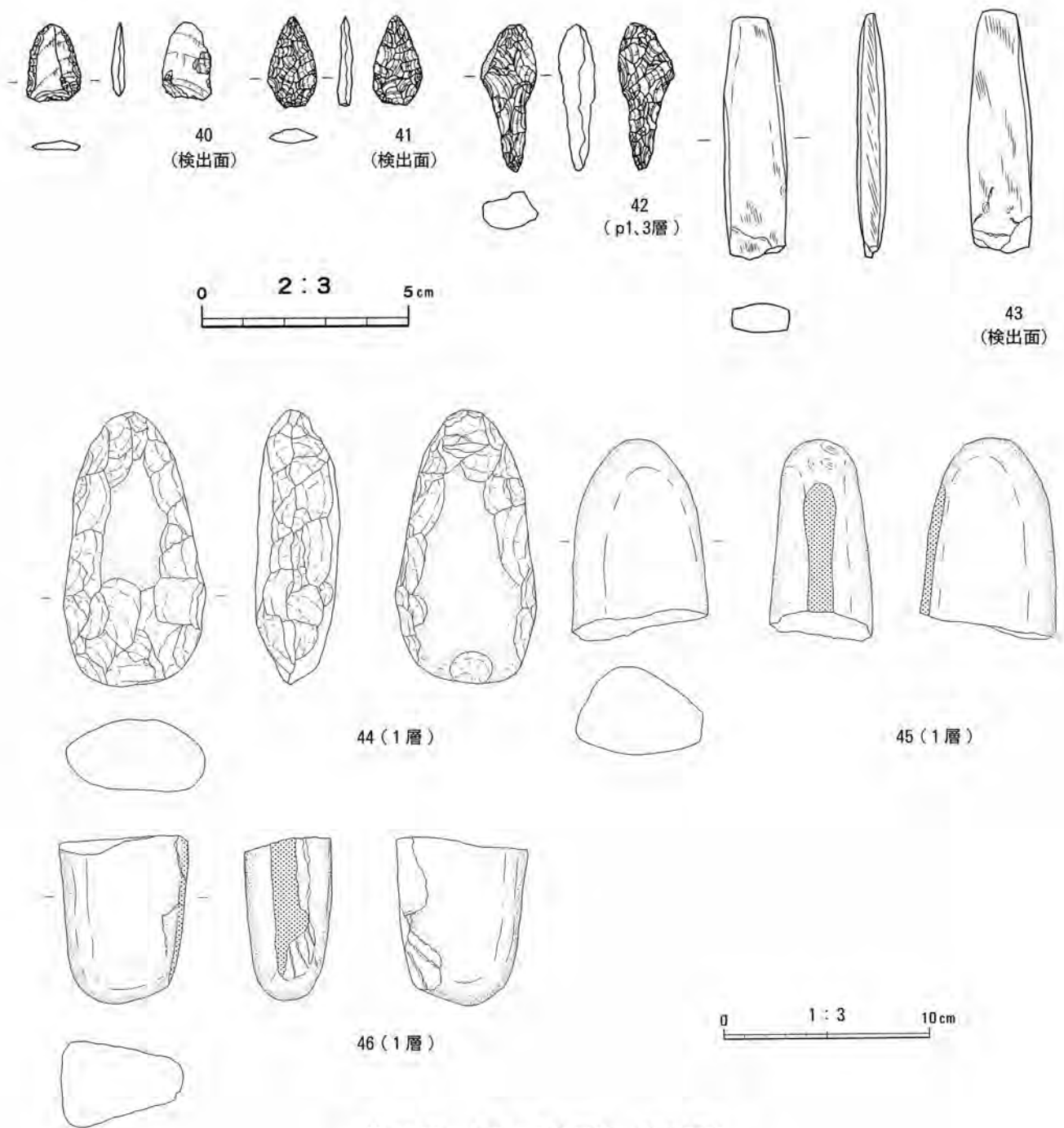
第9图 1号竖穴住居跡 出土遺物(1)



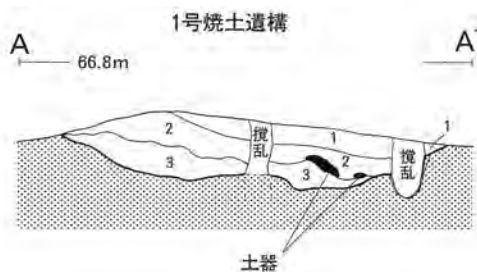
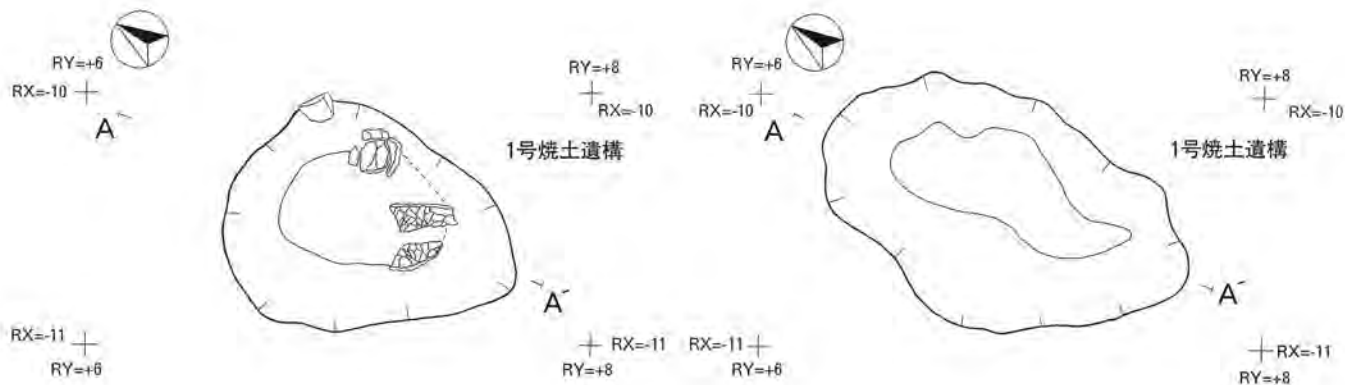
第 10 図 1号竖穴住居跡 出土遺物 (2)

堆積土は5層で、1層は埋設されていた縄文土器周辺に堆積している黒色を呈する埴壤土である。2層・5層は底面直上に堆積し、赤褐色・極赤褐色を呈する埴壤土で焼土層と考えられる。3層・4層はそれぞれ壁周辺に堆積している。

遺物は縄文土器が出土し5点を図示している。土器3個体分が入れ子状になっており、検出上面より土器①～③と呼称している。底部は残存しているが、胴部から口縁部まで残存しているのは1点のみで、3個体とも底部をやや下にした斜位の状態で検出されている。第13図3～5は同じ個体であるが、被熱による摩耗がひどく接合できない状態であったため、それぞれ個別の破片とし

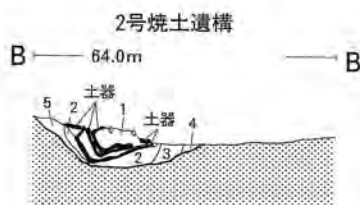


第11図 1号竪穴住居跡 出土石器



1号焼土遺構 土層観察表

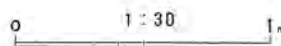
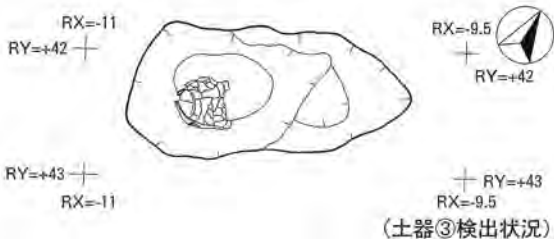
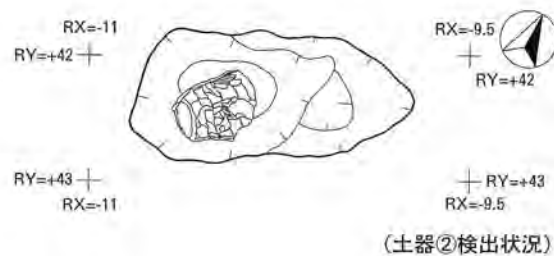
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
焼土遺構埋土	1 7.5Y R2/2 黒褐色埴壇土	7.5Y R3/4 暗褐色埴壇土10%塊状 10Y R2/1 黒色埴壇土30%塊状	やや硬質、粘性ややあり
焼土層	2 5Y R3/6 暗赤褐色埴壇土	7.5Y R3/3 暗褐色埴壇土10%塊状 10Y R2/3 黒褐色埴壇土10%塊状	硬質、粘性あり
	3 5Y R4/8 赤褐色埴壇土	7.5Y R4/6 褐色埴壇土5%塊状	硬質、粘性あり



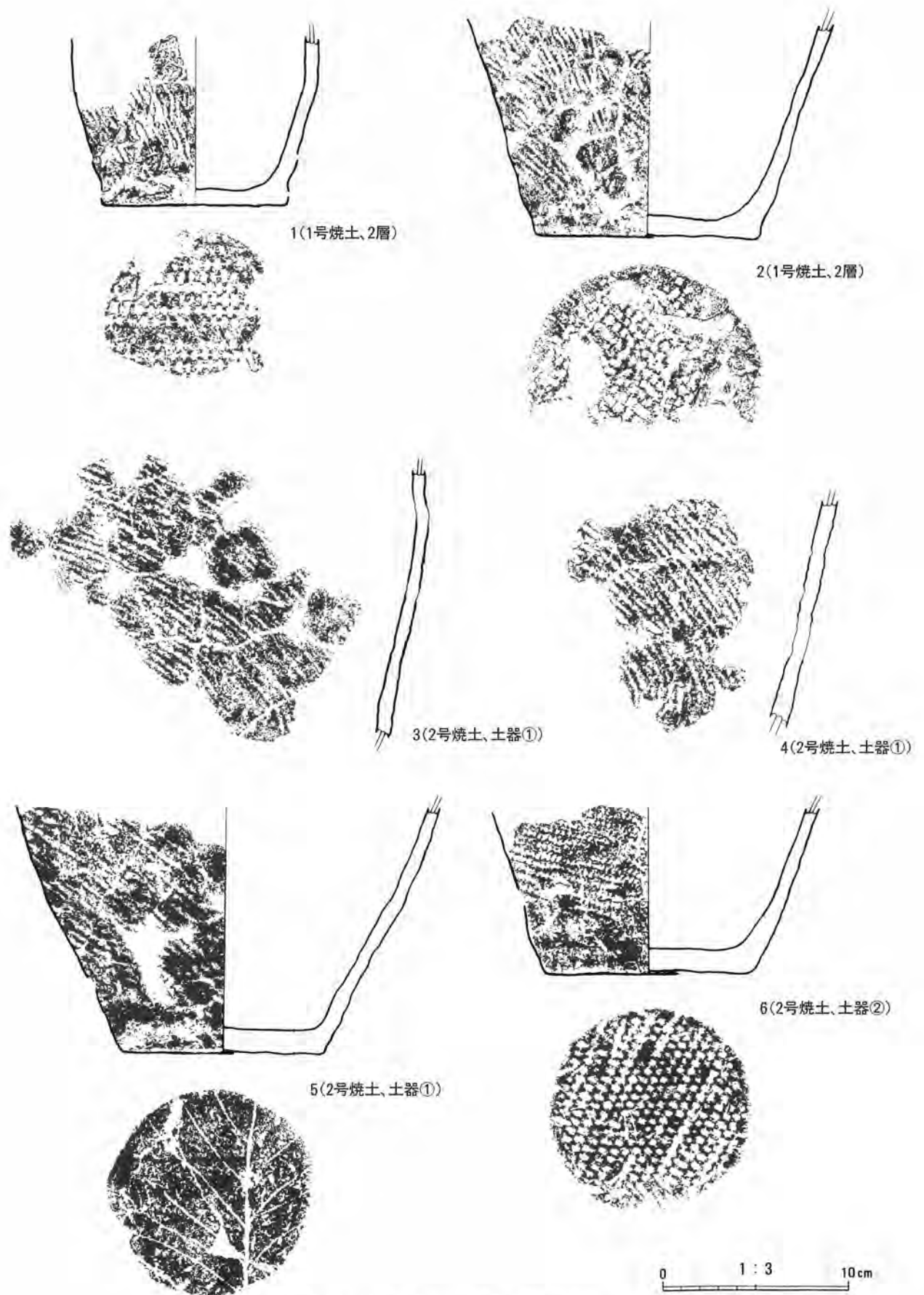
2号焼土遺構(土器①)検出状況

2号焼土遺構 土層観察表

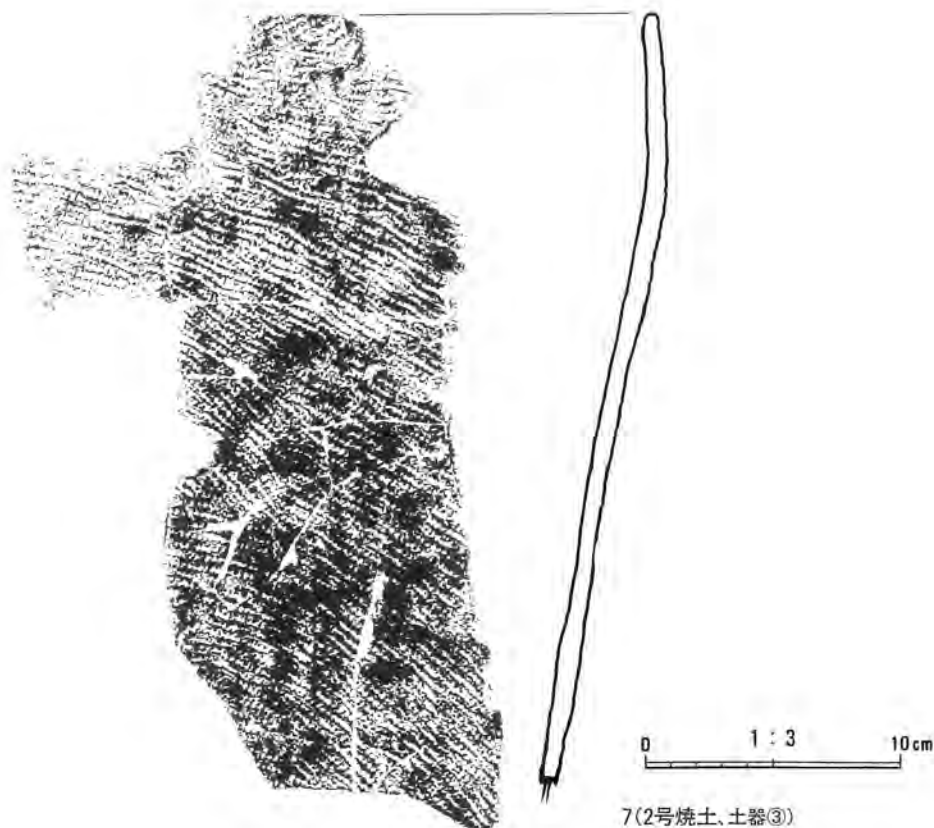
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
焼土遺構埋土	1 10Y R2/1 黒色埴壇土	5Y R4/4 にふい赤褐色埴壇土1% 現状	やや硬質、粘性ややあり
	2 5Y R4/6 赤褐色砂埴土	7.5Y R3/4 暗褐色埴壇土10%塊状	硬質、粘性あり
	3 10Y R2/3 黒褐色埴壇土	10Y R3/3 暗褐色埴壇土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	4 10Y R2/2 黒褐色埴壇土	10Y R3/3 暗褐色埴壇土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	5 7.5Y R2/3 極赤褐色埴壇土	5Y R4/4 にふい赤褐色砂埴土30% 塊状	硬質、粘性あり



第12図 焼土遺構 平面図・断面図



第 13 图 烧土遺構 出土遺物 (1)



第14図 焼土遺構 出土遺物(2)

て掲載している。第13図5の底部には木葉痕がみられる。第13図6は土器②である。土器①同様、摩耗がひどく、底部周辺のみ図化した。底部には網代痕がみられる。第14図7は土器③で、口縁部から胴部が残存している。

1号焼土遺構と同様、本遺構の所属時期は縄文時代と思われるが、詳細な時期は不明である。

第4節 陥し穴・土坑・ピット

陥し穴は本調査区西部から2基、東部から2基の合計4基確認されている。互いに重複関係はなく、また調査区内における分布状況にも偏りはみられない。

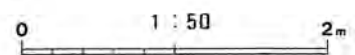
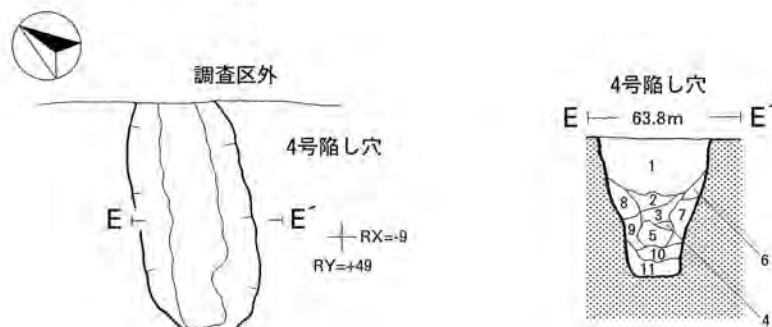
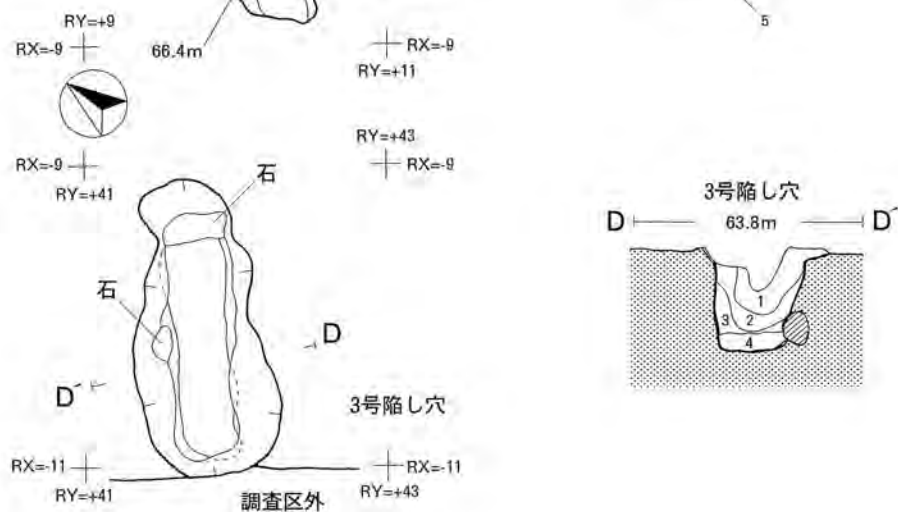
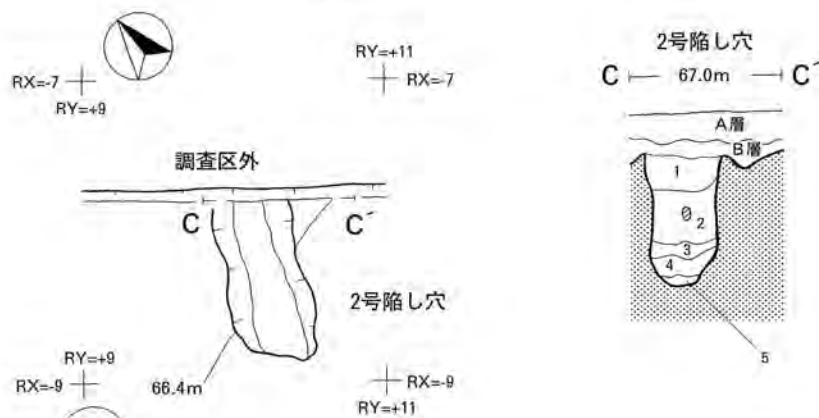
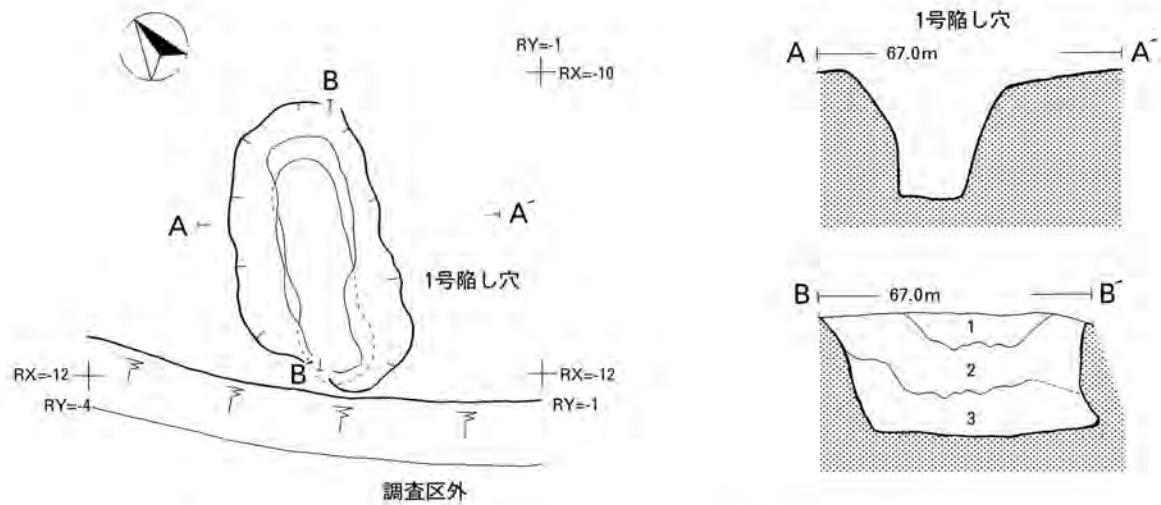
1号陥し穴(第15図、写真図版19)

1号陥し穴は本調査区西部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は南北方向に長軸をもつ不整な楕円形で、規模は長径1.96 m、短径1.06 m、検出面から底面までの深さは0.82 mを測る。底面は平坦で、南側の壁はやや抉れる状態となっている。

堆積土は3層に分けられ、2層の黒褐色埴壤土には地山塊が混入している。堆積状況から自然堆積と思われる。

詳細な年代については、遺物が出土していないため不明である。



第15図 陥し穴 平面図・断面図

2号陥し穴（第15図、写真図版20）

2号陥し穴は本調査区西部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は南北方向に長軸をもつ不整な楕円形で、規模は長径1.10 m、短径0.54 m、検出面から底面までの深さは0.82 mを測る。底面はU字状を呈している。

堆積土は5層に分けられ、黒褐色及び暗褐色を呈する埴壤土である。堆積状況から自然堆積と思われる。

詳細な年代については、遺物が出土していないため不明である。

3号陥し穴（第15図、写真図版21・22・75）

3号陥し穴は本調査区東部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は南北方向に長軸をもつ不整な楕円形で、規模は長径1.96 m、短径0.86 m、検出面から底面までの深さは0.56 mを測る。壁の立ち上がりは緩やかである。

堆積土は4層に分けられ、最下層の4層は黒色を呈する埴壤土である。堆積状況から自然堆積の様相を呈している。

1号陥し穴 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
陥し穴埋土	1 10Y R2/1 黒褐色埴壤土	10Y R2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	2 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R3/3 暗褐色埴壤土30%塊状 10Y R2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	3 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土1%粒状	軟質、粘性なし

2号陥し穴 土層観察表

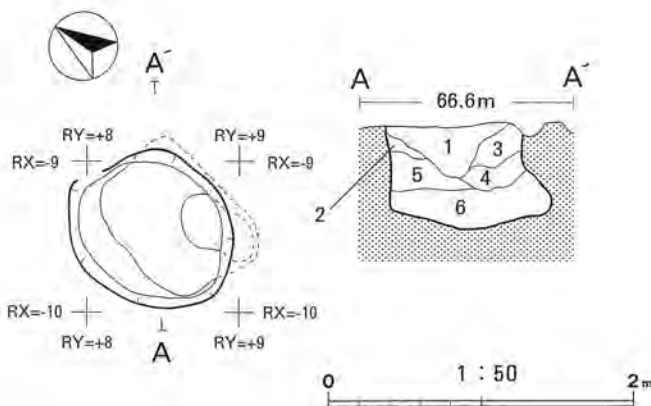
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
陥し穴埋土	1 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土30%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	4 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	5 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

3号陥し穴 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
陥し穴埋土	1 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色埴壤土30%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	4 10Y R2/1 黒褐色埴壤土	10Y R2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

4号陥し穴 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
陥し穴埋土	1 10Y R2/1 黒褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	4 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R3/3 暗褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	5 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色埴壤土10%塊状	軟質、粘性なし
	6 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	7 10Y R4/4 褐色埴壤土	10Y R2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	硬質、粘性あり
	8 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	9 10Y R4/6 褐色埴壤土	10Y R2/2 黒褐色埴壤土30%塊状	硬質、粘性あり
	10 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R3/4 暗褐色埴壤土10%塊状	軟質、粘性なし
	11 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり



1号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R3/3 暗褐色埴壤土5%塊状 10Y R2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	硬質、粘性あり 炭化物少量含
	2 10Y R4/6 褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土1%塊状	硬質、粘性あり
	3 10Y R4/4 褐色砂壤土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	4 10Y R3/4 暗褐色砂壤土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	5 10Y R5/6 黄褐色砂土	10Y R4/6 褐色砂土10%塊状	硬質、粘性なし
	6 10Y R5/8 黄褐色砂土	10Y R4/6 褐色砂土5%塊状	軟質、粘性なし

第16図 1号土坑 平面図・断面図

遺物は縄文土器が3点出土している。第19図5には羽状縄文が施文され、第19図6・7は小破片のため文様などの詳細は不明であるが、3点全ての胎土に繊維が含まれている。

本遺構の所属時期は出土遺物や形態などから縄文時代と考えられるが、詳細な時期は不明である。

4号陥し穴（第15図、写真図版23・24・75）

4号陥し穴は本調査区東部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は南北方向に長軸をもつ不整な楕円形で、規模は長径1.56m、短径0.74m、検出面から底面までの深さは0.91mを測る。壁の立ち上がりは緩やかである。

堆積土は11層に分けられ、最下層である11層は黒褐色砂壤土でやや砂質を呈する。最上層である1層は層厚が厚い。

遺物は縄文土器が1点出土している。第19図4は口縁部破片で斜縄文が施文され、胎土には繊維が含まれている。

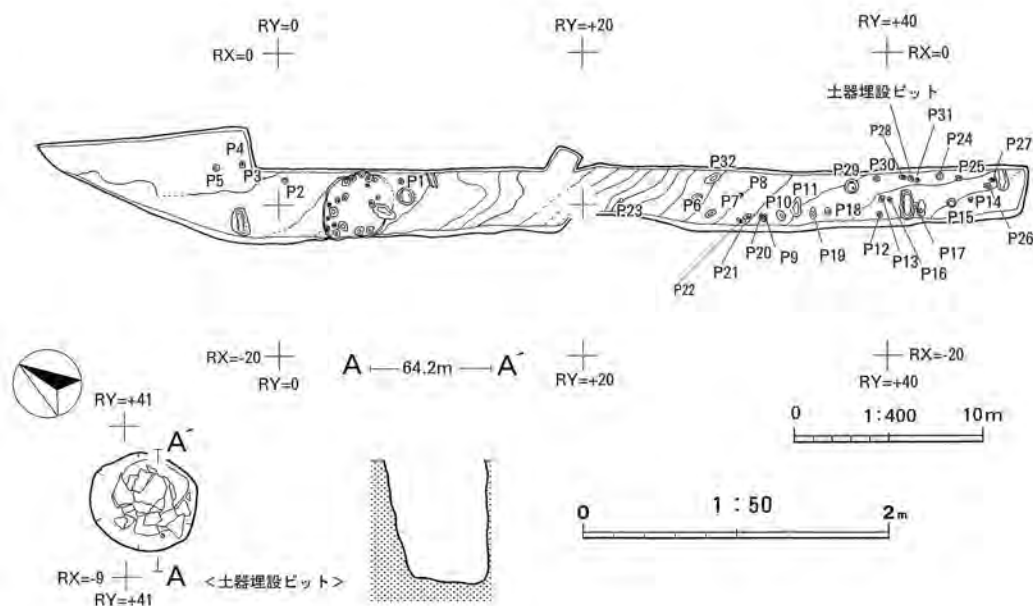
本遺構の所属時期は出土遺物や形態などから縄文時代と考えられるが、詳細な時期は不明である。

1号土坑（第16図、写真図版25・26・75）

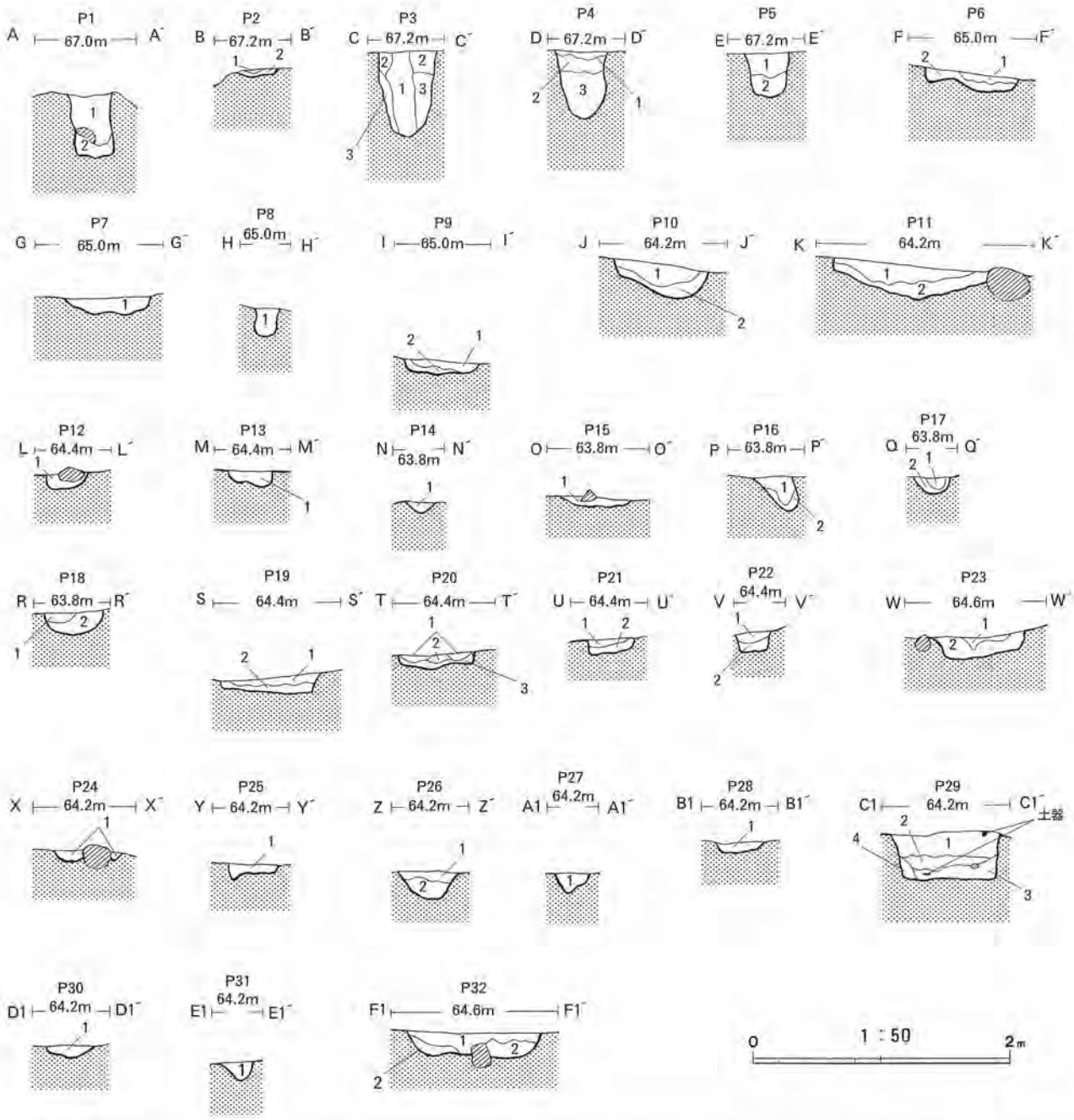
1号土坑は本調査区西部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は南北方向に長軸をもつ不整な楕円形で、規模は長径1.2m、短径1.0m、検出面から底面までの深さは0.65mを測る。底面は開口部よりも広がっており、いわゆるフラスコピットといわれている貯蔵穴と考えられる。

堆積土は6層に分けられる。5層・6層は黄褐色砂土で、土坑廃絶後に自然堆積した土層と思われる。



第17図 ピット 平面図



ビット 土層観察表 (1)

層名		基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
P 1 埋土	1	10Y R4/4 褐色埋土	10Y R3/3 暗褐色埋土30%塊状	やや硬質、粘性ややあり 炭化物少量含まれる
	2	5Y R4/6 赤褐色砂埋土	7.5Y R4/4 褐色砂埋土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
P 2 埋土	1	10Y R4/4 褐色埋土	10Y R3/4 暗褐色埋土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2	10Y R3/4 暗褐色埋土	10Y R4/6 褐色埋土30%塊状	硬質、粘性あり
P 3 埋土	1	10Y R3/3 暗褐色埋土	10Y R5/6 黄褐色埋土5%塊状	軟質、粘性なし
	2	10Y R4/6 褐色埋土	10Y R4/4 褐色埋土10%塊状	硬質、粘性あり
	3	10Y R3/4 暗褐色埋土	10Y R5/6 黄褐色埋土5%塊状	軟質、粘性なし
P 4 埋土	1	10Y R2/3 黒褐色埋土	10Y R2/2 黒褐色埋土5%塊状	軟質、粘性ややあり
	2	10Y R4/6 褐色シルト質埋土	10Y R3/3 暗褐色埋土10%塊状	軟質、粘性なし
	3	10Y R3/4 暗褐色埋土	10Y R5/6 黄褐色埋土5%塊状	軟質、粘性なし
P 5 埋土	1	10Y R2/3 黒褐色埋土	10Y R3/4 暗褐色埋土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2	10Y R3/4 暗褐色埋土	10Y R4/6 褐色埋土5%塊状	軟質、粘性ややあり
P 6 埋土	1	10Y R2/3 黒褐色埋土	10Y R3/3 暗褐色埋土1%塊状	硬質、粘性あり 1mm大の白色粒少量
	2	10Y R3/3 暗褐色埋土	10Y R2/3 黒褐色埋土10%塊状	硬質、粘性あり 1mm大の白色粒少量

層名		基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
P 7 埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埋土	10Y R3/4 暗褐色埋土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2	10Y R2/2 黒褐色埋土	10Y R3/4 暗褐色埋土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
P 8 埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埋土	10Y R3/4 暗褐色埋土1%塊状	硬質、粘性あり
	2	10Y R2/3 黒褐色埋土	10Y R3/3 暗褐色埋土10%塊状	硬質、粘性あり
P 9 埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埋土	10Y R3/3 暗褐色埋土1%塊状	硬質、粘性あり
	2	10Y R2/1 黒色埋土	10Y R2/3 黒褐色埋土1%塊状	硬質、粘性あり 炭化物微量含まれる
P 10 埋土	1	10Y R2/1 黒色埋土	10Y R2/3 黒褐色埋土5%塊状	硬質、粘性あり 炭化物微量含まれる
	2	10Y R2/3 黒褐色埋土	10Y R2/2 黒褐色埋土1%塊状	硬質、粘性あり
P 11 埋土	1	10Y R2/1 黒色埋土	10Y R2/3 黒褐色埋土1%塊状	硬質、粘性あり
	2	10Y R2/3 黒褐色埋土	10Y R2/2 黒褐色埋土5%塊状	硬質、粘性あり 炭化物微量含まれる
P 12 埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埋土	10Y R2/3 暗褐色埋土10%塊状	軟質、粘性あり 炭化物微量含まれる 緑(花崗岩)含まれる
	2	10Y R2/2 黒褐色埋土	10Y R2/3 暗褐色埋土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
P 13 埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埋土	10Y R3/3 暗褐色埋土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2	10Y R2/1 黒色埋土	10Y R4/4 褐色埋土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
P 14 埋土	1	10Y R2/1 黒色埋土	10Y R4/4 褐色埋土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2	10Y R3/3 暗褐色埋土	10Y R4/4 褐色埋土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
P 15 埋土	1	10Y R3/3 暗褐色埋土	10Y R4/4 褐色埋土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2	10Y R3/3 暗褐色埋土	10Y R4/4 褐色埋土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり

第 18 図 ビット 断面図

遺物は縄文土器が出土している。第19図1・2は胴部破片であるが磨滅のため文様は不明である。第19図3は底部破片である。

出土した土器や形態などから、本遺構の所属時期は縄文時代中期と考えられるが、詳細な時期については不明である。

ピット (Pit) (第17～20図、写真図版27～32、75・76・83)

ピットは合計32基検出され、本調査区西端部(5基)と東部(27基)に集中して分布している。形態・深さ・規模などに統一性は見られなかった。

Pit 1 (P 1) は直径50 cm、深さ45 cmを測り、平面形は円形を呈する。ピット埋土中(1層)に石棒が据えられたような状態で出土している。石棒(第20図27)はピット検出面から約20 cm掘り下げた層から出土し、先端部を上に向け立てたような状況で見つかった。基部は欠損しているが、先端部には十字の刻みが施され、さらにくびれ部にも横方向の線刻がみられる。表面には凹凸が観察される。さらに石棒出土の下層(2層)からは礫が3個出土している。

この他、遺物が出土しているピットは、Pit 5・29 (P 5・29) である。特にP 29からは底部から胴部にかけて残存している大型の縄文土器(第20図26)が出土し、小破片も11点出土している。

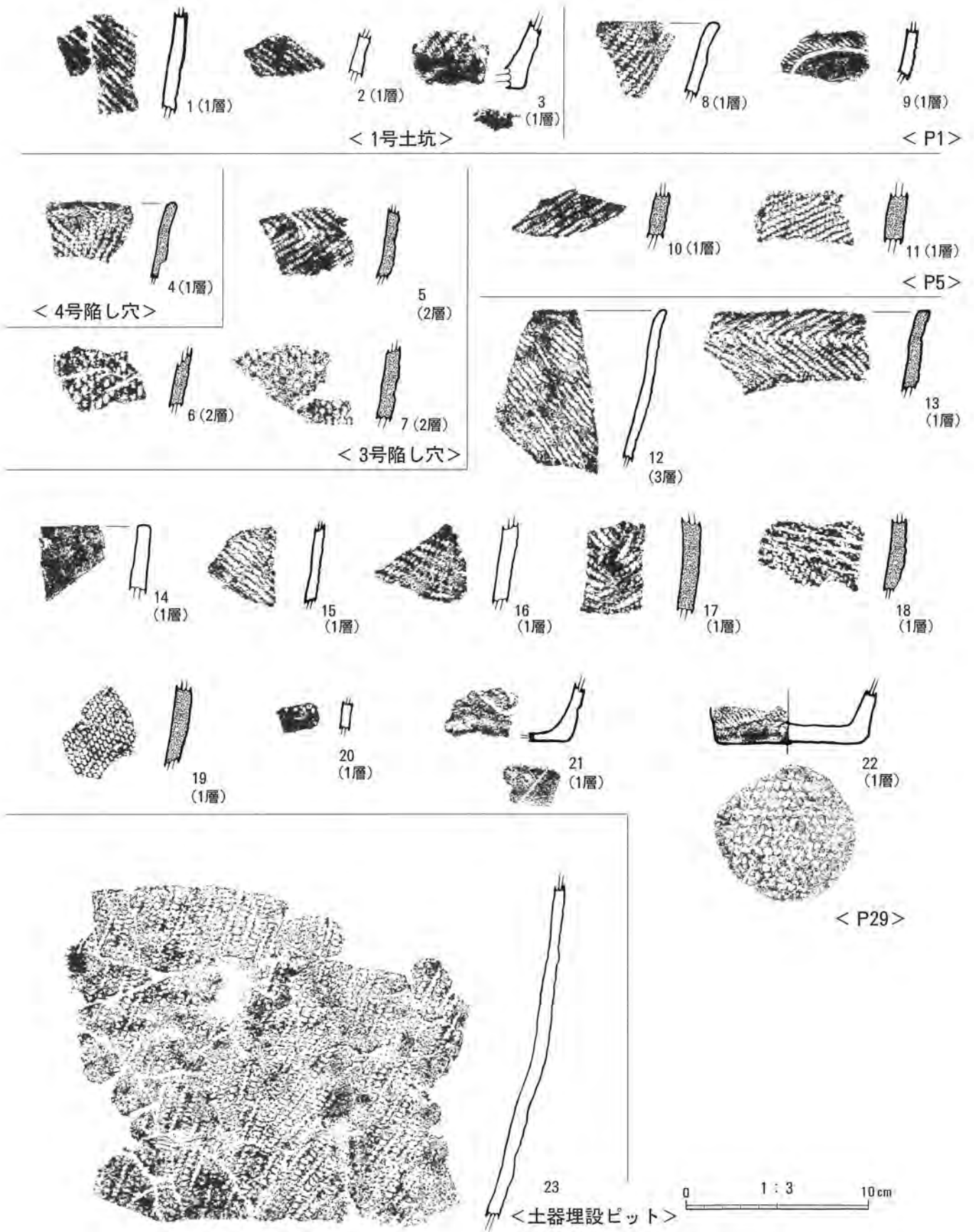
本調査区東部からは土器埋設ピットが検出されている。平面形は円形を呈し、規模は直径28 cm、検出面からの深さは32 cmを測る。上層から下層まで縄文土器の破片が細片の状態で出土している。地文にRL単節斜縄文が施文され、第19図23・第20図24・25の3点に分けて図示したが、本来は同一個体と思われる。

第5節 遺物包含層(第21～25図、写真図版16～18、77～79・83～85)

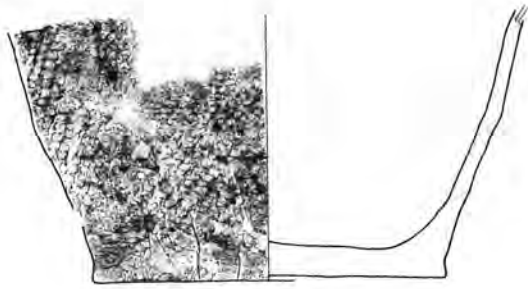
遺物包含層は本調査区中央部から東部にかけて検出されている。西から東へ地山面が傾斜しており、その斜面上に堆積したものと考えられる。そのため、東端部に向かって層厚が厚くなっている。

ピット 土層観察表(2)

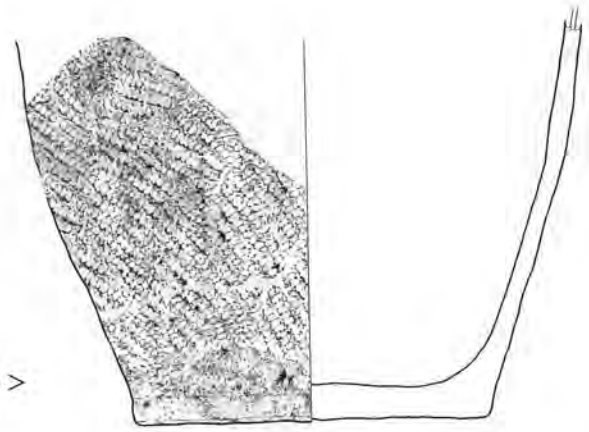
P16 埋土	1	10Y R2/3 黒褐色埴壇土	10Y R3/3 暗褐色埴壇土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり	P23 埋土	1	10Y R2/3 黒褐色埴壇土	10Y R3/4 暗褐色埴壇土10%斑状	硬質、粘性あり 炭化物微量含まれる	
	2	10Y R3/4 暗褐色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり		2	10Y R3/4 暗褐色埴壇土	10Y R3/3 暗褐色埴壇土5%塊状	硬質、粘性あり	
P17 埋土	1	10Y R2/3 黒褐色埴壇土	10Y R3/3 暗褐色埴壇土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり	P24 埋土	1	10Y R2/1 黒色埴壇土	10Y R2/2 黒褐色埴壇土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり	
	2	10Y R4/4 褐色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり		P25 埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土10%塊状	軟質、粘性なし
P18 埋土	1	10Y R2/3 黒褐色埴壇土	10Y R2/2 黒褐色埴壇土1%塊状	硬質、粘性あり 1mm大の炭土塊含まれる	P26 埋土		1	7.5Y R2/2 黒褐色埴壇土	7.5Y R2/3 暗褐色埴壇土10%斑状	硬質、粘性あり 炭土塊含まれる
	2	10Y R3/3 暗褐色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土5%塊状	硬質、粘性あり		2	10Y R2/1 黒色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土5%塊状	硬質、粘性あり	
P19 埋土	1	10Y R2/3 黒褐色埴壇土	10Y R3/3 暗褐色埴壇土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり	P27 埋土	1	10Y R2/1 黒色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり	
	2	10Y R3/3 暗褐色埴壇土	10Y R3/4 暗褐色埴壇土5%塊状	硬質、粘性あり		P28 埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埴壇土	10Y R3/4 暗褐色埴壇土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
P20 埋土	1	10Y R2/1 黒色埴壇土	10Y R2/2 黒褐色埴壇土10%塊状	硬質、粘性あり	P29 埋土		1	10Y R2/2 黒褐色埴壇土	10Y R4/6 褐色埴壇土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2	10Y R3/3 暗褐色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土5%塊状	硬質、粘性あり			2	10Y R3/4 暗褐色埴壇土	10Y R3/3 暗褐色埴壇土3%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3	10Y R3/4 暗褐色埴壇土	10Y R4/6 褐色埴壇土10%塊状	硬質、粘性あり			3	10Y R3/3 暗褐色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土1%塊状	軟質、粘性ややあり 炭化物微量含まれる
P21 埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり		4	10Y R2/2 黒褐色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり	
	2	10Y R3/3 暗褐色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり	P30 埋土	1	10Y R2/1 黒色埴壇土	10Y R2/3 黒褐色埴壇土20%塊状	硬質、粘性あり	
P22 埋土	1	10Y R2/3 黒褐色埴壇土	10Y R4/6 褐色埴壇土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり		P31 埋土	1	10Y R2/2 黒褐色埴壇土	10Y R3/3 暗褐色埴壇土10%塊状	硬質、粘性あり
	2	10Y R3/4 暗褐色埴壇土	10Y R3/3 暗褐色埴壇土1%塊状	やや硬質、粘性ややあり	P32 埋土		1	10Y R3/4 暗褐色シルト質埴壇土	10Y R5/8 黄褐色シルト質埴壇土10%斑状	硬質、粘性あり
						2	10Y R4/6 褐色シルト質埴壇土	10Y R3/4 暗褐色シルト質埴壇土5%塊状	硬質、粘性あり	



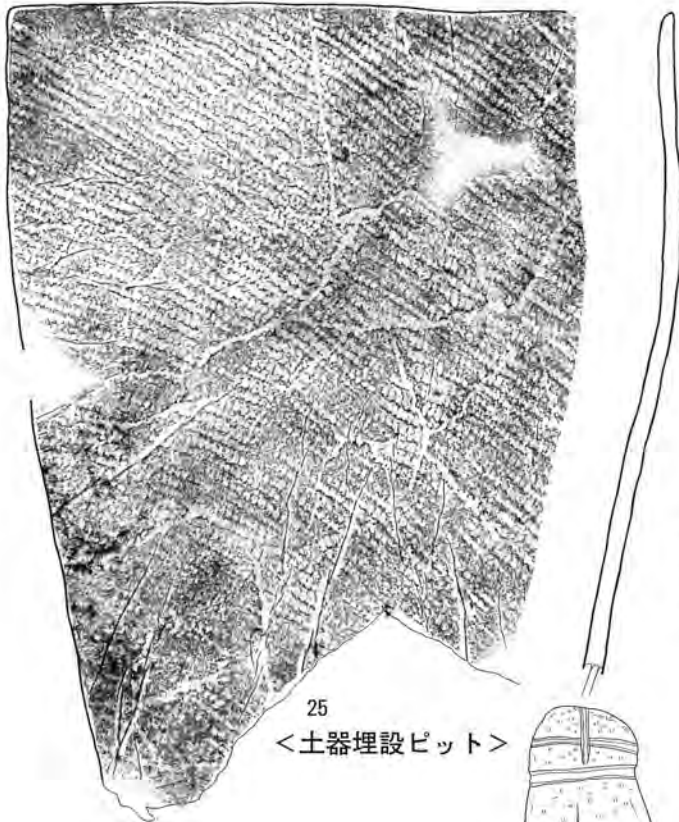
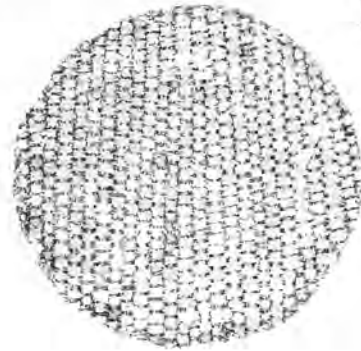
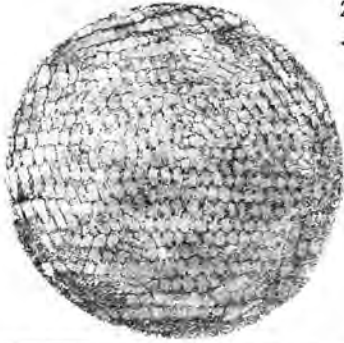
第19図 陥し穴・土坑・ピット 出土遺物(1)



24
 <土器埋設ピット>

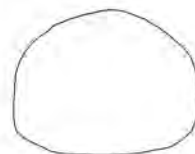
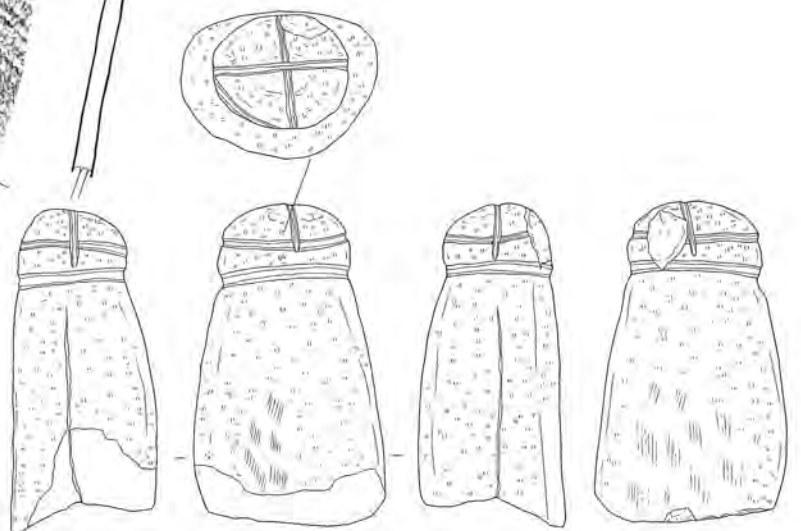


26
 <P29、3層>



25
 <土器埋設ピット>

0 1 : 3 10cm

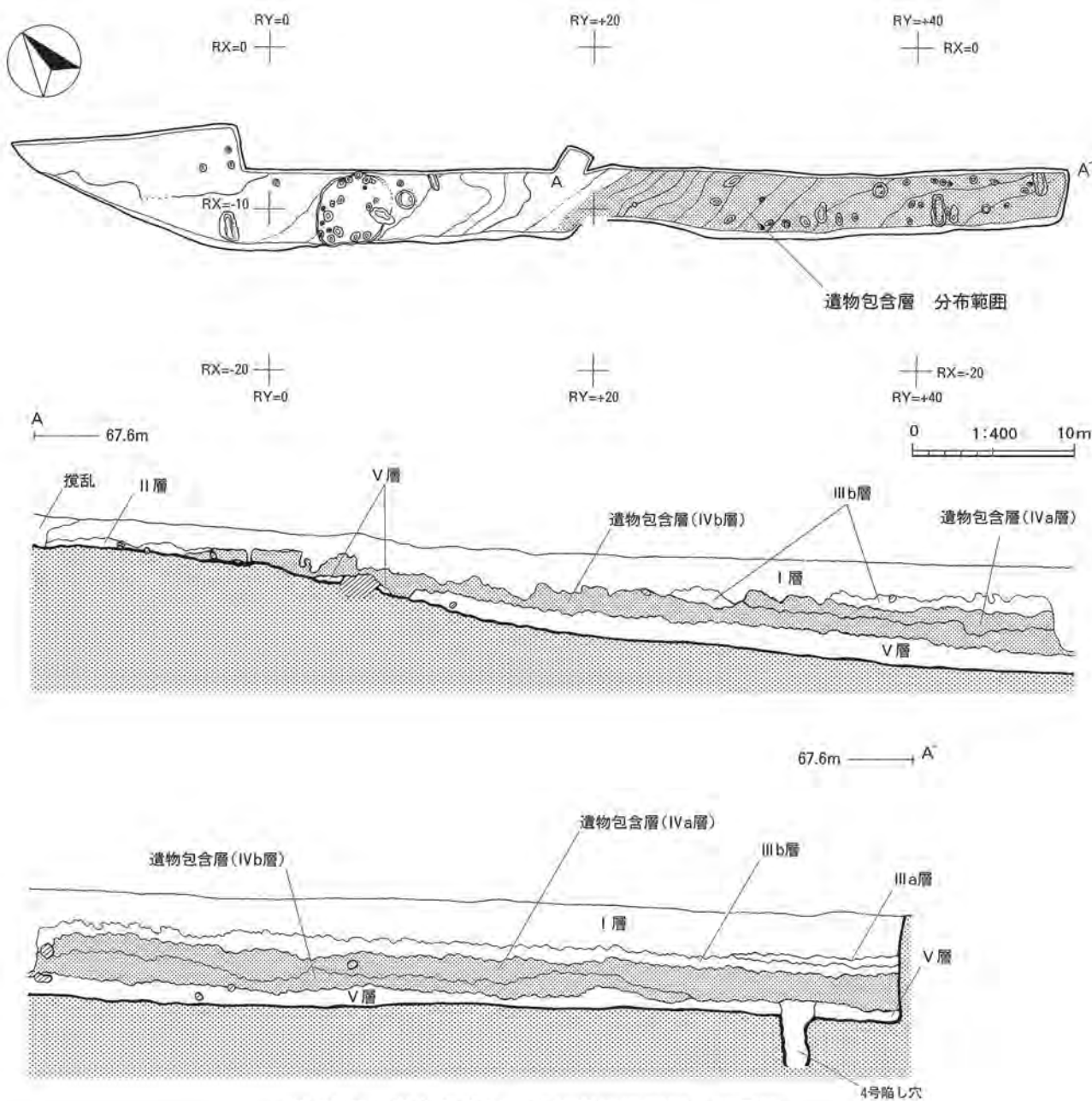


27
 <P1、1層>

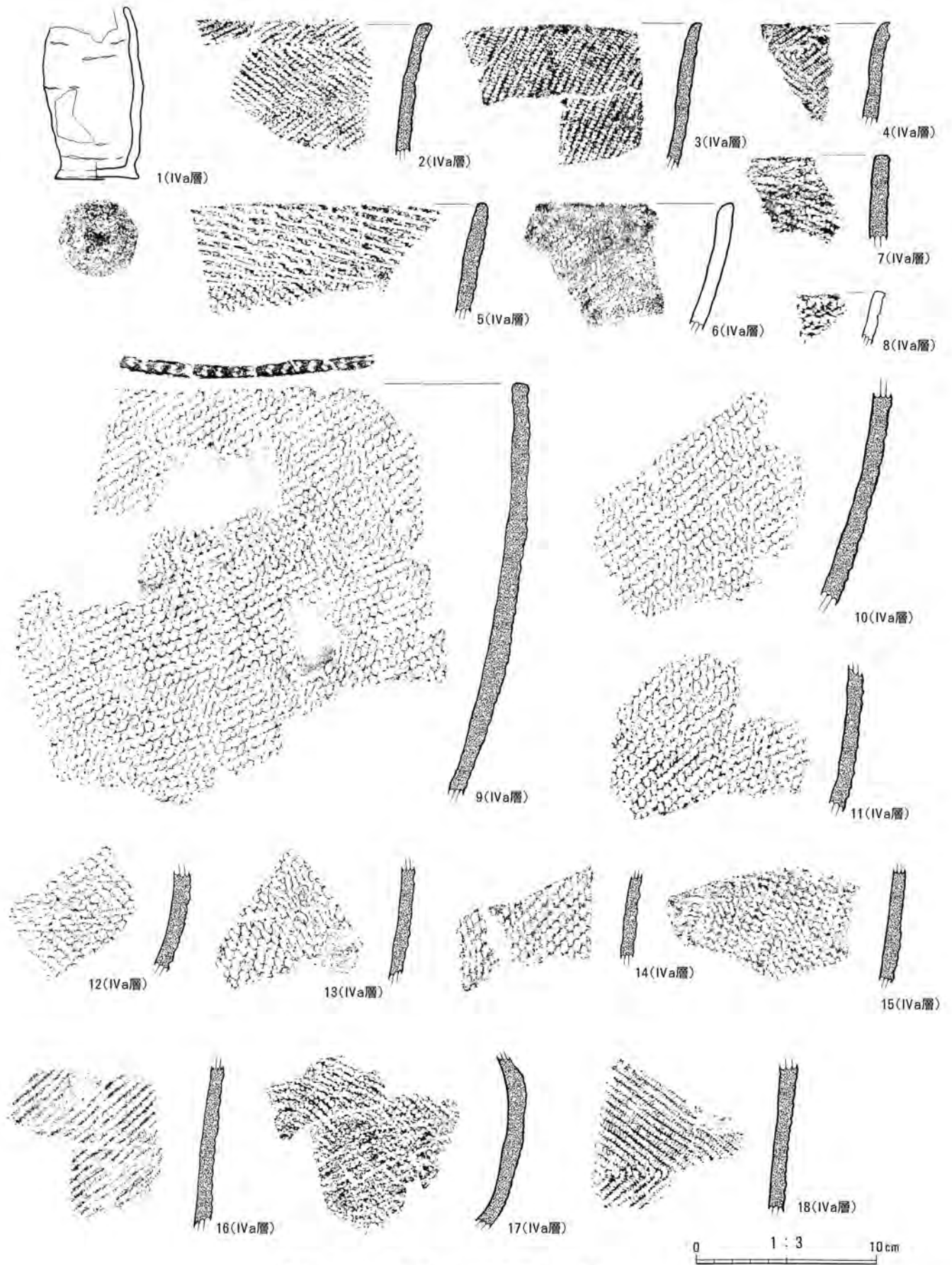
第 20 図 ピット 出土遺物 (2)

遺物包含層はIV a層・IV b層の2層に細別される。IV a層は黒褐色を呈する埴壤土で、暗褐色砂土や暗褐色埴壤土が塊状に混入し、本調査区東端部周辺にのみ堆積している。IV b層は黒色を呈する埴壤土で、本調査区東部全域に堆積している。

遺物は縄文土器 30 点、土製品 1 点、石器 17 点を図示している。第 22 図 1～18、第 23 図 19～25・31 は遺物包含層IV a層、第 23 図 26～30 は遺物包含層IV b層から出土した縄文土器である。第 22 図 1 は手捏ね土器で、内外面に輪積み痕が明瞭に残る。底部はナデ調整されている。第 22 図 2～9 は口縁部破片で、羽状縄文や組縄縄文などの縄文を主体とした文様が施文されている。第 22 図 6・8 を除いて胎土に繊維が含まれている。第 22 図 10～18、第 23 図 19～22 は胴部破片で、組縄縄文・羽状縄文・捺糸文・LR単節斜縄文・RL単節斜縄文が施文されている。第 23 図 21 を



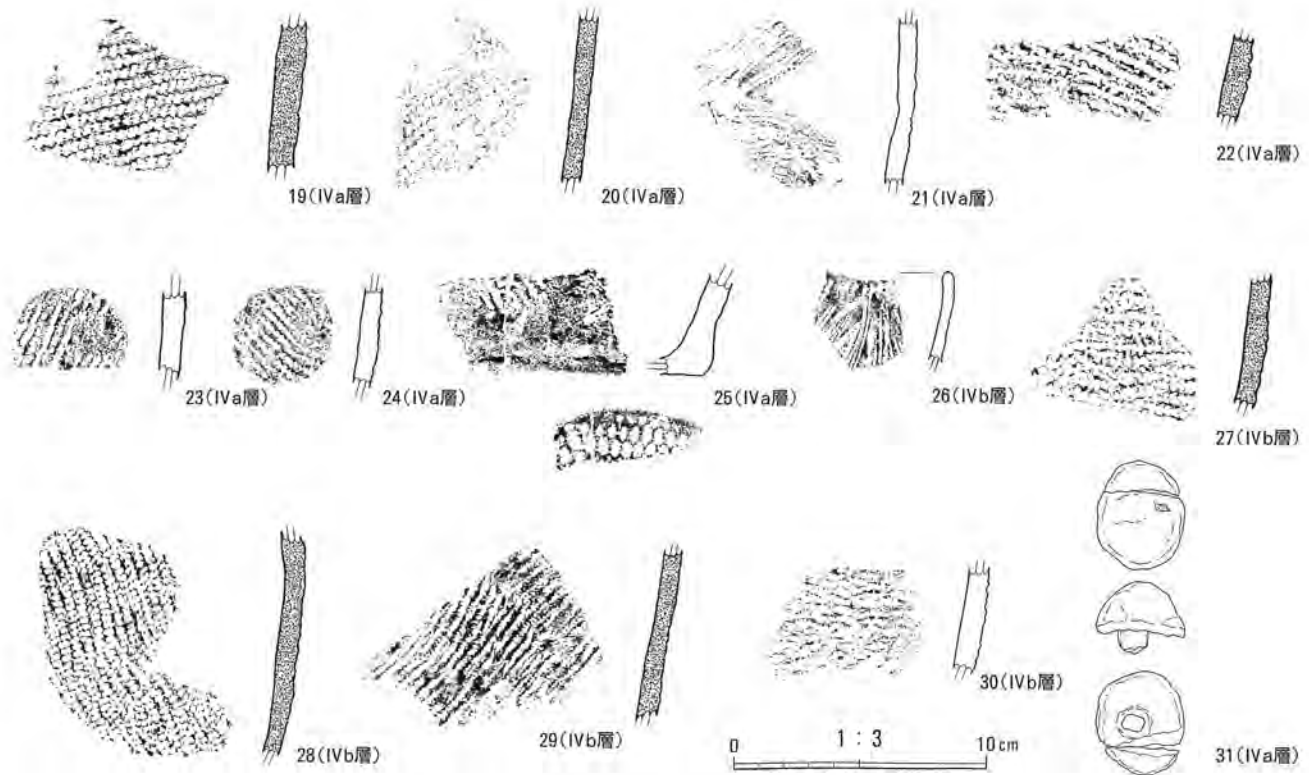
第 21 図 遺物包含層 分布範囲平面図・断面図



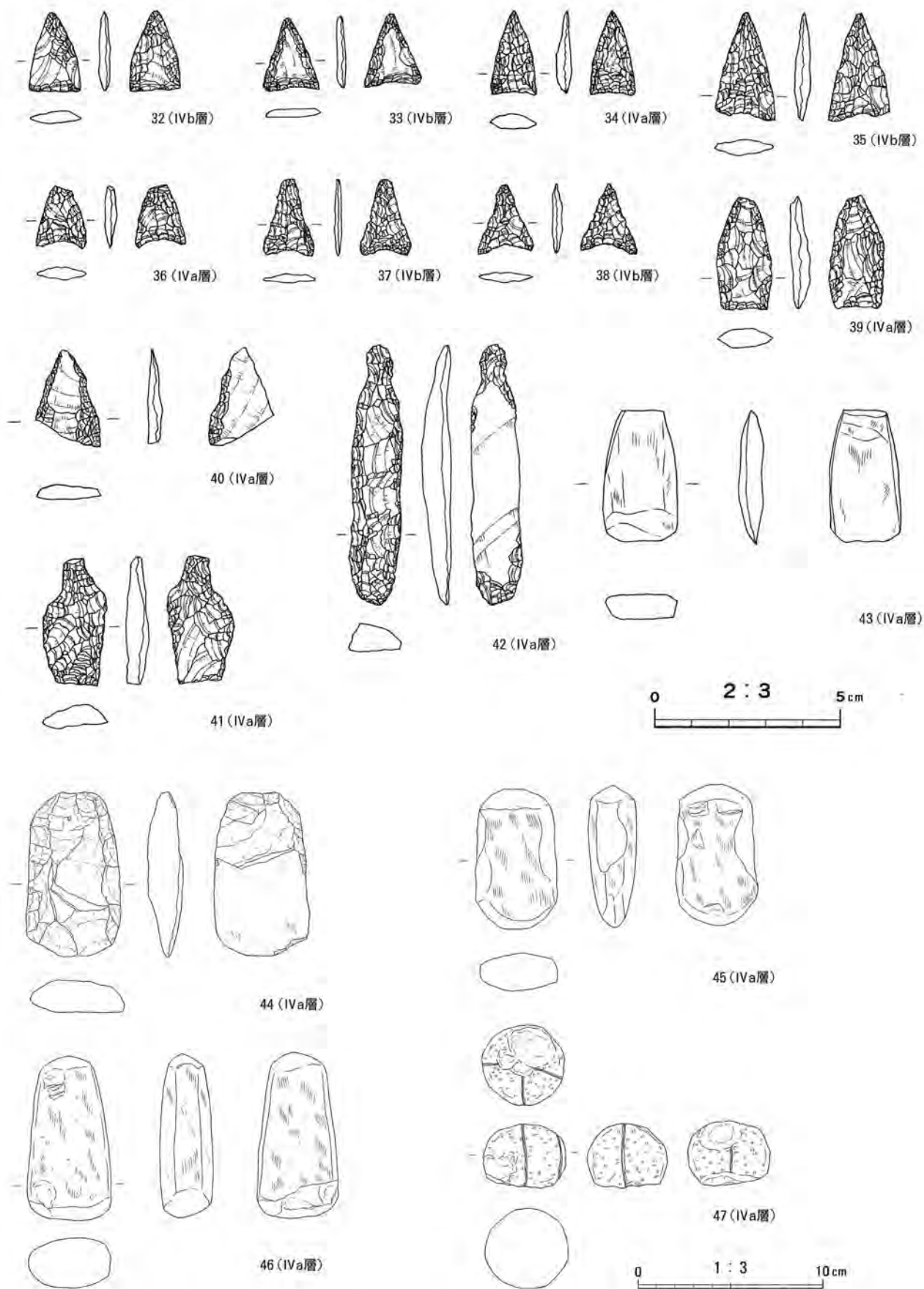
第22圖 遺物包含層 出土遺物(1)

除いて胎土に繊維が含まれている。第23図23・24は胴部破片であるが、円盤状を呈しており転用されている可能性がある。第23図25は底部破片で、網代痕が観察される。第23図26は口縁部破片で、口縁端部には刺突が施されている。第23図27～30は磨滅のため詳細は不明であるが斜縄文が施文されている。第23図31はキノコ形土製品である。

第24図32～47、第25図48は石器である。第24図32～40は石鏃で平基無茎及び凹基無茎の形態をもち、基部や先端部が欠損したものが多数みられる。第24図41・42は石匙で、第24図41は縦型で刃部の先端部が欠損している。腹面にも細かい調整剥離がみられる。第24図42は縦型で腹面には一次剥離面が大きく残る。第24図43は小形の磨製石斧で、両面とも丁寧な磨きがみられる。第24図44は打製石斧で、腹面にのみ自然面が大きく残っている。第24図45・46は磨製石斧で、刃部は丸みを帯びている。第24図47は石棒で先端部のみ出土している。先端部の一部表面が欠損しているが、第20図27と同様に十字形に線刻されていると考えられる。第25図48は石皿で、片面にのみ擦痕が観察される。



第23図 遺物包含層 出土遺物(2)

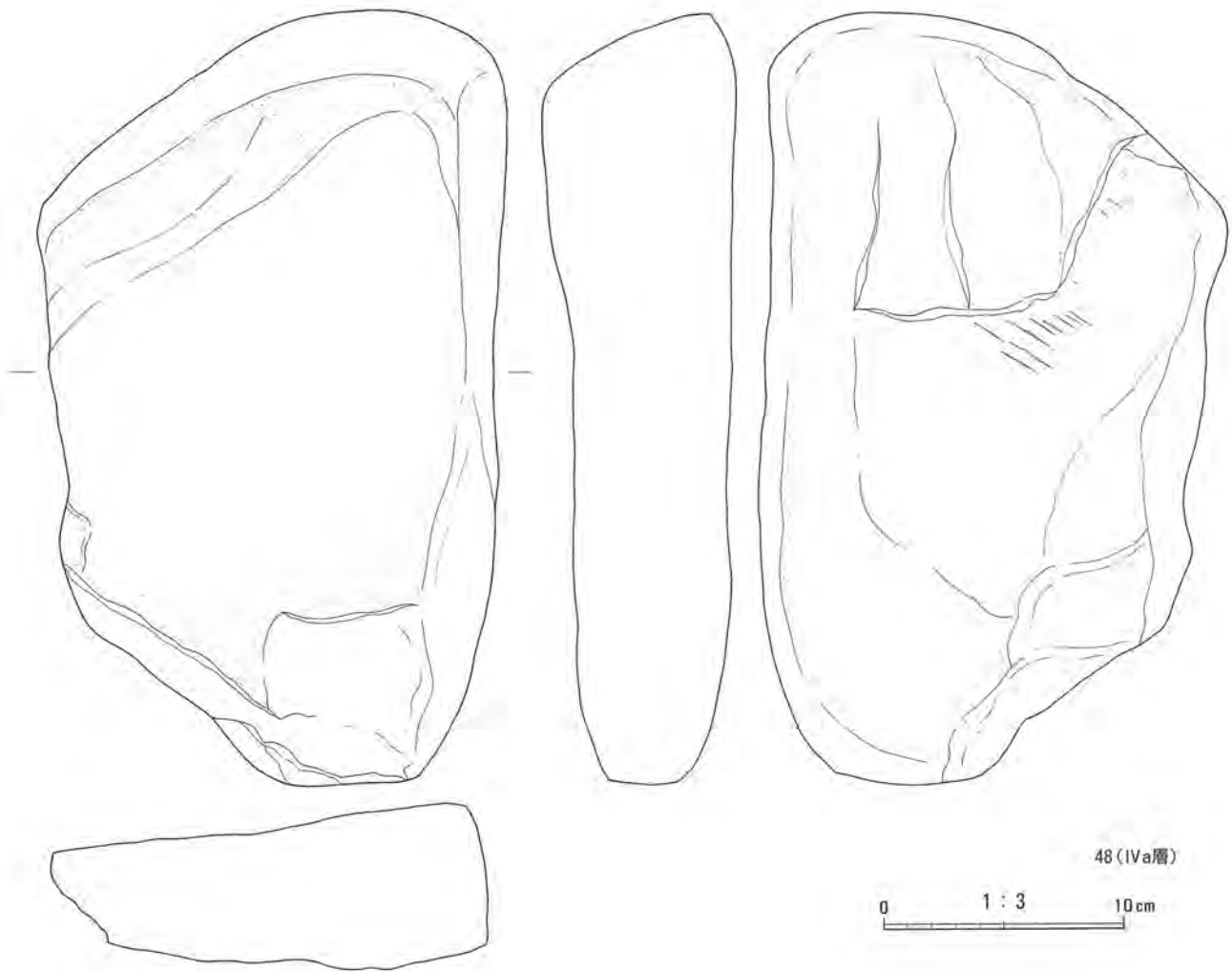


第 24 図 遺物包含層 出土石器 (1)

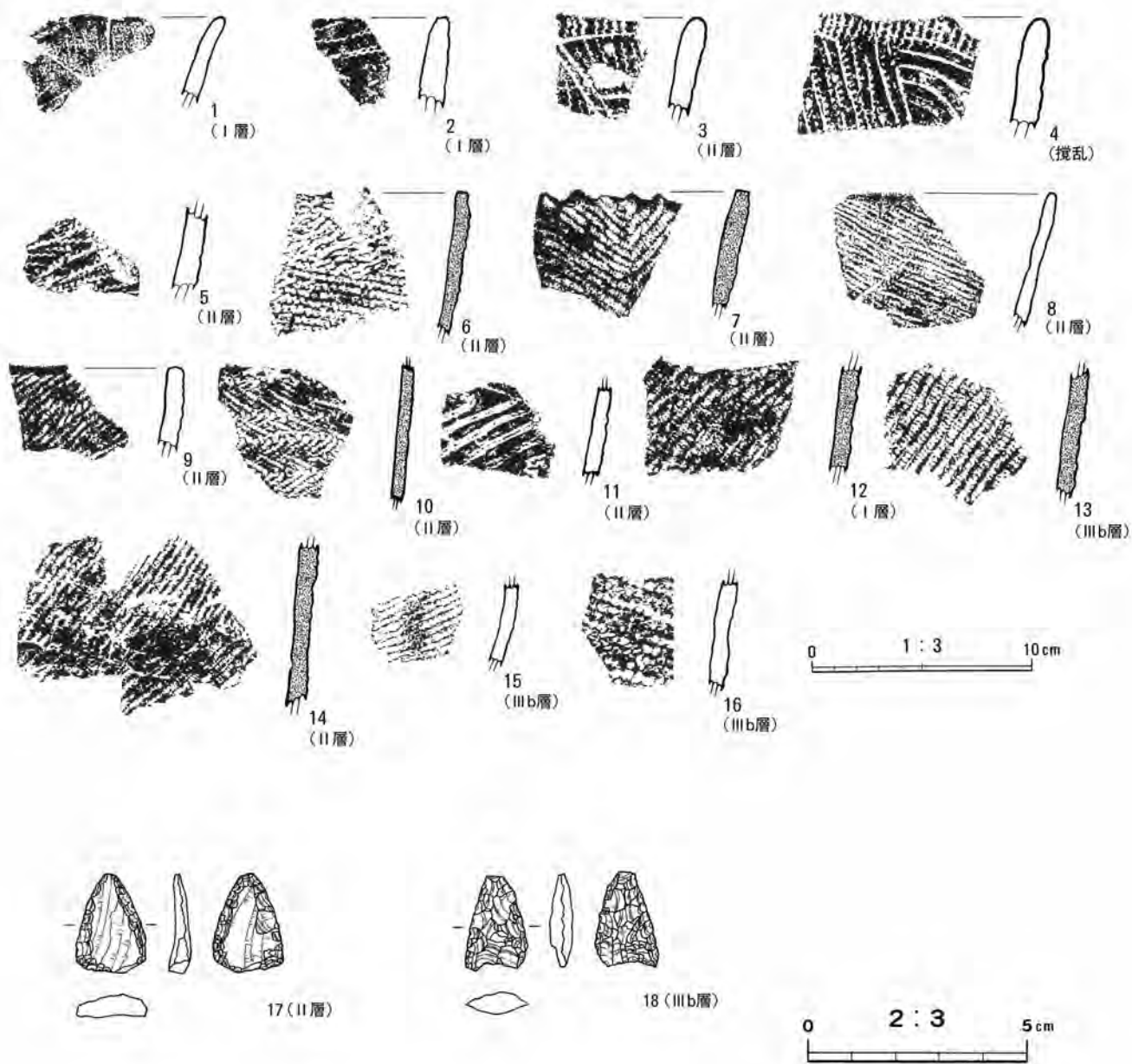
第6節 遺構外出土遺物（第26図、写真図版80・85）

遺構外出土遺物は縄文土器・石器で、特に本調査区西部の盛土層であるⅡ層中からの出土が多い。第26図1～16は縄文土器で、貝殻文が施文された土器と縄文が施文された土器の2つに大きく分けられる。第26図1～5は外面に貝殻腹縁文が施文され、特に第26図3・4は貝殻腹縁文と刺突文の組み合わせで幾何学的な文様を作り出している。第26図6～9は口縁部破片で、第26図6の口縁端部には不整撚糸文が施文されている。第26図7・10は羽状縄文、第26図11は撚糸文が施文され、他の第26図8・9・12～16にはLR単節及びRL単節斜縄文が施されている。

第26図17・18は石器で、ともに石鏃である。第26図17は両面に一次剥離面を大きく残している。第26図18は基部・先端部に欠損がみられるが、両面ともに細部調整が施されている。



第25図 遺物包含層 出土石器（2）



第 26 図 遺構外出土遺物

第7節 遺跡隣接地の試掘調査

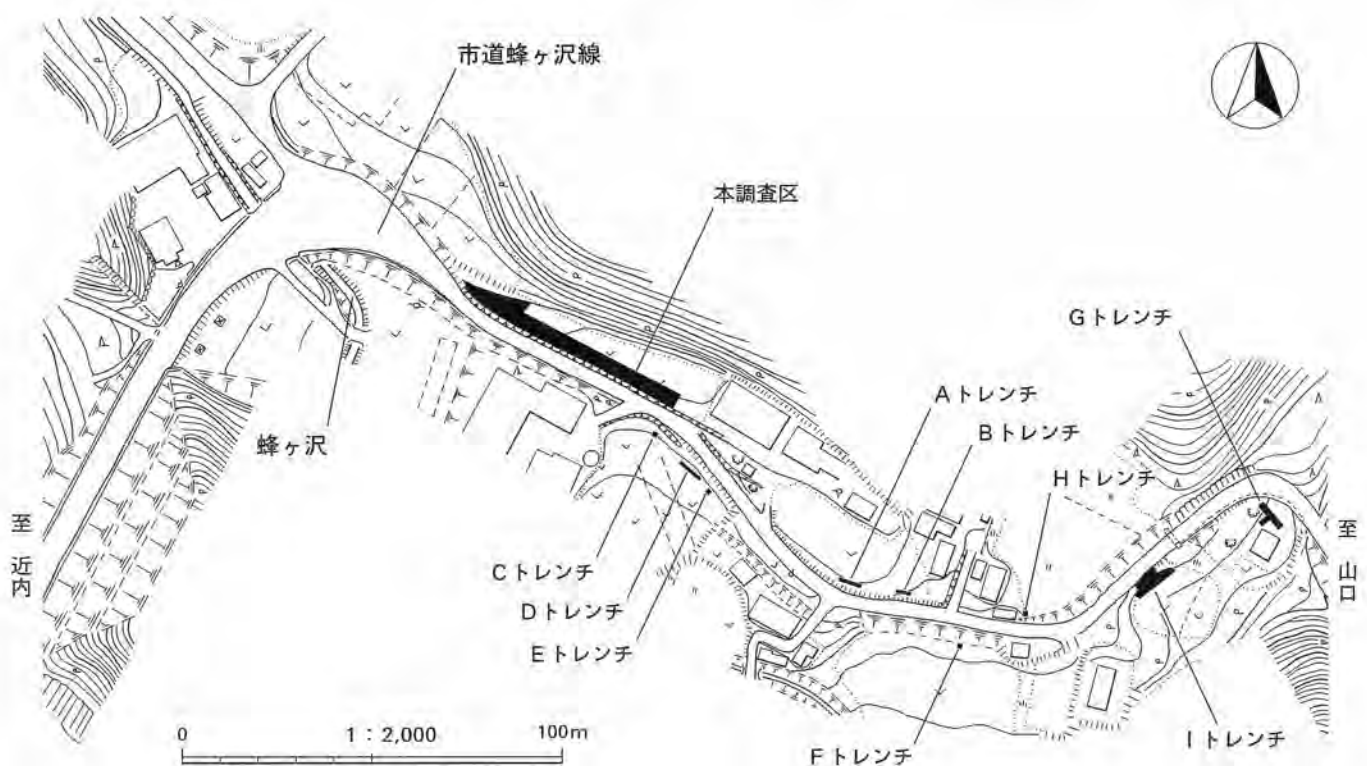
蜂ヶ沢 I 遺跡の遺跡範囲及び遺跡隣接地では平成 16 年度に試掘調査が行われている。前述のとおり 11 箇所において試掘トレンチを設定し、そのうちの 2 箇所で竪穴住居跡や遺物包含層が検出されたため平成 17 年度に本調査を実施している。ここでは残りの 9 箇所の試掘トレンチについて詳述する。

A・Bトレンチ（第 27・28 図、写真図版 33・34）

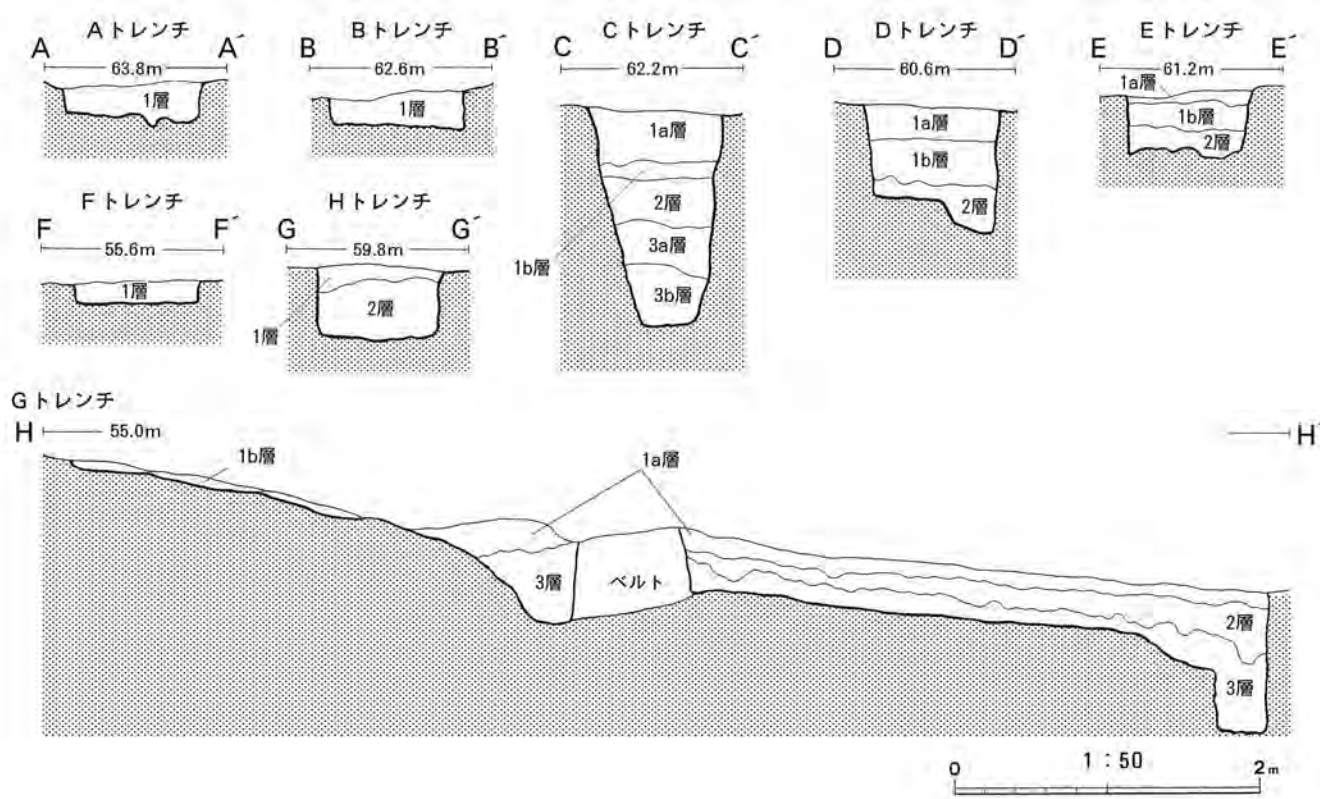
A・Bトレンチは市道蜂ヶ沢線北側の畑地に設定し、Aトレンチは長さ 7 m×幅 1 m、Bトレンチは長さ 4 m×幅 1 m である。Aトレンチの堆積土は 2 層に分けられ、ともに耕作土である。層厚 25 cm～40 cm で地山となり、上面は畑耕作により掘削されていると思われる。遺構・遺物は検出されなかった。Bトレンチの堆積土は 1 層で、層厚 20 cm で地山となる。Aトレンチ同様、上面は掘削されていると思われる。遺構・遺物は確認されなかった。

C・D・Eトレンチ（第 27・28 図、写真図版 35～37）

C・D・Eトレンチは市道蜂ヶ沢線の南側、工事計画では盛土とする箇所に設定した。Cトレンチは 1 m×1 m の坪掘り、Dトレンチは長さ 10 m×幅 1 m、Eトレンチは 1 m×1 m の坪掘りで遺構・遺物の確認を行っている。Cトレンチの堆積土は 1 層～3 層に大別され、1 a 層・1 b 層と 3 a 層・3 b 層に細別される。全て盛土層である。遺構・遺物は確認されなかった。Dトレンチの



第 27 図 遺跡隣接地の試掘調査 トレンチ位置図



Aトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
畑耕作土 1	10Y R3/4 暗褐色砂壤土	10Y R4/3 にぶい黄褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

Eトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
自然堆積層	1a	10Y R2/2 黒褐色砂壤土	10Y R4/3 にぶい黄褐色砂壤土 3%塊状	やや硬質、粘性あり
	1b	2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色砂壤土	10Y R4/6 褐色砂壤土5%塊状	軟質、粘性あり
	2	10Y R3/2 黒褐色砂壤土	10Y R3/4 暗褐色砂壤土1%塊状	硬質、粘性あり

Bトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
畑耕作土 1	10Y R3/4 暗褐色砂壤土	10Y R4/3 にぶい黄褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり

Fトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土層 1	10Y R3/3 暗褐色暗黄砂土	10Y R4/4 褐色壤質砂土20%塊状	硬質、粘性あり

Cトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
盛土層	1a	10Y R3/3 暗褐色砂壤土	10Y R3/4 暗褐色砂壤土30%塊状	軟質、粘性ややあり
	1b	10Y R4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10Y R4/2 灰黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	2	10Y R4/6 褐色砂壤土	10Y R4/3 にぶい黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	3a	10Y R4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10Y R4/6 褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	3b	10Y R2/2 黒褐色砂壤土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり

Gトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
盛土層	1a	10Y R3/4 暗褐色砂質壤土	10Y R3/3 暗褐色壤土20%塊状	硬質、粘性あり 炭化物、現代ごみ多量
		10Y R3/2 黒褐色壤土10%塊状	10Y R3/2 黒褐色壤土10%塊状	
	1b	10Y R2/2 黒褐色砂質壤土	10Y R3/3 暗褐色砂質壤土10%塊状	硬質、粘性あり
		10Y R3/4 暗褐色暗黄砂土	10Y R2/1 黒色壤質砂土5%塊状	
	2	10Y R3/4 暗褐色暗黄砂土	10Y R2/1 黒色壤質砂土5%塊状	硬質、粘性あり 炭化物含まれる
3	10Y R2/3 黒褐色砂質壤土	10Y R3/3 暗褐色砂質壤土10%塊状	硬質、粘性あり	
	10Y R2/2 黒褐色砂質壤土	10Y R2/2 黒褐色砂質壤土10%塊状		

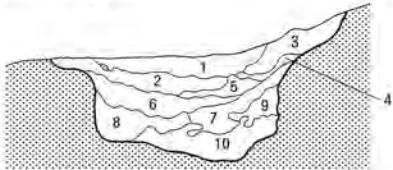
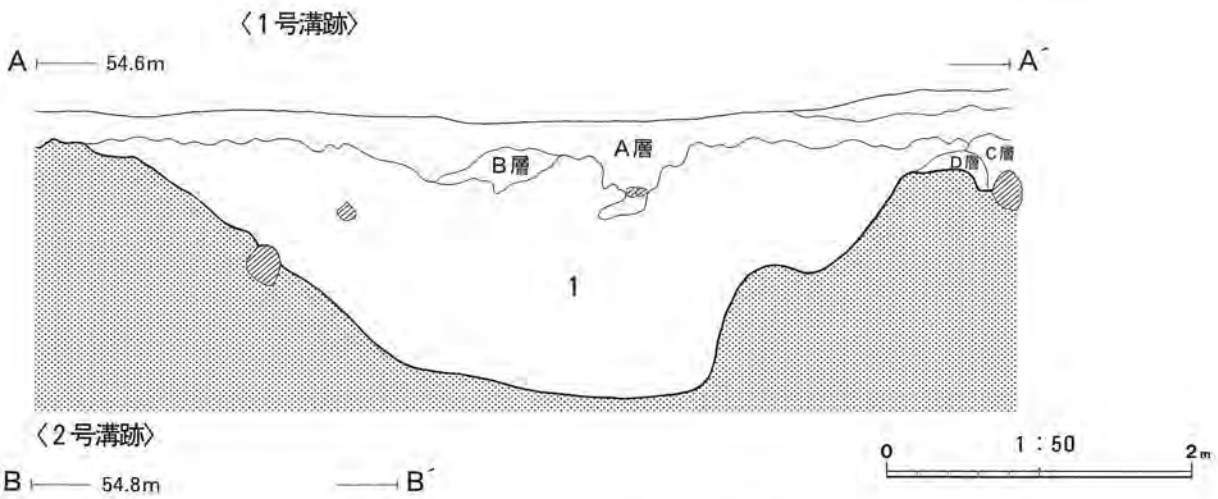
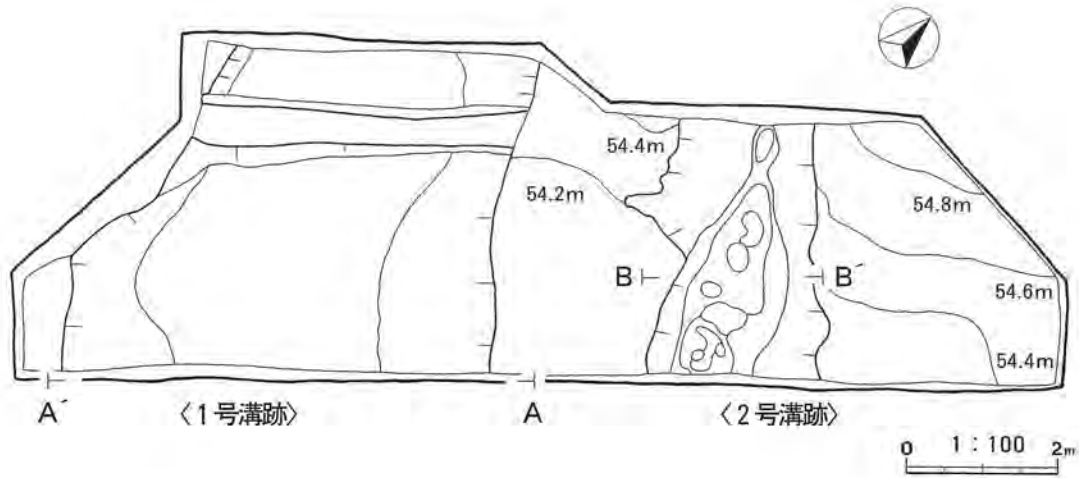
Dトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
畑耕作土	1a	10Y R3/2 黒褐色砂壤土	10Y R2/2 黒褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	1b	10Y R3/3 暗褐色砂壤土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
		10Y R2/2 黒褐色砂壤土	10Y R3/3 暗褐色砂壤土1%塊状	
2	10Y R2/2 黒褐色砂壤土	10Y R3/3 暗褐色砂壤土1%塊状	硬質、粘性あり	

Hトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
自然堆積層	1	10Y R2/3 黒褐色砂壤土	10Y R3/4 暗褐色砂壤土1%塊状	硬質、粘性あり
	2	10Y R3/4 暗褐色砂壤土	10Y R4/6 褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり

第 28 図 遺跡隣接地の試掘調査 トレンチ断面図



試掘 | トレンチ 1号溝跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
溝跡埋土	1 10Y R1.7/1 黒色埴土	10Y R3/3 暗褐色埴土5%塊状	硬質、粘性あり
基本土層	A 10Y R2/2 蒸褐色埴土	10Y R2/3 黒褐色埴土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	B 10Y R3/3 暗褐色砂土	10Y R5/4 にぶい黄褐色砂土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 炭化物腐蝕含まれる
	C 10Y R2/2 黒褐色砂土	10 Y R2/1 黒色砂土5%塊状	軟質、粘性ややあり 腐蝕含まれる
	D 10Y R5/4 にぶい黄褐色砂土	10Y R2/2 黒褐色砂土20%塊状	硬質、粘性あり

試掘 | トレンチ 2号溝跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
溝跡埋土	1 10Y R2/1 黒色埴土	10Y R2/3 黒褐色砂埴土5%塊状	やや硬質、粘性あり 1~2mm大の小礫微量
	2 10Y R2/2 黒褐色砂質埴土	10Y R3/3 暗褐色砂土2%塊状	硬質、粘性ややあり 2~3mm大の小礫微量
	3 10Y R4/6 褐色シルト質埴土	10Y R2/1 黒色埴土5%塊状	やや硬質、粘性あり 1~2mm大の小礫微量
	4 10Y R5/8 黄褐色シルト質埴土	—	やや硬質、粘性あり
	5 10Y R4/6 褐色シルト質埴土	10Y R5/8 黄褐色シルト質埴土5%塊状	やや硬質、粘性あり 1~2mm大の小礫微量
	6 10Y R2/2 黒褐色埴土	10Y R4/4 褐色シルト質埴土2%塊状	やや硬質、粘性あり 1~2mm大の小礫微量
	7 10Y R4/6 褐色シルト質埴土	10Y R2/2 黒褐色埴土5%塊状	やや硬質、粘性あり 1~2mm大の小礫微量
	8 10Y R6/4 にぶい黄褐色砂土	10Y R7/6 明黄褐色砂土30%塊状	やや硬質、粘性ややあり 1~2mm大の小礫微量
	9 10Y R5/6 黄褐色砂土	10Y R2/3 黒褐色砂埴土7%塊状	やや硬質、粘性あり 1~2mm大の小礫微量
	10 10Y R2/3 黒褐色埴質砂土	10Y R7/2 にぶい黄褐色砂土25%塊状	硬質、粘性あり 2~3mm大の小礫微量

第29図 遺跡隣接地の試掘調査 | トレンチ平面図・断面図



第30図 遺跡隣接地の試掘調査 出土遺物

堆積土は2層に分けられ、1層は1 a層・1 b層に細別される。ともに畑の耕作土であり、茶碗の欠片やガラス片、鉄滓が混入している。遺構は確認されなかった。Eトレンチの堆積土は2層に分けられ、1層は1 a層・1 b層に細別される。遺構・遺物は確認されなかった。

Fトレンチ (第27・28図、写真図版38)

Fトレンチは市道蜂ヶ沢線の南側、工事計画では盛土とする箇所に設定した。市道から下に2 mほどの比高差があり、法面には地山が露出していたため、すでに掘削されているものと推測されたが、1 m×1 mの坪掘りを行った。堆積土は1層で、約15 cmで地山面となり、遺構・遺物は確認されなかった。

Gトレンチ (第27・28図、写真図版39)

Gトレンチは工事区間の東端、山口方面側に設定した。東西8 m×南北4 mで遺構・遺物の確認を行っている。西側は約5 cmで地山となり、東側に向かって落ち込んでいる。トレンチの東と南の端で深掘りを行ったが、湧水がひどく、地山を確認できなかった。堆積土は1層～3層に分けられ、1層・2層からはビニール袋などが出土し、3層からも現代のものと思われる錆びた鉄の製品が出土しているため、平坦地を造るための盛土層と思われる。遺構・遺物は確認されなかった。

Hトレンチ (第27・28図、写真図版40)

Hトレンチは市道蜂ヶ沢線の北側、工事計画では掘削する箇所において1 m×1 mの坪掘りを行った。層厚約40 cmで地山面となり、堆積土は2層に分けられる。遺構・遺物は確認されなかった。

Iトレンチ (第27・29・30図、写真図版41～45・81)

Iトレンチは工事区間の東端にある畑地に長さ14 m×幅1 mで設定した。その結果、畑の耕作土であるA層の下層から溝跡が2条検出された。

1号溝跡は、北西―南東方向に掘り込まれており、断面形はやや不整な逆台形状を呈する。幅は最大5.7 m、深さ約1.5 mで堆積土は1層のみである。湧水がひどく、部分的にのみ底面を確認した。遺物は縄文土器(第30図1・2)、土師器・須恵器(第30図3・4)、鉄滓などが混在した状態で出土している。

2号溝跡は、1号溝跡同様北西―南東方向に掘り込まれ、上部は緩やかに立ち上がるが、下部は壁が垂直に立ち上がる。幅は最大2.5 m、深さは約0.65 mで、堆積土は1層～10層に細別される。底面には水の流れによる凹凸が観察される。底面近くから現代の茶碗の欠片が出土しているため、現代の所産と思われる。

第4章 山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡

第1節 試掘調査方法と調査経過

実測・写真撮影・土層注記

試掘トレンチ平面図及び断面図の縮尺は1/20を基本とし、レベルは市道蜂ヶ沢線道路工事の基準杭をもとに調査区に基準高を設定した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

整理の方法

調査終了後、試掘調査トレンチ平面図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし第2原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

出土した遺物は現場での取上げ後、埋蔵文化財調査室で水洗いを行い、袋ごとに番号を付した。それを基に遺物台帳を作成し、整理作業の基本台帳とした。遺物は縄文土器の小片であり盛土層中からの出土のため本報告では図示していない。

調査経過

<平成19年度 試掘調査>

- 4月12日 試掘調査対象範囲の確認、現況の写真撮影を行った。A～Fトレンチを設定した。
- 4月13日 A・Bトレンチの掘り下げを開始した。
- 4月24日 Cトレンチの掘り下げを開始した。
- 4月27日 Dトレンチの掘り下げを開始した。
- 5月1日 E・Fトレンチの掘り下げを開始した。Aトレンチ断面図の作成を行った。
- 5月7日 Cトレンチ断面図・Aトレンチ平面図を作成した。
- 5月8日 Bトレンチ断面図を作成した。
- 5月9日 Bトレンチ平面図・Dトレンチ・Eトレンチ断面図を作成した。
- 5月10日 C・D・Eトレンチ平面図を作成した。
- 5月14日 Fトレンチ平面図を作成した。機材を撤収し、試掘調査を終了した。

<平成21年度 試掘調査>

- 10月6日 現況の写真撮影を行い、G・Hトレンチを設定した。トレンチ掘り下げを開始した。
- 10月9日 G・Hトレンチ断面図を作成した。
- 10月13日 G・Hトレンチ平面図を作成した。機材を撤収し試掘調査を終了した。

第2節 試掘調査概要

平成19年度 試掘調査

Aトレンチ（第31・32図、写真図版46～51）

Aトレンチは雇用促進住宅の西にある畑地において設定した。当初長さ15m、幅1.5mで設定したが、東西端部と中央部の3箇所でも部分的に掘り下げを行い、それぞれAトレンチNo.1～No.3として堆積状況の確認と図面作成を行なった。

堆積土は1層～12層に細別され、1層～8層は盛土層、9層～12層は粒子の粗い砂層である。AトレンチNo.1には2・5・6・9・10層が堆積しており、10層はさらに下層に続いている。AトレンチNo.2には2～6・10層が堆積し、No.1同様10層はさらに下層に堆積している。AトレンチNo.3は1～3・5～8・11・12層が堆積している。12層は赤褐色を呈する砂層でさらに下層に堆積している。全ての地点で基盤層は確認されず、調査地点のすぐ南側を流れる蜂ヶ沢による水成堆積層が厚く堆積していると考えられる。盛土中から縄文土器が4点出土している。遺構は確認されなかった。

Bトレンチ（第31・33図、写真図版46～48・52・53）

BトレンチはAトレンチの西側に位置し、現況は畑地である。長さ10m、幅1mで設定した。堆積土は1層～5層に大別され、1層は1a層～1c層、2層は2a層・2b層に細別される。1a層～2b層までが盛土層で、1a層・1b層はそれぞれAトレンチ2層・3層に対応する。3層～5層は粒子の粗い砂層で5層はさらに下層に堆積している。Aトレンチ同様、基盤層は確認できなかった。3層以下の砂層については蜂ヶ沢の水成堆積と考えられ、Bトレンチ周辺は最も沢に近接している地点になる。盛土中から縄文土器が出土しているが、全て混入したものと思われる。遺構は確認されなかった。しかし、A・Bトレンチ周辺の畑からは縄文土器や土師器が表採されるため、蜂ヶ沢よりも離れた尾根裾などで遺構が確認される可能性が考えられる。

Cトレンチ（第31・33図、写真図版54～57）

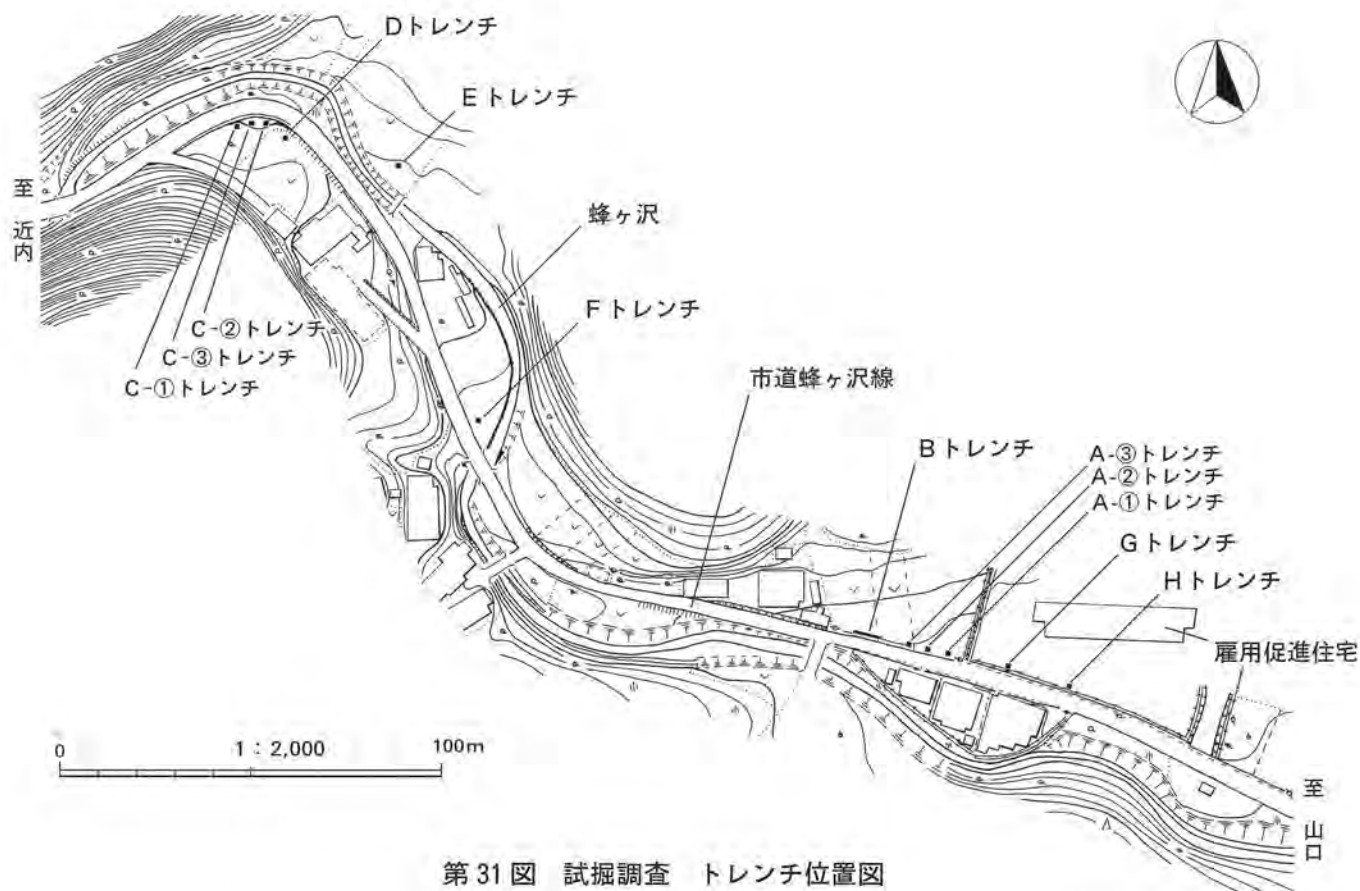
Cトレンチは試掘調査対象範囲の西端にある畑地に設定した。当初長さ10m、幅1mで設定したが、部分的に掘り下げを行い、最終的にCトレンチNo.1～3の3箇所において遺構・遺物の確認と図面作成を行った。

堆積土は1層～7層に大別され、さらに3a層・3b層、5a層・5b層に細別される。層厚は異なるが1層～3a層までは、No.1～3ともに同様の層序で堆積している。それより下層は箇所により異なり複雑な堆積状況を呈している。1層は畑の耕作土、2層は盛土、3a層・3b層は黒褐色を呈する堆積土である。4層は砂層でNo.2にしか堆積していない。5a層・5b層は黒色を呈する砂壤土で、6層・7層は礫層で20cm～30cm大の礫が含まれている。これより下層は礫のために掘り下げられなかった。遺構・遺物は確認されなかった。

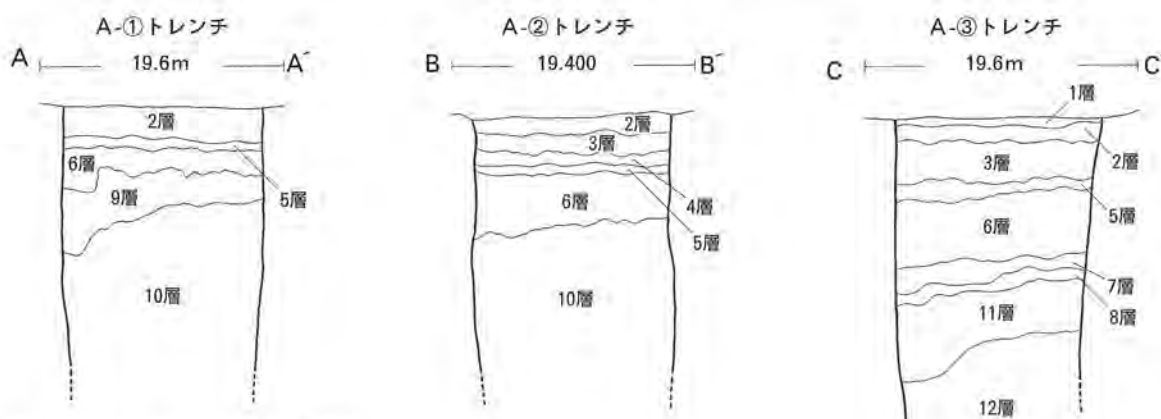
Dトレンチ（第31・33図、写真図版55・58）

Dトレンチは試掘調査対象範囲の西端、Cトレンチの東側に1m四方で設定した。現況は畑地であるが、すぐ北側は道路に面したブロックの法面となっている。

堆積土は1層～4層に大別され、さらに2a層～2c層に細別される。1層は畑の耕作土、2a層～2c層は盛土、3層は黒色を呈する堆積土、4層は礫層である。遺構・遺物は確認されなかつ



第31図 試掘調査 トレンチ位置図



A-①・A-②・A-③トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
盛土層	1	10Y R2/3 黒褐色埴土	10Y R3/2 黒褐色埴土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2	10Y R3/4 暗褐色埴土	10Y R4/4 褐色埴土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3	10Y R3/3 暗褐色埴土	10Y R4/4 褐色埴土10%塊状	硬質、粘性あり
	4	10Y R3/4 暗褐色埴土	10Y R4/6 褐色埴土5%塊状	硬質、粘性あり
	5	10Y R3/3 暗褐色埴土	10Y R4/6 褐色埴土10%塊状	硬質、粘性あり
	6	10Y R3/2 黒褐色埴土	10Y R3/3 暗褐色砂埴土10%塊状	硬質、粘性あり 炭化物含まれる
	7	10Y R2/2 黒褐色埴土	10Y R2/3 黒褐色埴土10%塊状	硬質、粘性ややあり
	8	10Y R2/2 黒褐色埴土	10Y R2/3 黒褐色埴土5%塊状	硬質、粘性あり
水成堆積層	9	10Y R2/3 黒褐色砂埴土	10Y R3/3 暗褐色砂土30%塊状	やや硬質、粘性ややあり 3mm~5mm大の小礫含まれる
	10	10Y R2/2 黒褐色砂土	10Y R2/3 黒褐色砂土30%層状	やや硬質、粘性なし
	11	10Y R2/2 黒褐色砂土	10Y R3/1 黒褐色砂土10%層状 10Y R2/3 黒褐色砂土10%層状	軟質、粘性なし
	12	10Y R2/1 黒色砂埴土	10Y R2/2 黒褐色砂埴土10%塊状	硬質、粘性あり 5mm大の小礫多数含まれる
		7.5Y R4/6 褐色砂土20%層状 7.5Y R2/1 黒色砂土10%層状	軟質、粘性なし	

0 1 : 50 2m

第32図 試掘調査 トレンチ断面図(1)

た。しかし、周辺の畑地からは少量ではあるが土師器が表採されている。

Eトレンチ（第31・33図、写真図版59・60）

Eトレンチは山口駒込Ⅱ遺跡範囲内に広がる畑地に長さ2m、幅1mで設定した。蜂ヶ沢に近接しており、周辺には1mを超える礫が点在している。この畑地の北側にある尾根裾部からは鉄滓や羽口が多量に表採されている。

堆積土は1層～3層に分けられ、3層はさらに下層に続いている。1層・2層は砂壤土で、3層は砂層である。全て沢による水成堆積と考えられ、遺構・遺物は確認されなかった。

Fトレンチ（第31・33図、写真図版61・62）

Fトレンチは試掘調査対象範囲のほぼ中央部で山口駒込Ⅱ遺跡の範囲内に長さ約1.3m、幅1mで設定した。宅地前にある駐車場わきに位置する。

堆積土は1層～7層に分けられ、全て盛土層である。最下層である7層中からもビニール袋片などが混入している。7層の下層には基盤層である風化花崗岩がみられ、7層との境は明確に区別され、地山漸移層の堆積も確認されなかったことから、この基盤層の上面は一度掘削されている可能性が考えられる。

平成21年度 試掘調査

Gトレンチ（第31・33図、写真図版63・64）

Gトレンチは試掘調査対象範囲の西端、雇用促進住宅の南西側に設定した。長さ1.5m、幅1.5mで設定し、掘り下げを行った。

堆積土は1層～5層が確認され、その内2層は2a層・2b層に細別される。1層～4層は盛土層、5層は粒子の粗い砂層である。南北方向の断面で堆積状況を見ると、盛土層は砂層を削るように堆積しており、雇用促進住宅の南端にあるよう壁を作る工事によるものと考えられる。砂層は近接して流れる蜂ヶ沢の水成堆積層と考えられる。

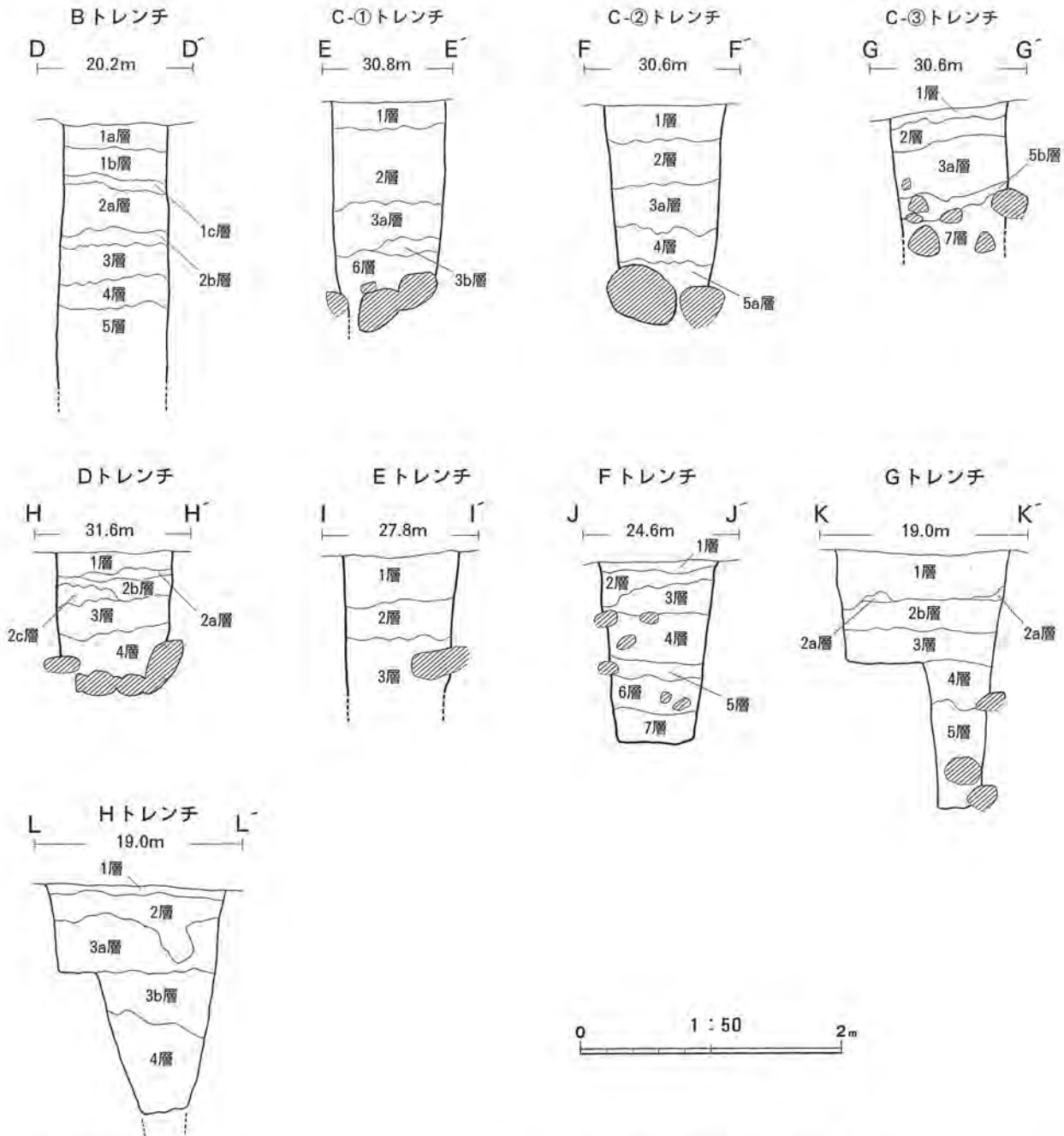
盛土層からはビニールなど現代のものが混入し、砂層からの遺物の出土もなかった。遺構も確認されなかった。

Hトレンチ（第31・33図、写真図版63・65・66）

Hトレンチは試掘調査対象範囲の西端、Gトレンチから東へ15mの地点に長さ1.5m、幅1mで設定した。

堆積土は1層～4層が確認され、さらに3層は3a層・3b層に細別される。1層～3a層・3b層は盛土層、4層は粒子の粗い砂層で、Gトレンチと同様の堆積状況である。

遺構は確認されず、砂層からの遺物の出土もなかった。



Bトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層	1a 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	1b 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R4/4 褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	1c 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R3/3 暗褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
水成堆積層	2a 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R3/3 暗褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり 灰化物少量含まれる
	2b 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R4/3 にふい黄褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	3 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
4 10Y R2/2 黒褐色砂壤土	10Y R2/1 黒色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり	
5 10Y R2/3 黒褐色砂土	10Y R3/3 暗褐色砂土20%層状	軟質、粘性なし	

C-①・C-②・C-③トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
畑耕作土	1 10Y R2/2 黒褐色砂壤土	10Y R3/2 黒褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	盛土層 2 10Y R2/1 黒色埴壤土	10Y R5/4 にふい黄褐色砂壤土10%塊状 10Y R2/1 黒色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり 雲母多量含まれる
自然堆積層	3a 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R2/2 黒褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性あり
	3b 10Y R2/1 黒色砂壤土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
水成堆積層 4 10Y R3/3 暗褐色砂土	10Y R2/2 黒褐色砂土30%層状		やや硬質、粘性なし
水成堆積層	5a 10Y R2/1 黒色砂壤土	10Y R2/2 黒褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	5b 10Y R2/1 黒色砂壤土	10Y R3/4 暗褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 5mm大の小礫含まれる
礫層	6 10Y R2/3 黒褐色砂壤土	10Y R2/2 黒褐色砂壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 10cm大の礫多量含まれる
	7 10Y R5/8 黄褐色砂土	7.5Y R5/8 明褐色砂土20%塊状	軟質、粘性なし

第33図 試掘調査 トレンチ断面図(2)

Dトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
畑耕作土	1 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R2/3 黒褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2a 10Y R2/2 黒褐色砂土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
盛土層	2b 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R4/6 褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	2c 10Y R2/3 黒褐色埴壤土	10Y R5/8 黄褐色埴壤土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
自然堆積層	3 10Y R2/1 黒褐色埴壤土	10Y R2/2 黒褐色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
礫層	4 10Y R2/2 黒褐色砂壤土	10Y R3/2 黒褐色砂土10%塊状	硬質、粘性あり 5cm大の礫含まれる

Eトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水成堆積層	1 10Y R2/3 黒褐色砂壤土	10Y R2/2 黒褐色砂壤土10%塊状	軟質、粘性ややあり 5mm~1cm大の小礫多数
	2 10Y R2/2 黒褐色砂壤土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3 10Y R3/3 暗褐色砂土	10Y R2/3 黒褐色砂土30%層状	軟質、粘性なし

Fトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層	1 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R3/2 黒褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10Y R2/2 黒褐色埴壤土	10Y R2/1 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	3 10Y R3/1 黒褐色埴壤土	10Y R3/2 黒褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	4 10Y R3/1 黒褐色砂壤土	10Y R3/3 暗褐色砂壤土10%層状 10Y R3/2 黒褐色砂壤土10%塊状	やや硬質、粘性あり
	5 10Y R2/2 黒褐色砂壤土	10Y R3/1 黒褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 10cm~20cm大の礫
	6 10Y R2/3 黒褐色砂壤土	10Y R3/3 暗褐色砂壤土5%塊状	やや硬質、粘性あり 1cm大の礫
	7 10Y R2/1 黒色シルト質粘土	10Y R4/4 褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 10cm大の礫

Gトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層	1 10Y R3/2 黒褐色砂壤土	10Y R3/3 暗褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり 礫多量含まれる
	2a 10Y R3/4 暗褐色埴壤土	10Y R3/3 暗褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	2b 10Y R3/3 暗褐色埴壤土	10Y R3/2 黒褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり
水成堆積層	3 10Y R4/4 褐色砂	10Y R3/4 暗褐色砂20%層状	軟質、粘性なし
	4 10Y R2/3 黒褐色砂壤土	10Y R3/2 黒褐色砂30%層状	軟質、粘性あり
	5 10Y R4/3 にふい黄褐色砂	10Y R4/4 褐色砂20%層状	軟質、粘性なし 礫多量含まれる

Hトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層	1 10Y R2/3 黒褐色砂壤土	10Y R2/2 黒褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	2 10Y R3/2 黒褐色砂壤土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土10%塊状 10Y R3/3 暗褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	3a 10Y R3/4 暗褐色砂壤土	10Y R2/3 黒褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり
	3b 10Y R3/3 暗褐色砂壤土	10Y R4/3 にふい黄褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
水成堆積層	4 10Y R2/2 黒褐色シルト質粘土	10Y R4/6 褐色砂20%層状	硬質、粘性あり

第1表 蜂ヶ沢I遺跡 土器観察表(1)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文様(外面)	内面調整	胎土	備考
第9図	1	1号竪穴住居跡	床面	胴部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	
第9図	2	1号竪穴住居跡	床面	底部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	
第9図	3	1号竪穴住居跡	床面	胴部	撫糸文	内面ナテ	砂粒	
第9図	4	1号竪穴住居跡	床面	胴部	撫糸文	内面ナテ	砂粒	
第9図	5	1号竪穴住居跡	1層	口縁部	沈線、ナテ	内面ナテ	砂粒	
第9図	6	1号竪穴住居跡	1層	口縁部~底部	外面ナテ	内面ナテ	砂粒	完形、ミニチュア土器
第9図	7	1号竪穴住居跡	1層	胴部	単節斜縄文、磨滅不明	内面ナテ	砂粒	
第9図	8	1号竪穴住居跡	1層	胴部	単節斜縄文、磨滅不明	内面ナテ	砂粒	
第9図	9	1号竪穴住居跡	1層	胴部	R L単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	
第9図	10	1号竪穴住居跡	1層	胴部	磨滅不明	内面ナテ	砂粒	
第9図	11	1号竪穴住居跡	1層	胴部	R L単節斜縄文	内面ナテ	砂粒、繊維	
第9図	12	1号竪穴住居跡	1層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒、繊維	
第9図	13	1号竪穴住居跡	1層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	
第10図	14	1号竪穴住居跡	1層	胴部	R L単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	
第10図	15	1号竪穴住居跡	1層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	
第10図	16	1号竪穴住居跡	1層	胴部	L R単節斜縄文、沈線	内面ナテ	砂粒	
第10図	17	1号竪穴住居跡	1層	胴部	刺突、ナテ	内面ナテ	砂粒	
第10図	18	1号竪穴住居跡	1層	底部	磨滅不明	内面ナテ	砂粒	底部綑代痕
第10図	19	1号竪穴住居跡	1層	底部	磨滅不明	内面ナテ	砂粒	底部綑代痕
第10図	20	1号竪穴住居跡	1層	胴部~底部	粘土紐貼付	内面ナテ	砂粒	底部木葉痕
第10図	21	1号竪穴住居跡	p 10	胴部~底部	R L単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	底部木葉痕
第10図	22	1号竪穴住居跡	p 4	胴部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	
第10図	23	1号竪穴住居跡	p 4	胴部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	
第10図	24	1号竪穴住居跡	p 4	胴部	磨滅不明	内面ナテ	砂粒	
第10図	25	1号竪穴住居跡	p 4	胴部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	
第10図	26	1号竪穴住居跡	p 5	胴部	磨滅不明	内面ナテ	砂粒、繊維	
第10図	27	1号竪穴住居跡	p 5	胴部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	磨滅
第10図	28	1号竪穴住居跡	p 9	胴部	磨滅不明	内面ナテ	砂粒	
第10図	29	1号竪穴住居跡	p 9	胴部	R L単節斜縄文	内面ナテ	砂粒、繊維	
第10図	30	1号竪穴住居跡	p 10	胴部	L R単節斜縄文	内面ナテ	砂粒	

第1表 蜂ヶ沢I遺跡 土器観察表(2)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文様(外面)	内面調整	胎土	備考
第10図	31	1号竪穴住居跡	p 15	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	磨滅
第10図	32	1号竪穴住居跡	p 19	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第10図	33	1号竪穴住居跡	p 19	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第10図	34	1号竪穴住居跡	p 13	底部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第10図	35	1号竪穴住居跡	検出面	口縁部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	磨滅
第10図	36	1号竪穴住居跡	検出面	胴部	L R単節斜縄文+粘土紐貼付	内面ナデ	砂粒	
第10図	37	1号竪穴住居跡	検出面	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第10図	38	1号竪穴住居跡	検出面	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第10図	39	1号竪穴住居跡	検出面	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第13図	1	1号焼土遺構	2層	底部~胴部	R L単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	底部網代痕
第13図	2	1号焼土遺構	2層	底部~胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	磨滅、底部網代痕
第13図	3	2号焼土遺構	土器①	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第13図	4	2号焼土遺構	土器①	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第13図	5	2号焼土遺構	土器①	底部~胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	底部木葉痕
第13図	6	2号焼土遺構	土器②	底部~胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	底部網代痕
第14図	7	2号焼土遺構	土器③	口縁部~胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第19図	1	1号土坑	1層	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第19図	2	1号土坑	1層	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第19図	3	1号土坑	1層	底部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第19図	4	4号陥し穴	1層	口縁部	複節縄文、磨滅	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	5	3号陥し穴	2層	胴部	羽状縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	6	3号陥し穴	2層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	7	3号陥し穴	2層	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	8	P 1	1層	口縁部	R L単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第19図	9	P 1	1層	胴部	L R単節斜縄文、沈線	内面ナデ	砂粒	
第19図	10	P 5	1層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	11	P 5	1層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	12	P 29	3層	口縁部	無節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第19図	13	P 29	1層	口縁部	羽状縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	14	P 29	1層	口縁部	外面ナデ	内面ナデ	砂粒	
第19図	15	P 29	1層	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第19図	16	P 29	1層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第19図	17	P 29	1層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	18	P 29	1層	胴部	R L単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	19	P 29	1層	胴部	組縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第19図	20	P 29	1層	胴部	刺突、ナデ	内面ナデ	砂粒	
第19図	21	P 29	1層	底部	外面ナデ	内面ナデ	砂粒	底部木葉痕
第19図	22	P 29	1層	底部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	底部網代痕
第19図	23	土器埋設ビット	1層	胴部	R L単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第20図	24	土器埋設ビット	1層	胴部~底部	R L単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	底部網代痕
第20図	25	土器埋設ビット	1層	口縁部~胴部	R L単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第20図	26	P 29	3層	胴部~底部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	底部網代痕
第22図	1	遺物包含層	IV a層	口縁部~底部	外面ナデ	内面ナデ	砂粒	
第22図	2	遺物包含層	IV a層	口縁部	羽状縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	3	遺物包含層	IV a層	口縁部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	4	遺物包含層	IV a層	口縁部	羽状縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	5	遺物包含層	IV a層	口縁部	羽状縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	6	遺物包含層	IV a層	口縁部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	外面煤付着
第22図	7	遺物包含層	IV a層	口縁部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	8	遺物包含層	IV a層	口縁部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第22図	9	遺物包含層	IV a層	口縁部~胴部	組縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	10	遺物包含層	IV a層	胴部	組縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	11	遺物包含層	IV a層	胴部	組縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	12	遺物包含層	IV a層	胴部	組縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	13	遺物包含層	IV a層	胴部	組縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	14	遺物包含層	IV a層	胴部	組縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	15	遺物包含層	IV a層	胴部	組縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	16	遺物包含層	IV a層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	17	遺物包含層	IV a層	胴部	組縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第22図	18	遺物包含層	IV a層	胴部	羽状縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第23図	19	遺物包含層	IV a層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第23図	20	遺物包含層	IV a層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第23図	21	遺物包含層	IV a層	胴部	擦糸文	内面ナデ	砂粒	
第23図	22	遺物包含層	IV a層	胴部	R L単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第23図	23	遺物包含層	IV a層	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第23図	24	遺物包含層	IV a層	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第23図	25	遺物包含層	IV a層	底部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第23図	26	遺物包含層	IV b層	口縁部	条痕文、刺突	内面ナデ	砂粒	
第23図	27	遺物包含層	IV b層	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒、繊維	

第1表 蜂ヶ沢1遺跡 土器観察表(3)

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文様(外面)	内面調整	胎土	備考
第23図	28	遺物包含層	IV b 層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第23図	29	遺物包含層	IV b 層	胴部	R L単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第23図	30	遺物包含層	IV b 層	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第23図	31	遺物包含層	IV a 層	完形	外面ナデ	-	砂粒	キノコ形土製品
第26図	1	遺構外	I 層	口縁部	貝殻腹縁文	内面ナデ	砂粒	
第26図	2	遺構外	I 層	口縁部	貝殻腹縁文	内面ナデ	砂粒	口縁部端部貝殻文
第26図	3	遺構外	II 層	口縁部	貝殻腹縁文、刺突、沈線	内面ナデ	砂粒	
第26図	4	遺構外	攪乱	口縁部	貝殻腹縁文、刺突、沈線	内面ナデ	砂粒	
第26図	5	遺構外	II 層	胴部	貝殻腹縁文、刺突	内面ナデ	砂粒	
第26図	6	遺構外	II 層	口縁部	R L単節斜縄文、不整燃糸文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第26図	7	遺構外	II 層	口縁部	羽状縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	外面煤付着
第26図	8	遺構外	II 層	口縁部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第26図	9	遺構外	II 層	口縁部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第26図	10	遺構外	II 層	胴部	羽状縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第26図	11	遺構外	II 層	胴部	燃糸文	内面ナデ	砂粒	
第26図	12	遺構外	I 層	胴部	R L単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第26図	13	遺構外	III b 層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第26図	14	遺構外	II 層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒、繊維	
第26図	15	遺構外	III b 層	胴部	磨滅不明	内面ナデ	砂粒	
第26図	16	遺構外	III b 層	胴部	L R単節斜縄文	内面ナデ	砂粒	
第30図	1	遺跡隣接地	I 層	胴部	R L単節斜縄文、磨消縄文	内面ナデ	砂粒	
第30図	2	遺跡隣接地	I 層	口縁部	R L単節斜縄文、磨消縄文	内面ナデ	砂粒	
第30図	3	遺跡隣接地	I 層	底部	口クロ調整、回転糸切り痕	口クロ調整	砂粒	土師器
第30図	4	遺跡隣接地	I 層	口縁部	口クロ調整	口クロ調整	砂粒	須恵器

第2表 蜂ヶ沢1遺跡 石器観察表

挿図番号	番号	出土地点	層位	器種	現存する規模 (cmまたはg)				備考
					最大長	最大幅	最大厚	重量	
第11図	40	1号竪穴住居跡	検出面	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.7	
第11図	41	1号竪穴住居跡	検出面	石鏃	2.1	1.2	0.3	0.9	
第11図	42	1号竪穴住居跡、p1	3 層	石鏃	3.5	1.4	0.9	3.2	
第11図	43	1号竪穴住居跡	検出面	磨製石斧	(5.9)	1.5	0.7	12.3	刃部欠損
第11図	44	1号竪穴住居跡	I 層	打製石斧	13.4	6.9	3.9	486.7	
第11図	45	1号竪穴住居跡	I 層	磨石	(9.7)	6.5	4.9	384.4	
第11図	46	1号竪穴住居跡	I 層	磨石	(8.0)	6.2	4.2	255.1	
第20図	27	P 1	I 層	石棒	(12.8)	7.5	5.7	646.6	基部欠損
第24図	32	遺物包含層	IV b 層	石鏃	2.1	1.4	0.4	1	
第24図	33	遺物包含層	IV b 層	石鏃	1.8	1.4	0.2	0.7	
第24図	34	遺物包含層	IV a 層	石鏃	2.2	1.2	0.4	0.9	
第24図	35	遺物包含層	IV b 層	石鏃	2.7	1.6	0.5	1.5	基部欠損
第24図	36	遺物包含層	IV a 層	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.7	先端部欠損
第24図	37	遺物包含層	IV b 層	石鏃	1.9	1.4	0.2	0.5	
第24図	38	遺物包含層	IV b 層	石鏃	1.6	1.5	0.3	0.5	
第24図	39	遺物包含層	IV a 層	石鏃	3.0	1.4	0.5	2.4	先端部欠損
第24図	40	遺物包含層	IV a 層	石鏃	(2.6)	(1.7)	0.4	1.4	基部欠損
第24図	41	遺物包含層	IV a 層	石匙	3.5	1.7	0.6	3.2	刃部欠損
第24図	42	遺物包含層	IV a 層	石匙	7.0	1.3	0.7	6.6	
第24図	43	遺物包含層	IV a 層	磨製石斧	3.5	2.0	0.6	8.1	
第24図	44	遺物包含層	IV a 層	打製石斧	8.9	5.0	2.0	109.0	
第24図	45	遺物包含層	IV a 層	磨製石斧	7.6	4.4	2.6	127.6	
第24図	46	遺物包含層	IV a 層	磨製石斧	9.0	4.5	2.9	194.0	
第24図	47	遺物包含層	IV a 層	石棒	(3.5)	4.5	4.4	70.1	
第25図	48	遺物包含層	IV a 層	石皿	32.2	19.2	8.0	1380.0	
第26図	17	遺構外	II 層	石鏃	2.3	1.6	0.5	1.8	
第26図	18	遺構外	III b 層	石鏃	2.0	1.4	0.5	1.3	

第5章 まとめ

市道蜂ヶ沢線道路改良工事に伴う発掘調査は、平成16年度に蜂ヶ沢Ⅰ遺跡の試掘調査が行われ、竪穴住居跡などが確認されたため平成17年度に本調査を実施している。調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡1棟、焼土遺構2基、陥し穴4基、土坑1基、ピット32基、縄文時代の遺物包含層が検出され、縄文土器や石器などが出土している。その後、山口方面の道路改良工事に伴い、平成19・21年度に山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡の試掘調査を実施している。この試掘では遺構・遺物は確認されなかった。

ここでは、蜂ヶ沢Ⅰ遺跡から検出された遺構・遺物の概要とピット内から出土した石棒について詳述しまとめとしたい。

1. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡において検出された遺構・遺物の概要

蜂ヶ沢Ⅰ遺跡の本調査では竪穴住居跡は1棟のみ確認されている。平面形は不整な円形を呈し、東西約4.7m、南北約4.3mを測り中程度の規模である。床面においてはピットが多数検出されたが、攪乱により柱配置などの判断はできなかった。また炉跡も確認できなかった。この竪穴住居跡で特筆されるのがp10より出土したアスファルト塊である。ピット埋土の上層から出土した縄文土器内面の底で塊状に確認された。すでに固形化していたが、内面の底に貼りついた形状であったため当時は液状のものであったと推測され、保管・保存の状況がうかがえる。東北地方北部では秋田県におけるアスファルト産地が知られており、当時の交易・交流を考える上で貴重な資料といえる。

本竪穴住居跡は出土遺物から縄文時代中期と捉えているが、周辺において竪穴住居跡は今のところ確認されていない。遺跡の本体である集落跡は本調査地点のさらに西側に広がる緩斜面上にあるのではないかと推測される。

土坑は1号竪穴住居跡の東わきで検出されている。フラスコ状を呈する断面形から貯蔵用の土坑と考えられるが、これ以外に同様の土坑は検出されていない。このことから隣接する竪穴住居跡との関係がうかがえ、同時期である可能性も考えられる。

陥し穴は4基確認されているが、その検出状況・形態・長軸の方向などに規則性はみられなかった。長楕円形を呈し、幅は80cm～1mとあまりすぼまらず、比較的開口部の大きい形態をもつ。底面にピットなどは確認されなかった。道路拡幅工事に伴う狭小な調査範囲であるため、配置関係などは捉えられなかった。調査区周辺には段状の地形がみられるが、原地形は東流する蜂ヶ沢に向かって緩やかな斜面が広がっていたと考えられ、その斜面上に陥し穴が構築されていたと考えられる。

遺物包含層は本調査区東部で確認され、縄文時代前期の土器が出土している。地山面が東方向に向かって傾斜しており、その斜面上に堆積したものと考えられる。胎土に繊維が含まれている土器が大部分を占め、縄文時代前期のなかでも前葉の時期と推測される。

2. ピット内出土の石棒について

本調査区西部の1号竪穴住居跡の東で検出されたPit1(P1)からは石棒が出土している。P1は直径50cm、深さ45cmを測り、平面形は円形を呈する。石棒(第20図27)はピット検出面から約20cm掘り下げた層から出土し、先端部を上に向け立てたような状況で見つかった。さらに石棒出土の下層からは礫が3個出土している。これらの礫もピット内に据えられたような状況で確認されており、何らかの意図的な行為が考えられる。石棒の形態は、基部は欠損しているが先端部には十字の刻みが施され、さらにくびれ部にも横方向の線刻がみられる。表面には凹凸が観察された。

石棒は宮古市内において類例が少なく、崎山貝塚や千鷲Ⅳ遺跡などで出土しているのみであるが、

近年の復興事業に伴い発掘調査された高浜V下地神遺跡からは大形の石棒が出土し、少しずつではあるが資料が増加している。石棒は縄文文化を知る上では欠かせない資料であり、今後、類例が増加しさらに明らかになっていくことが期待される。

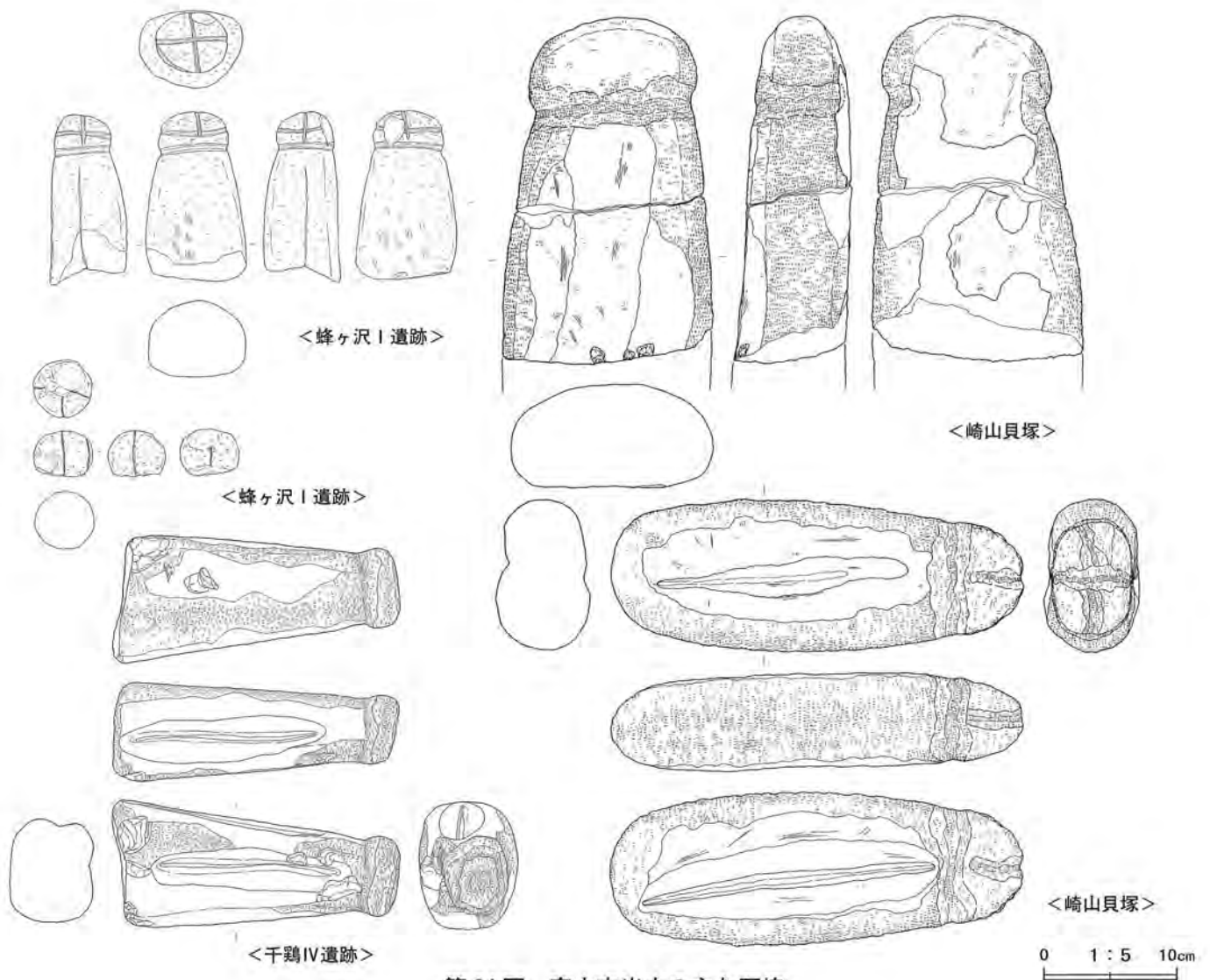
3. 総括

今回の市道蜂ヶ沢線道路改良工事に伴う発掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡や陥し穴、土坑、遺物包含層などの縄文時代における多様な遺構が検出され、沢に面した緩斜面上に営まれた縄文集落の様相の一端が垣間見られる調査結果となった。特に遺構外ではあるが縄文時代早期の土器が出土していることから、縄文時代早期・前期・中期と継続的に存続していた集落の存在が想定されよう。また、蜂ヶ沢から南へ尾根を越えると縄文時代の拠点的な集落である近内中村遺跡がある。今後、近内中村遺跡を含め、周辺の遺跡との関係も重要な課題になるとと思われる。

<引用・参考文献>

1995 『崎山貝塚―範囲確認調査報告書―』 宮古市埋蔵文化財調査報告書 44

1999 『千鷲IV遺跡―水産課千鷲地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
宮古市埋蔵文化財調査報告書 54

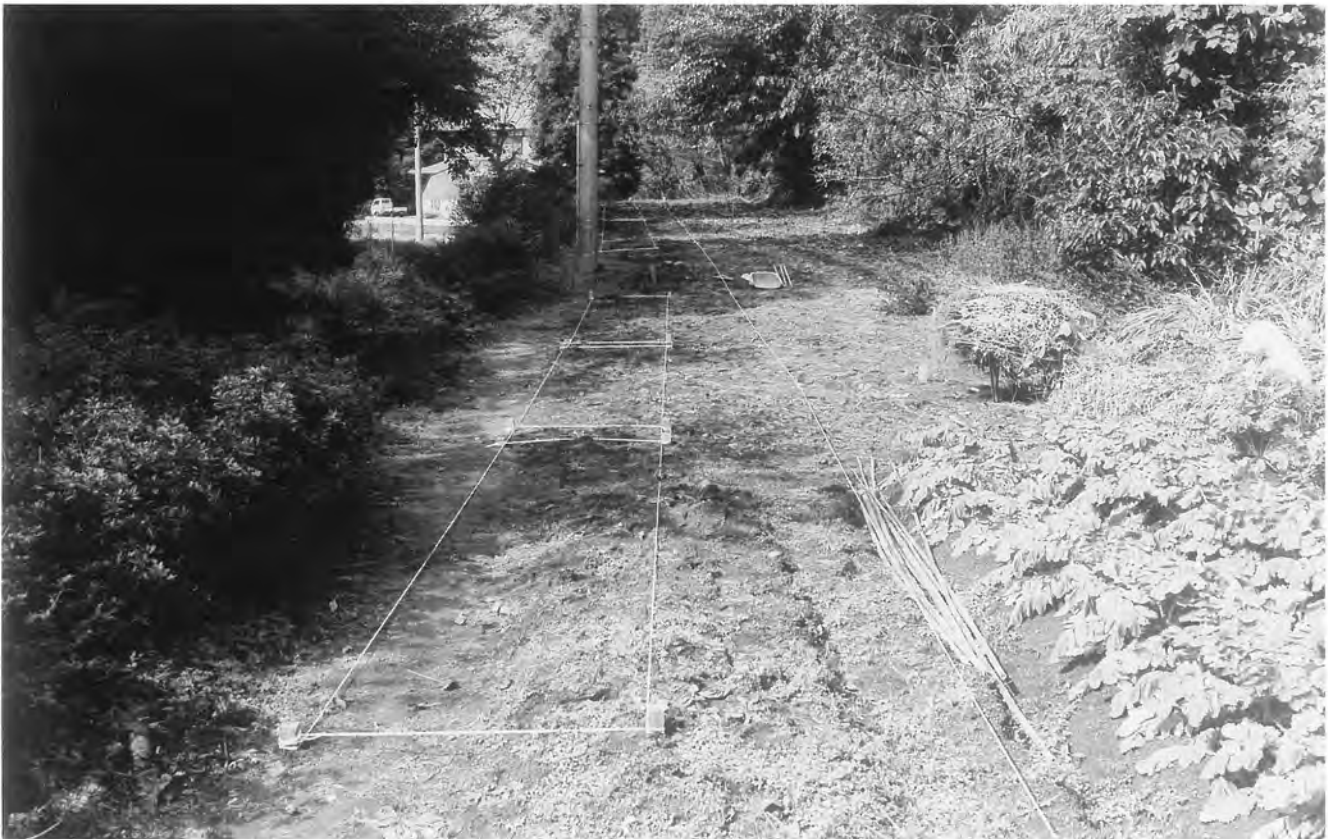


第34図 宮古市出土の主な石棒

写 真 图 版



1. 市道蜂ヶ沢線周辺 航空写真 (西→)



2. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 本調査区調査前状況 (東→)



3. 1号竖穴住居跡 検出状況 (東→)



4. 1号竖穴住居跡 調査状況 (西→)



5. 1号竖穴住居跡 遺物出土状況（西→）



6. 1号竖穴住居跡 完掘状況（西→）



7. 1号竖穴住居跡 p10
アスファルト塊出土状況 (南→)



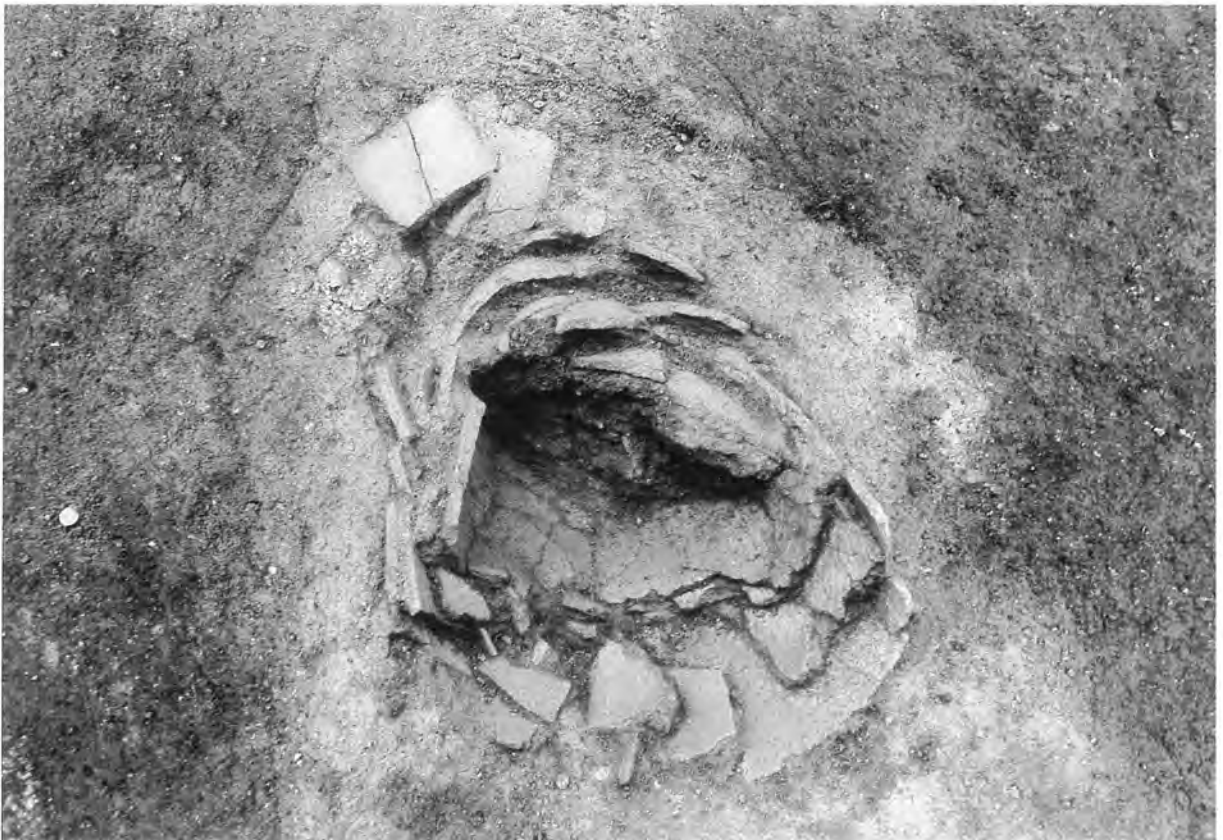
8. 1号竖穴住居跡 p10
アスファルト塊出土状況 (南→)



9. 1号焼土遺構 遺物出土状況 (南→)



10. 1号焼土遺構 完掘状況 (南→)



11. 2号焼土遺構 検出状況 (北→)



12. 2号焼土遺構 土器埋設状況(北→)



13. 2号焼土遺構 土器埋設状況(北→)



14. 2号焼土遺構 土器埋設状況(北→)



15. 2号焼土遺構 完掘状況(北→)



16. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 本調査区東部 完掘状況(西→)



17. 本調査区東部 土層堆積状況（南西→）



18. 本調査区東部 遺構調査状況（西→）



19. 1号陥し穴 完掘状況（北→）



20. 2号陥し穴 埋土堆積状況（南→）



21. 3号陥し穴 埋土堆積状況（南→）



22. 3号陥し穴 完掘状況（北→）



23. 4号陥し穴 埋土堆積状況（北→）



24. 4号陥し穴 完掘状況（北→）



25. 1号土坑 埋土堆積状況 (南東→)



26. 1号土坑 完掘状況 (南東→)



27. 本調査区西部 ピット検出状況 (西→)



28. 本調査区東部 ピット調査状況 (東→)



29. ピット1 (P1) 石棒出土状況 (南→)



30. ピット1 (P1) 礫出土状況 (南→)



31. ピット29 (P29) 遺物出土状況 (南→)



32. 土器埋設ピット 遺物出土状況 (南→)



33. 試掘 A トレンチ (東→)



34. 試掘 B トレンチ (西→)



35. 試掘 C トレンチ (南→)



36. 試掘 D トレンチ (東→)



37. 試掘 E トレンチ (南→)



38. 試掘 F トレンチ (東→)



39. 試掘 G トレンチ (南西→)



40. 試掘 H トレンチ (西→)



41. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡隣接地 溝跡 完掘状況 (北→)



42. 1号溝跡・2号溝跡 検出状況 (南→)



43. 1号溝跡 堆積状況 (西→)



44. 2号溝跡 堆積状況 (東→)



45. 2号溝跡 完掘状況 (東→)



46. 山口駒込Ⅰ遺跡 調査前状況 (西→)



47. 山口駒込Ⅰ遺跡 調査前状況 (東→)



48. 試掘A・Bトレンチ 調査状況 (東→)



49. 試掘A-①トレンチ 土層堆積状況 (西→)



50. 試掘A-②トレンチ 土層堆積状況 (東→)



51. 試掘A-③トレンチ 土層堆積状況 (東→)



52. 試掘Bトレンチ 土層堆積状況 (東→)



53. 試掘Bトレンチ 土層堆積状況 (南東→)



54. 山口駒込Ⅱ遺跡 調査前状況 (東→)



55. 山口駒込Ⅱ遺跡 調査前状況 (東→)



56. 試掘C-①トレンチ 土層堆積状況 (東→)



57. 試掘C-②トレンチ 土層堆積状況 (西→)



58. 試掘Dトレンチ 土層堆積状況 (西→)



59. 山口駒込Ⅱ遺跡 調査前状況 (西→)



60. 試掘Eトレンチ 土層堆積状況 (南東→)



61. 山口駒込Ⅱ遺跡 調査前状況 (西→)



62. 試掘Fトレンチ 土層堆積状況 (西→)



63. 山口駒込Ⅰ遺跡 試掘調査状況 (西→)



64. 試掘Gトレンチ 土層堆積状況 (北→)



65. 試掘Hトレンチ 土層堆積状況 (北→)



66. 試掘Hトレンチ 土層堆積状況 (東→)



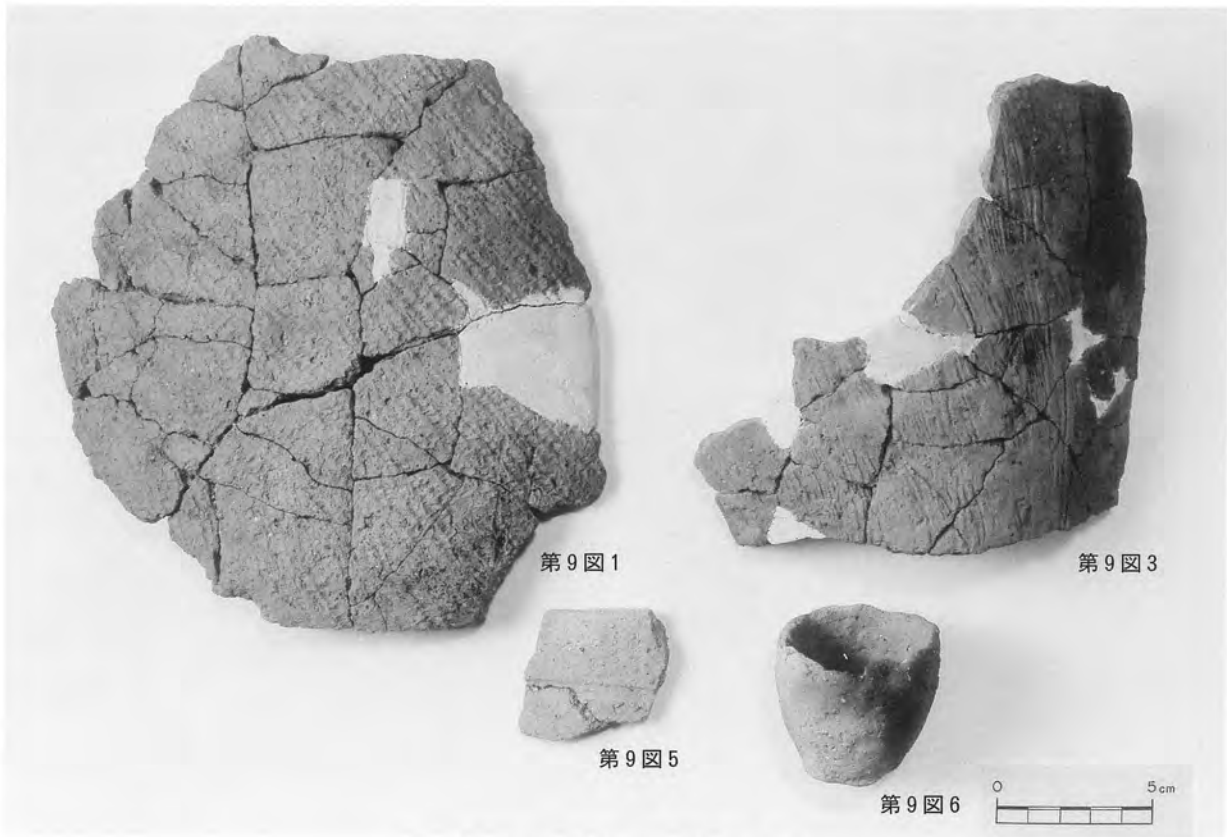
67. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 調査状況 (西→)



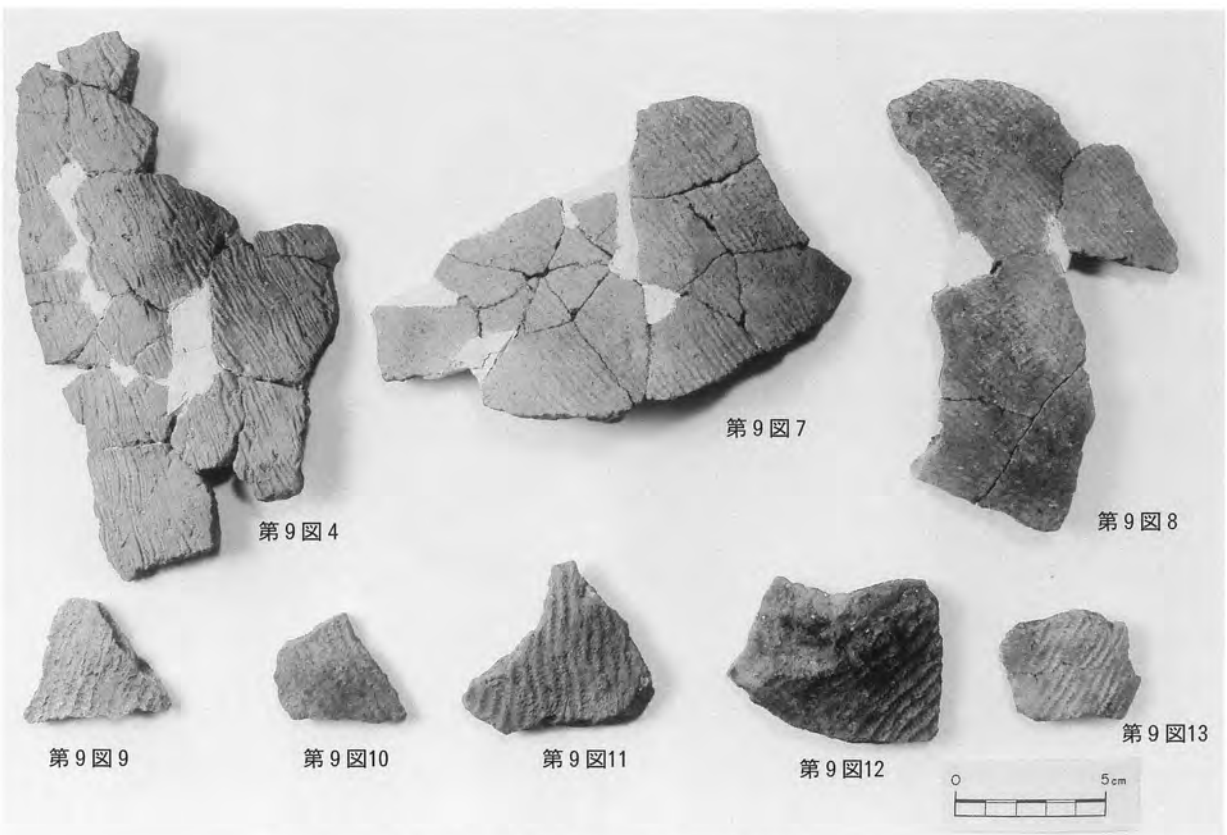
68. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡隣接地 調査状況 (東→)



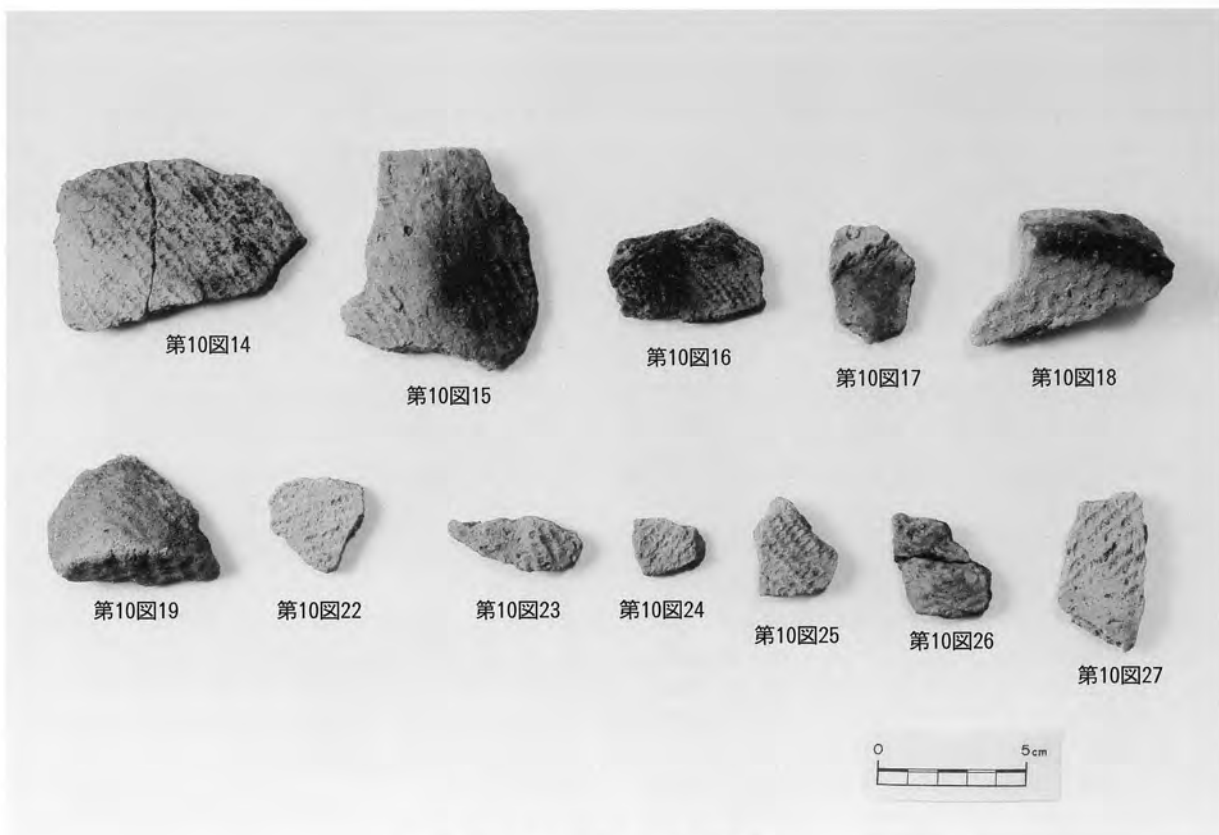
69. 市道蜂ヶ沢線工事完了状況 (東→)



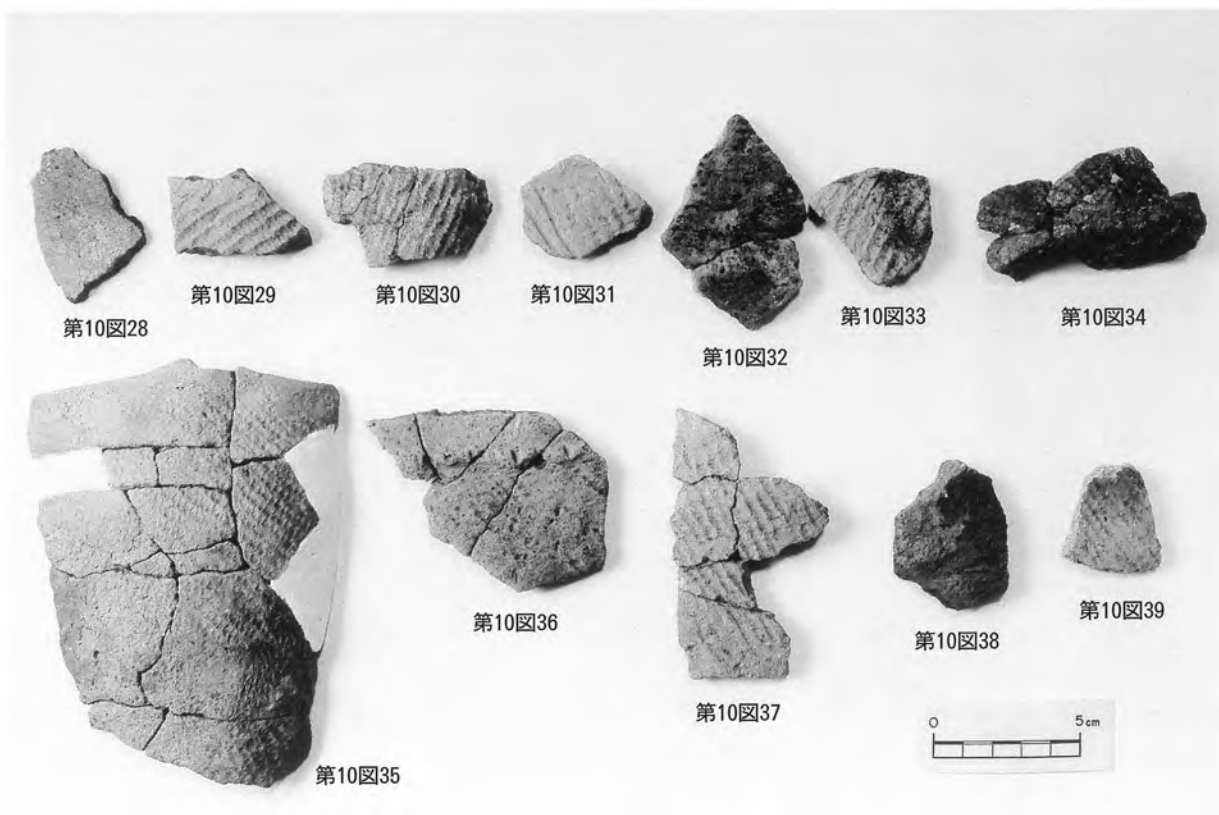
70. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物（1）



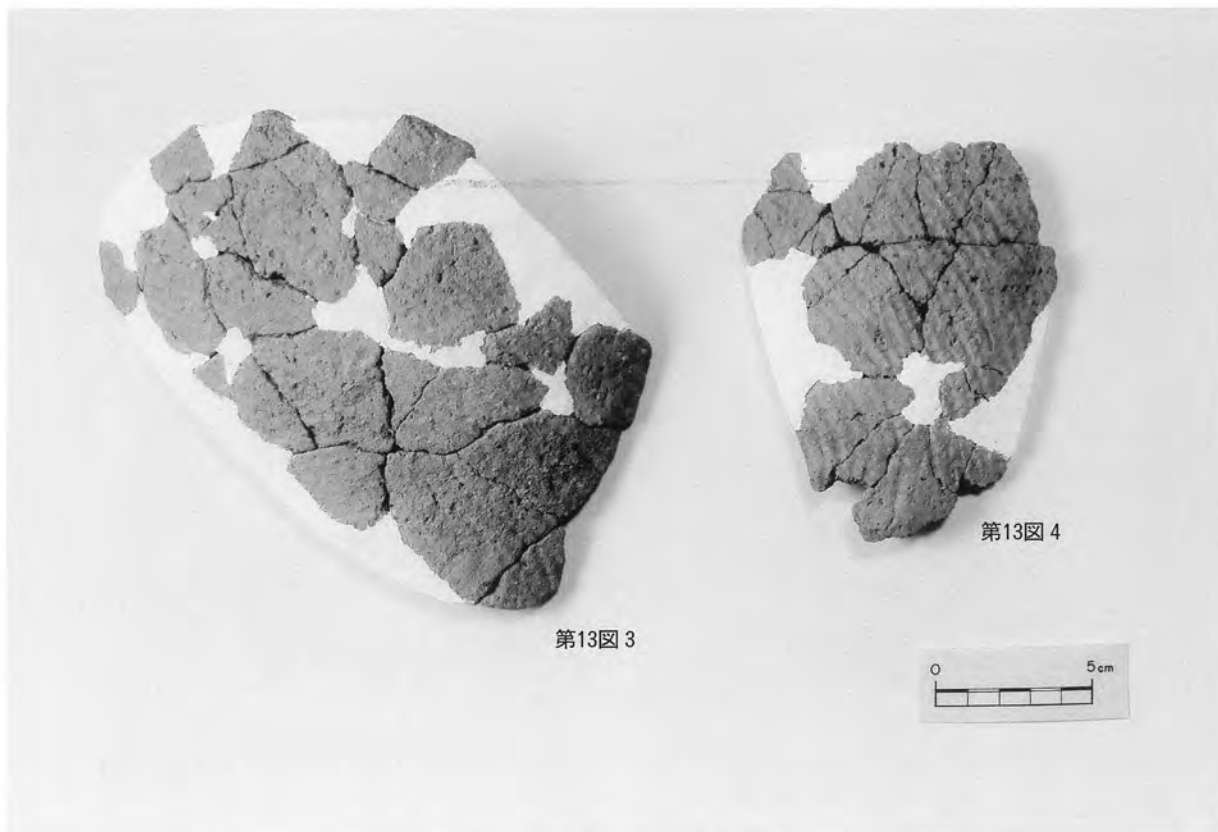
71. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物（2）



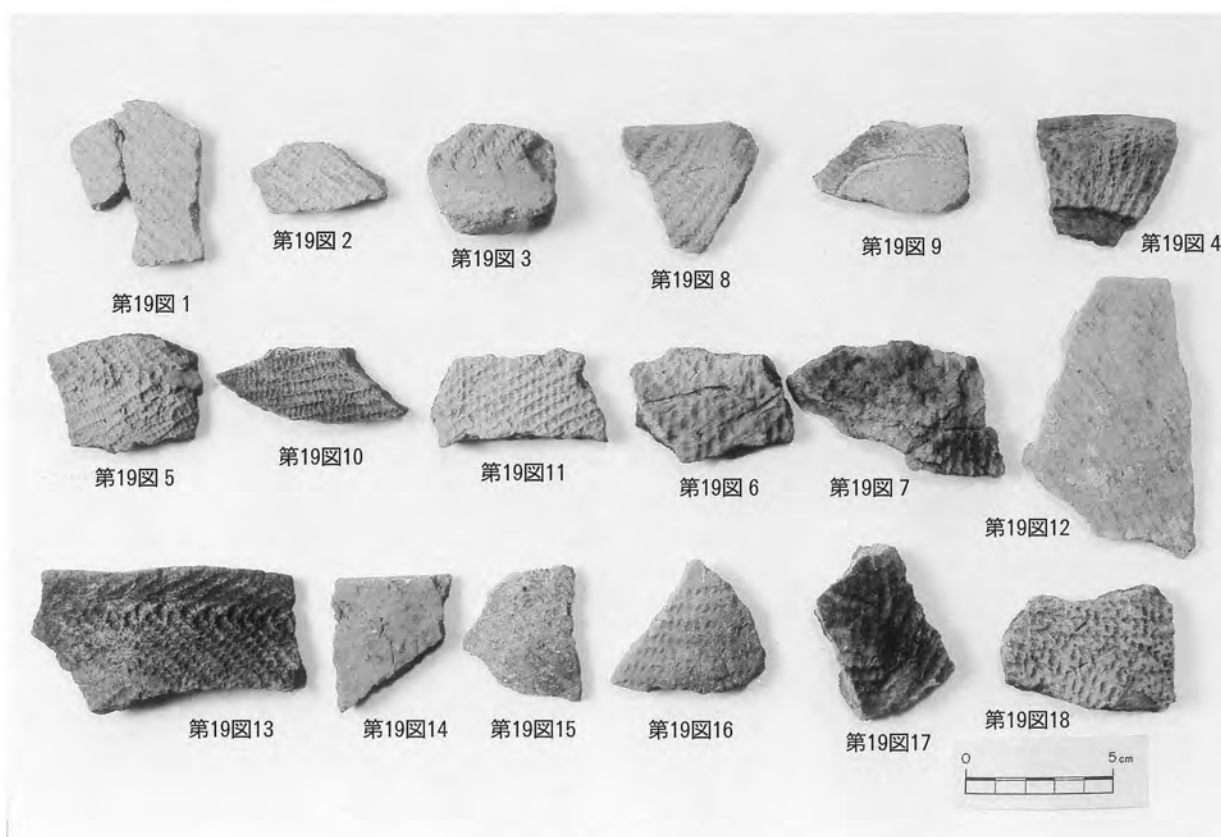
72. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物（3）



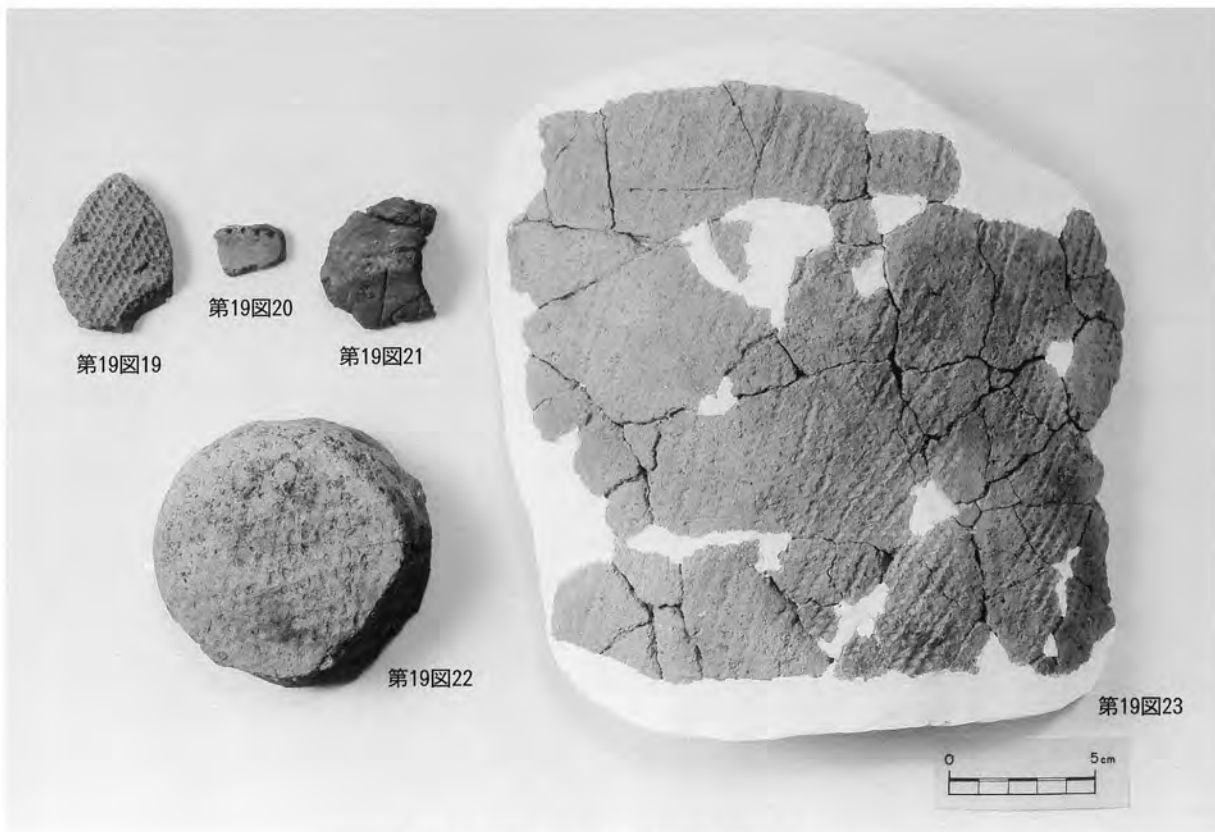
73. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物（4）



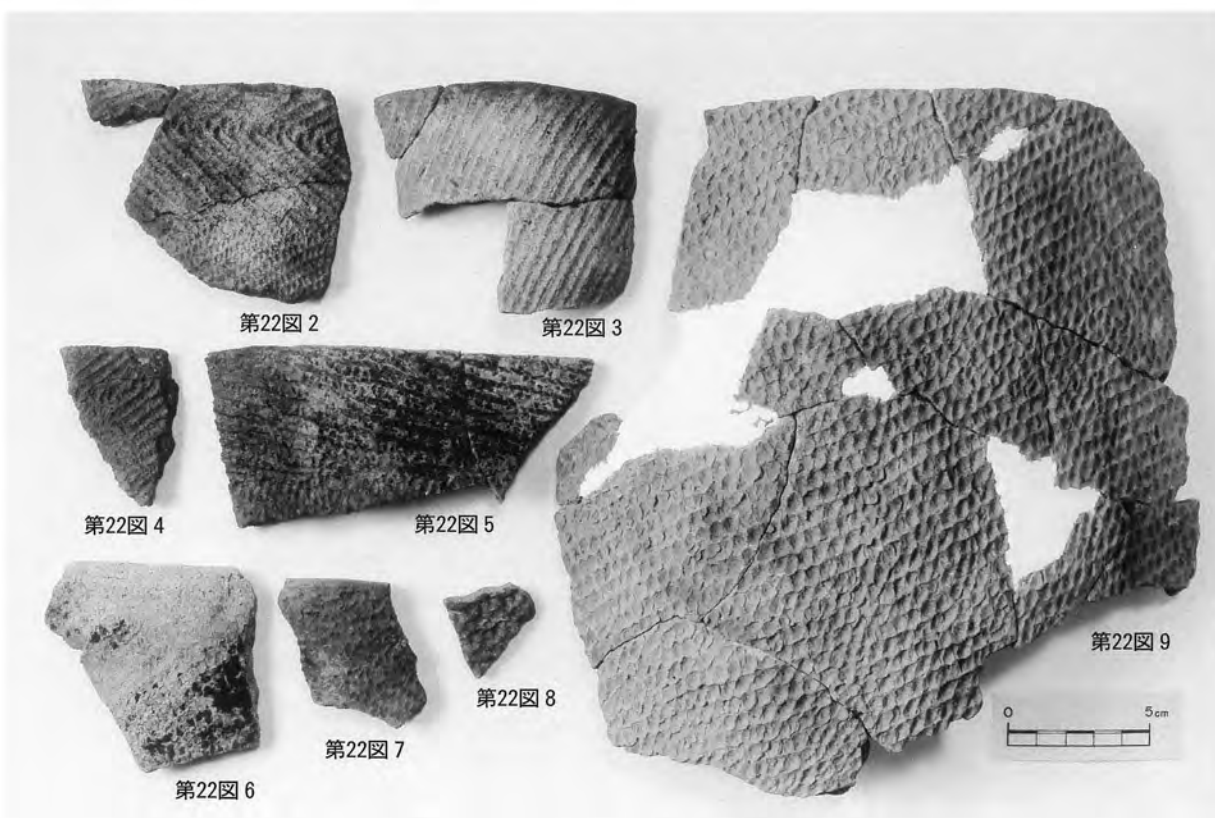
74. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物（5）



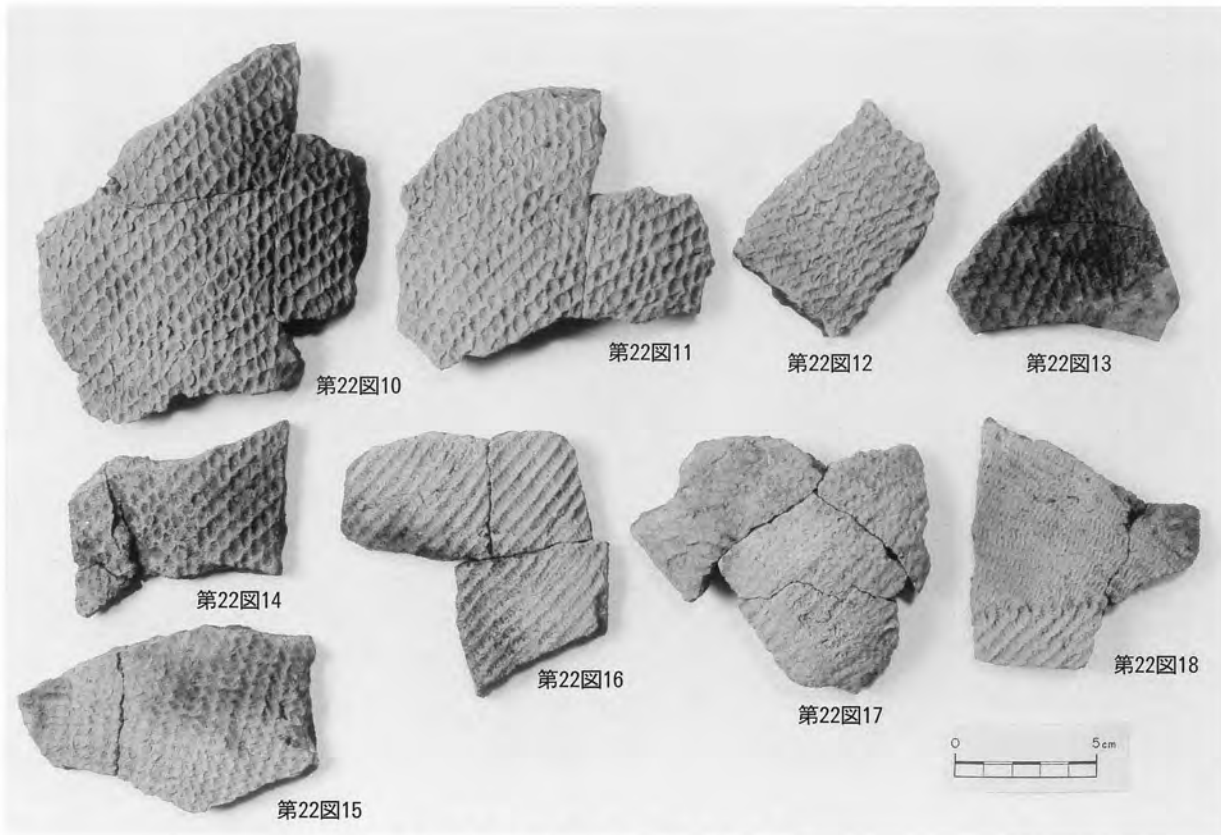
75. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物（6）



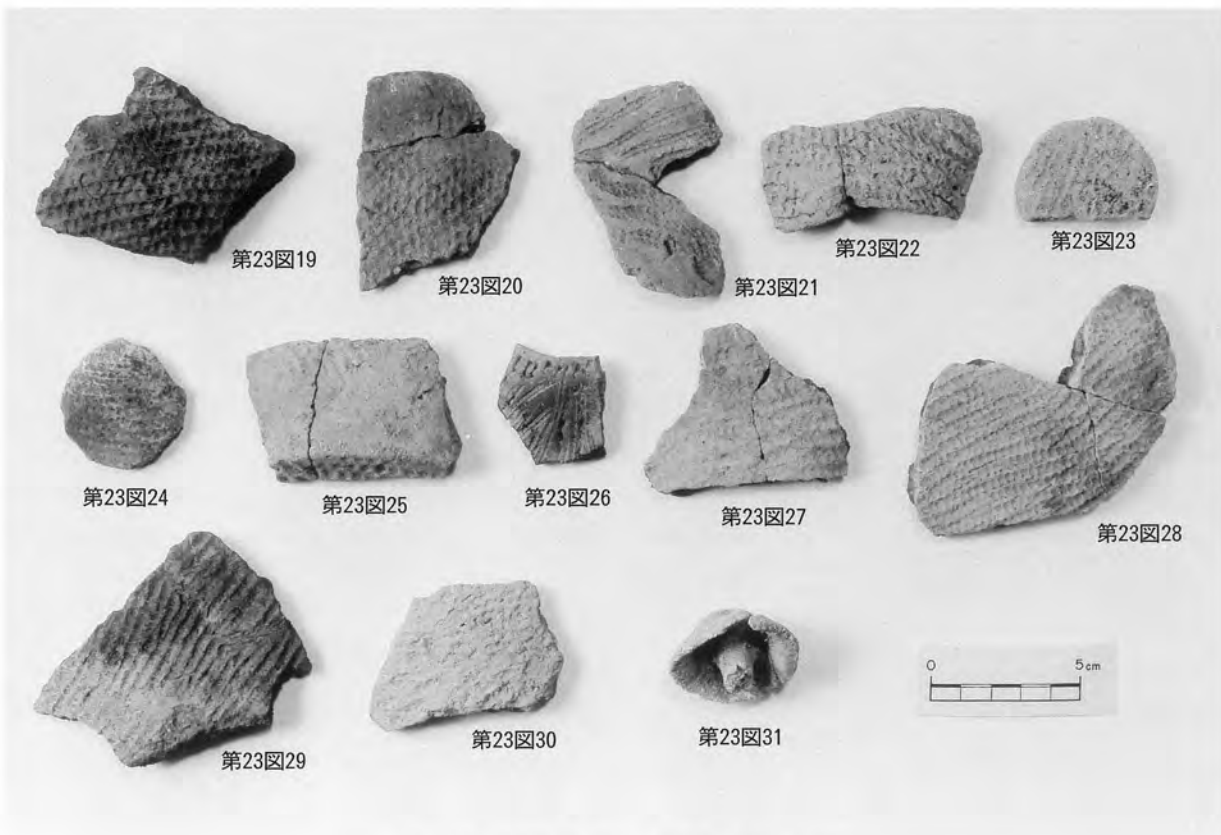
76. 蜂ヶ沢 I 遺跡 出土遺物 (7)



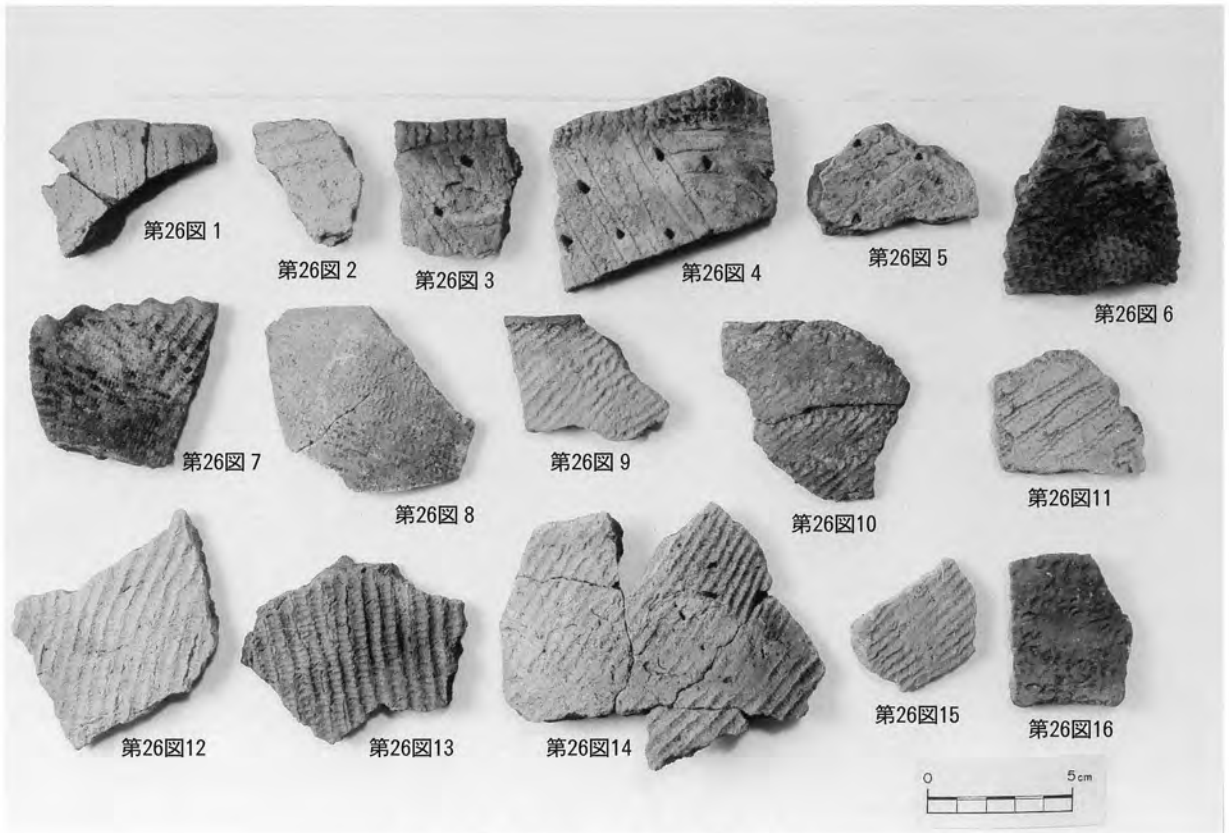
77. 蜂ヶ沢 I 遺跡 出土遺物 (8)



78. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物（9）



79. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物（10）



80. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物 (11)



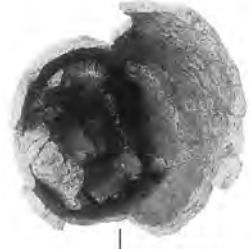
81. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物 (12)



第9図 2



第10図 20



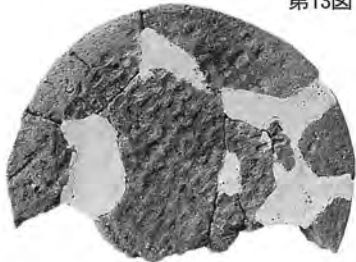
第10図 21



第13図 1



第13図 2



第13図 5



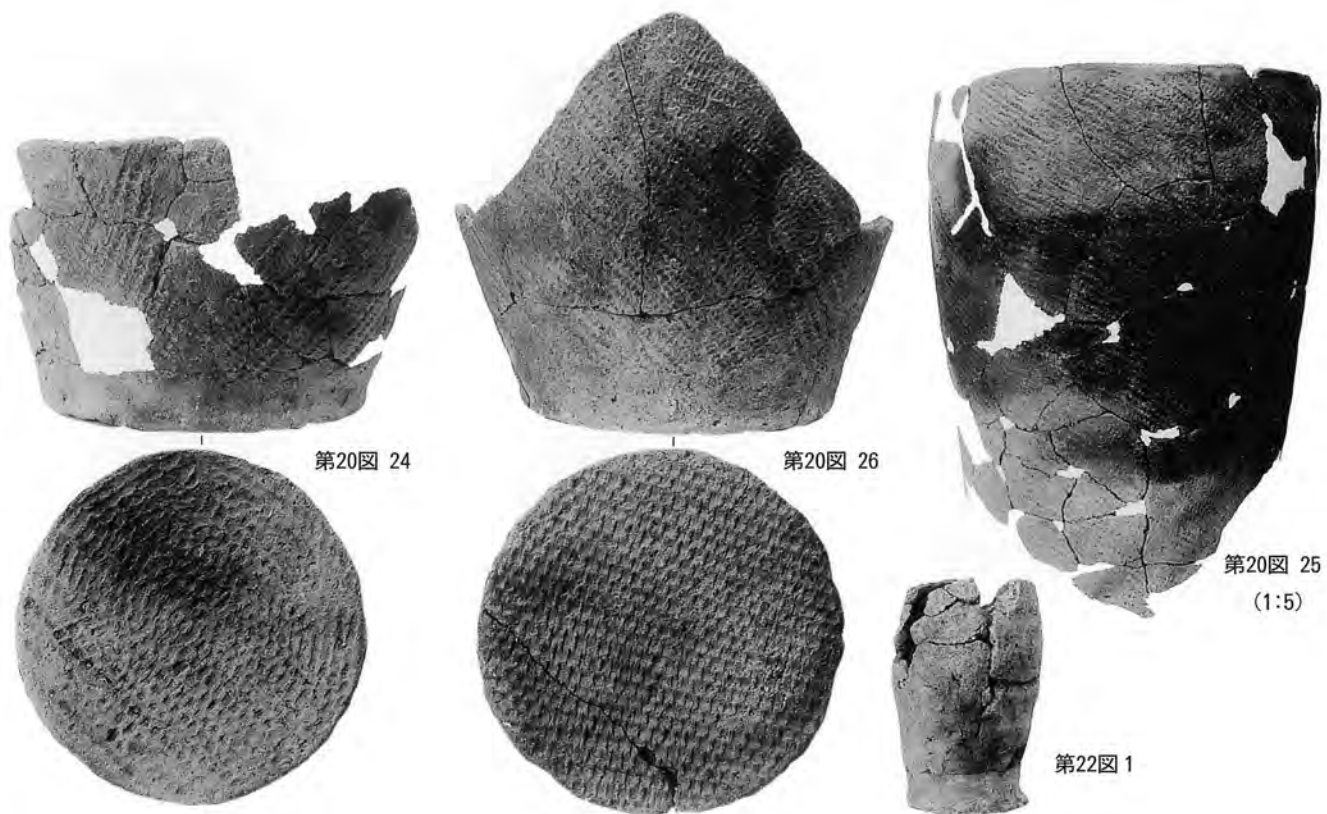
第13図 6



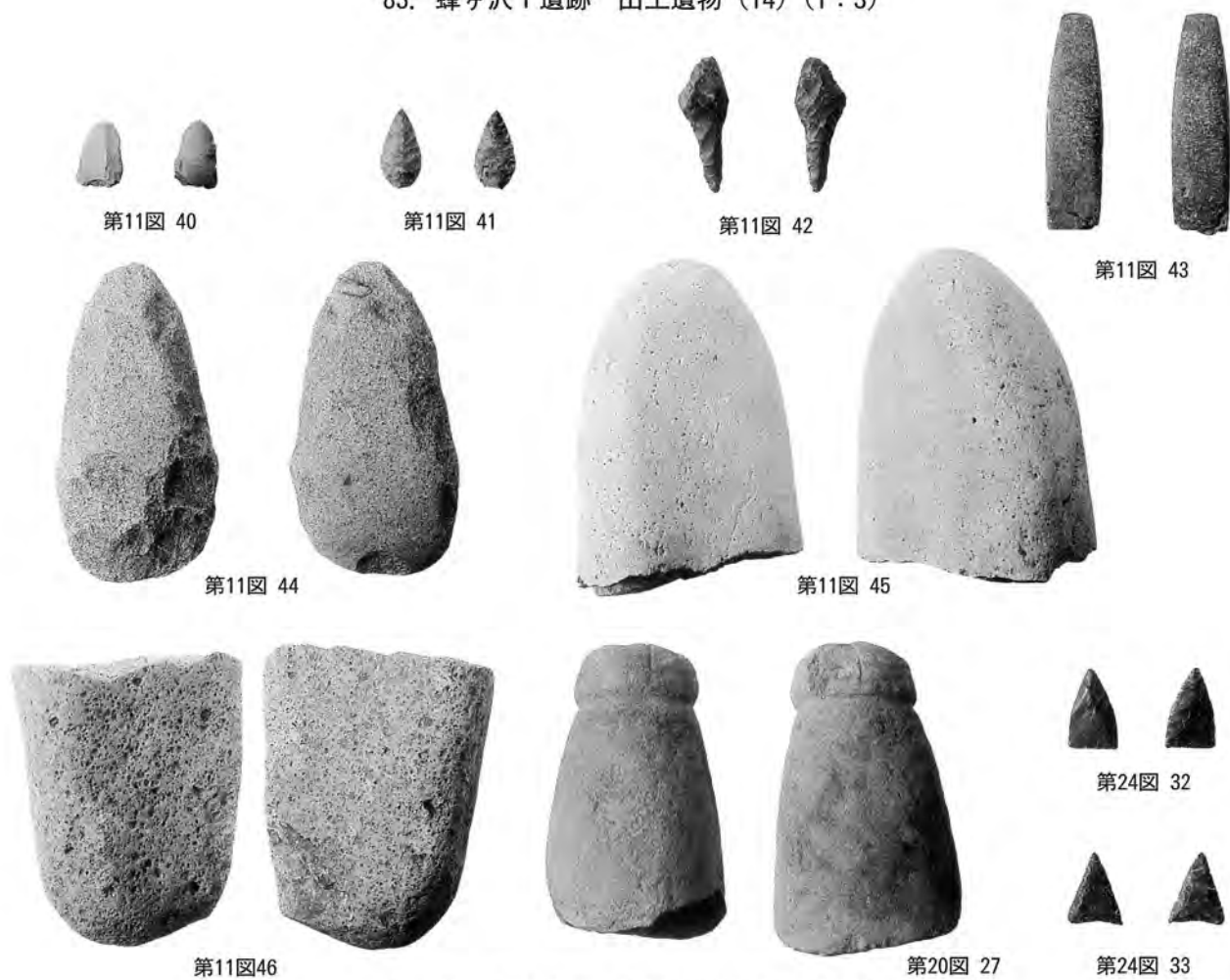
第14図 7
(1:4)



82. 蜂ヶ沢 I 遺跡 出土遺物 (13) (1:3)



83. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土遺物 (14) (1:3)



84. 蜂ヶ沢Ⅰ遺跡 出土石器 (1) (1:2)



第24図 34



第24図 35



第24図 36



第24図 37



第24図 38



第24図 39



第24図 40



第24図 41



第24図 42



第24図 43



第24図 44



第24図 45



第24図 46



第24図 47



第26図 17



第26図 18



第25図 48 (1:3)

85. 蜂ヶ沢 I 遺跡 出土石器 (2) (1:2)

報告書抄録

ふりがな	ばちがさわ1・やまぐちこまごめ1・やまぐちこまごめ2							
書名	蜂ヶ沢I遺跡・山口駒込I遺跡・山口駒込II遺跡							
副書名	市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	81							
編著者名	長谷川真							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1 TEL.0193-68-9122 FAX.0193-72-2176							
発行年月日	2014/3/28							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ばちがさわ 蜂ヶ沢I 遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 ちかないだい ちわり 近内第5地割ほか	03202	LG23-2104	39°39'12"	141°55'12"	161012～ 161104 170630～ 170912	128 m ² 約280 m ²	市道蜂ヶ沢 線道路改良 工事に伴う 本調査・試 掘調査
やまぐちこまごめ 山口駒込I 遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やまぐちだい ちわりこまごめ 山口第9地割駒込	03202	LG23-2244	39°39'4"	141°55'44"	190412～ 190514 211006～ 211013	16.2 m ² 3.75 m ²	市道蜂ヶ沢 線道路改良 工事に伴う 試掘調査
やまぐちこまごめ 山口駒込II 遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やまぐちだい ちわりこまごめ 山口第9地割駒込	03202	LG23-2231	39°39'8"	141°55'40"	190412～ 190514	9.3 m ²	市道蜂ヶ沢 線道路改良 工事に伴う 試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
蜂ヶ沢I 遺跡	集落跡	縄文・古代	竪穴住居跡 焼土遺構 陥し穴 土坑 ピット 遺物包含層	1棟 2基 4基 1基 32基	縄文土器・石器 石棒・アスファルト		縄文時代の竪 穴住居跡や陥 し穴などの遺 構を検出	
山口駒込I 遺跡	集落跡	縄文・奈良	—		—		遺構・遺物は 確認されな かった	
山口駒込II 遺跡	集落跡	—	—		—		遺構・遺物は 確認されな かった	

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- | | | | | | |
|----|------|--|----|------|---|
| 1 | 1979 | 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』 | 46 | 1995 | 『花原市遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』 |
| 2 | 1980 | 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』 | 47 | 1995 | 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲栃VI遺跡・崎山貝塚』 |
| 3 | 1983 | 『宮古市遺跡分布調査報告書1』 | 48 | 1996 | 『大付遺跡－平成5年・6年度発掘調査報告書－』 |
| 4 | 1984 | 『宮古市遺跡分布調査報告書2』 | 49 | 1997 | 『花原市遺跡－平成8年度発掘調査報告書－』 |
| 5 | 1984 | 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』 | 50 | 1997 | 『白石遺跡－第6次発掘調査報告書－』 |
| 6 | 1985 | 『宮古市遺跡分布調査報告書3』 | 51 | 1998 | 『赤畑・天神山・山口館－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』 |
| 7 | 1985 | 『金浜館跡発掘調査報告書』 | 52 | 1998 | 『藤畑遺跡－平成9年度発掘調査報告書－』 |
| 8 | 1986 | 『宮古市遺跡分布調査報告書4』 | 53 | 1999 | 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡－水産課津整石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』 |
| 9 | 1986 | 『宮古市遺跡分布図－昭和60年度版－』 | 54 | 1999 | 『千利Ⅳ遺跡－水産課千利地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』 |
| 10 | 1986 | 『中谷地・島田遺跡調査報告書』 | 55 | 1999 | 『崎山貝塚－第12次・13次内容確認調査概報』 |
| 11 | 1987 | 『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』 | 56 | 2000 | 『木戸井内Ⅵ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡－特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』 |
| 12 | 1987 | 『寒風・早稲栃Ⅳ遺跡調査報告書』 | 57 | 2002 | 『山口館跡－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』 |
| 13 | 1987 | 『崎山遺跡群Ⅰ－昭和60年度発掘調査概報－』 | 58 | 2002 | 『小沢Ⅵ大上遺跡－市内遺跡発掘調査報告書2－』 |
| 14 | 1988 | 『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)－昭和62年度発掘調査報告書－』 | 59 | 2003 | 『大又沢Ⅵ遺跡－東北電力宮古へりボート移設工事関係発掘調査報告書－』 |
| 15 | 1988 | 『崎山遺跡群Ⅱ－昭和62年度発掘調査概報－』 | 60 | 2003 | 『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡－市内遺跡発掘調査報告書3－』 |
| 16 | 1989 | 『千利遺跡－昭和62年度発掘調査報告書－』 | 61 | 2003 | 『早稲栃Ⅵ遺跡第6次調査－市内遺跡発掘調査報告書4－』 |
| 17 | 1989 | 『トロノ木Ⅰ遺跡－第1～7次発掘調査報告書－』 | 62 | 2003 | 『下在家Ⅰ遺跡－平成14年度発掘調査報告書－』 |
| 18 | 1989 | 『崎山遺跡群Ⅲ－昭和63年度発掘調査概報－』 | 63 | 2004 | 『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡－市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書－』 |
| 19 | 1989 | 『高根遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』 | 64 | 2005 | 『弘川館跡－瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書－』 |
| 20 | 1989 | 『狐崎Ⅵ遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』 | 65 | 2006 | 『高浜Ⅵ地神遺跡－高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書－』 |
| 21 | 1989 | 『崎山トロノ木Ⅳ遺跡－昭和63年度調査報告書－』 | 66 | 2006 | 『崎山貝塚第20次調査・早稲栃Ⅱ遺跡第7次調査－市内遺跡発掘調査報告書5－』 |
| 22 | 1990 | 『狐崎遺跡－平成元年度発掘調査報告書－』 | 67 | 2006 | 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡－市道岸ノラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書－』 |
| 23 | 1990 | 『崎山遺跡群Ⅳ－平成元年度発掘調査概報－』 | 68 | 2006 | 『木戸井内Ⅳ遺跡－宮古市生活課市宮火葬場整備事業関係発掘調査報告書－』 |
| 24 | 1990 | 『磯鶏館山遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』 | 69 | 2006 | 『菅ノ沢遺跡発掘調査－市内遺跡発掘調査報告書6－』 |
| 25 | 1990 | 『鎌ヶ崎崎山貝塚－平成元年度発掘調査報告書－』 | 70 | 2007 | 『山口館跡－市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』 |
| 26 | 1991 | 『崎山遺跡群Ⅴ－平成2年度発掘調査概報－』 | 71 | 2007 | 『近内館跡－宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書－』 |
| 27 | 1991 | 『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群－平成元年・2年度発掘調査報告書－』 | 72 | 2007 | 『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査－市内遺跡発掘調査報告書7－』 |
| 28 | 1990 | 『熊野町遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』 | 73 | 2007 | 『弘川館跡第2次調査－宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書－』 |
| 29 | 1991 | 『弘川Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』 | 74 | 2008 | 『荷竹日向Ⅳ遺跡－市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書』 |
| 30 | 1992 | 『金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』 | 75 | 2008 | 『宮古市遺跡分布調査報告書5』 |
| 31 | 1992 | 『重茂館遺跡群－第1次調査報告書－』 | 76 | 2009 | 『国指定史跡崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報(骨角器篇)』 |
| 32 | 1992 | 『黒森町Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』 | 77 | 2010 | 『宮古市遺跡分布調査報告書6』 |
| 33 | 1992 | 『高根遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』 | 78 | 2011 | 『宮古市遺跡分布調査報告書7』 |
| 34 | 1992 | 『鯉沢遺跡群－平成2年度発掘調査報告書－』 | 79 | 2012 | 『重茂館遺跡群－第2次発掘調査報告書－』 |
| 35 | 1992 | 『大付遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』 | 80 | 2014 | 『八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡－市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書－』 |
| 36 | 1992 | 『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅵ遺跡－農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書－』 | | | |
| 37 | 1992 | 『崎山遺跡群Ⅵ－平成3年度発掘調査概報－』 | | | |
| 38 | 1993 | 『萩沢Ⅵ遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』 | | | |
| 39 | 1993 | 『早稲栃Ⅴ遺跡－第1次・第2次発掘調査報告書－』 | | | |
| 40 | 1993 | 『崎山遺跡群Ⅶ－平成4年度発掘調査概報－』 | | | |
| 41 | 1994 | 『崎山遺跡群Ⅷ－平成5年度発掘調査概報－』 | | | |
| 42 | 1995 | 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』 | | | |
| 43 | 1995 | 『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』 | | | |
| 44 | 1995 | 『崎山貝塚－範囲確認調査報告書－』 | | | |
| 45 | 1995 | 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・塙ノ神遺跡－市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』 | | | |

宮古市埋蔵文化財調査報告書 81

蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡

－市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書－

2014.3

平成 26 年 3 月 28 日発行

発 行 岩手県宮古市教育委員会
〒028-2101 宮古市茂市第 2 地割 112 番地 1
TEL.0193-68-9122

印 刷 有限会社 宮古プリント
〒027-0052 岩手県宮古市宮町 1 丁目 4-33
